

9 貝類

1 分類群概要

(1) 陸産貝類

三重県においては、北部の御池岳・藤原岳など鈴鹿山系の山々に大規模な石灰岩地が存在し、県下で最多の陸産貝類の確認種数を有する地域であると共に、国内有数の陸産貝類生息地でもある（早瀬・他，2014）。ここでは、伊吹・養老・鈴鹿山系に固有のイブキムシオイ、ミカドギセル、シリボソギセルのほか、この地域に偏った分布傾向があるヤマキサゴ（モミジヤマキサゴ型）、ヒルゲンドルフマイマイ、イブキクロイワマイマイが見られる。志摩半島を中心とする地域にはニッポンマイマイ類の一型であるシママイマイが分布し、ホソヤカギセルやミカワギセルなどの愛知県、静岡県との共通種も見られる。志摩半島より三重県南部にかけて分布するヒメビロウドマイマイは、紀伊半島南部の固有種でもあり、殻や解剖学的特徴に地域での分化が確認されること（早瀬・多田，2013）においても、県下の貴重な種のひとつである。三重県南部にはさらに、キイゴマガイ、ゼイギセル、キイツムガタギセル、アナナシマイマイなどの和歌山県を中心に分布する紀伊半島南部要素との強い共通性をもつ種が生息している。三重県全域には、144種の陸産貝類が生息するとされているが（松本，1979）、これらの記録種のなかには多くの誤認記録や分布の不明確な記録も存在している上に、近年も新たな確認種の報告が続いており、三重県下の陸産貝類相の解明はまだ中間点に過ぎない状況にある。したがって、三重県新記録種などの新たな発見は今後も続くことが予想される。今後の新発見となる種が、近年の開発や自然災害の影響に伴う急速な自然環境の荒廃により、発見と同時に絶滅危惧種となることは、今回の「三重県レッドデータブック改訂に係る現地調査」でのシリボソギセルの発見の例と同様、稀ではなくなりつつあるのかもしれない。三重県下の陸産貝類相の全容把握がされていない現状では、検討対象となる絶滅危惧種のみでの調査だけでは不備が多く、今回のレッドデータブック改訂に係る現地調査では、貝類相全体の解明目的の調査を兼ねることも必要とされた。今回の成果は、今後も三重県下での陸産貝類の詳細な分布および相調査の実施の必要性を強く示した。

(2) 淡水産貝類

三重県は北より主な水系として員弁川、鈴鹿川、安濃川、雲出川、櫛田川、宮川など豊かな水源を持つ水系に恵まれ、平野部にはその支流や灌漑水路、ため池が発達し、淡水産貝類の生息にとって好適な地域であった。また、三重県は豊かな淡水貝類相を持つ琵琶湖水系と関わりの深い地域として元来多種の淡水産貝類が生息していた。しかし、豊かな淡水貝類相が保存されていたのは1960年代までで、1970年以降平野部の水系は各種排水による富栄養化、水質汚濁、河川改修工事による生息環境の破壊（底質の改変、流量の低下）、水源である森林の荒廃による保水力の低下に伴う河川水の水質の変化など、県内の淡水産貝類の生息状況は著しく悪化した。また淡水産貝類の好適な生息場所自体が消失したと考えられる水系も多い。特に水量豊かで、緩やかな流れの丘陵部から平野部の中・下流域の砂底に生息するイシガイ科貝類の減少は著しい。その中でもオバエボシガイ、カタハガイ、ヨコハマシジラガイの生息状況は危機的である。現在の淡水貝類相の調査においては、水質汚濁に強い一部の在来種や外来種以外は限られた範囲にしろうじて生き残った小規模な個体群のみ確認される場合がほとんどである。

(3) 海産貝類

便宜的に生息場所の分類では海産貝類とするが、淡水貝との区別が明確でない種も含まれている。既に2005年の三重県レッドデータブックで「河口域及び干潟の貝類」として海産貝類は掲載されていたが、さらに干潟域（干潟から潮下帯に生息する種も含まれる）の貝類が大量にリストアップされた環境省の第4次レッドリストに対応したため、本書での海産貝類は内容的には内湾性貝類がほとんどを占める。ただし、湾口から外洋にかけての潮下帯の岩礁域に主生息域が残されているイガイは内湾性種とは言えないが、最近詳細な分布調査が行われ、過去の記録も検討された結果、著しい減少傾向が確認された（佐藤・木村，2013）。従って、干潟種ではない海産貝類もリストアップされている。

三重県は日本有数の広大な内湾域の伊勢湾、温暖な外洋水の影響の強い英虞湾、県南部のリアス式海岸に点在する小規模な河口域と変化に富んだ環境の内湾域を有し、非常に多様な貝類の生息が確認されている。東京湾以北では生息が確認できなくなった種が現在も多種生息している伊勢湾、南方系の多くの内湾性貝類の現在の分布北限となっている英虞湾など生物地理学的視点でも非常に重要で、多くの絶滅危惧種が今もお生息する海域として積極的に分布調査、モニタリングをすると共にそのデータを元に生息環境を保全していかなければならない。

2 調査内容と結果

(1) 陸産貝類

三重県下では、陸産貝類相の全容がいまだ明確でないことから、三重県産貝類目録（松本，1979）の掲載種などを中心にその分布や生息状況の確認や検討を行った。さらに、名古屋貝類談話会誌「かきつばた」

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

に掲載された三重県下での貝類の最近の情報も広く活用した。現地調査にあたっては、「三重県レッドデータブック改訂に係る現地調査」として2012～2013年度に個人および貝類部会合同調査を実施した。調査の一部は、名古屋貝類談話会会員の多くのボランティアでの協力も得て行われた。レッドデータブック改訂に係る現地調査（委員のボランティア調査も含む）によって、三重県ではきわめて稀産の新記録種（イノウエヤマトガイ（早瀬・他，2015）、シリボソギセル（早瀬・他，2014）など）の発見や最近まで存在が知られていなかったシロモリサキギセルの生息確認もあった。一方、環境省第4次レッドリストに新たに追加され三重県に生息する4種（サドヤマトガイ、オオギセル、キイツムガタギセル、エルベリギセル）については、現地調査や資料検討などを通じて2005年版三重県レッドデータブックに既に掲載されていたサドヤマトガイ、キイツムガタギセルを除く他の2種に関して、県内での減少傾向や希少性が認められずLC（低懸念）とした。このほか、タカキビは三重県内での分布情報が多いために今回はLC（低懸念）としたものの、分類学的問題も多く含む種であり今後も注意が必要な種である。2005年版三重県レッドデータブックには掲載がなく今回の新規掲載種となるものは、42種（内、DDは11種）であった。このなかで、シママイマイは、三重県中～南部において、広く分布している種であり広義のニッポンマイマイ（本州・四国広域分布種）でもある。しかし、同様に広義のニッポンマイマイの一型であるカナマルマイマイと同一視点で評価すれば、ニッポンマイマイ類の三重県固有の一型として重要であり、「シメクチマイマイ」もまた同様である。シママイマイと「シメクチマイマイ」は同所分布し生殖的隔離があると思われる。このような観点においても、各形態型は、カナマルマイマイをはじめとするニッポンマイマイ類の形態的分化やその過程を考える上で重要な個体群であり、特に三重県固有の形態的特徴であることも重視して準絶滅危惧種（NT）に取り上げた。このことは、本改訂レッドデータブック掲載種の大きな特徴のひとつである。なお、新規掲載種の増加要因については、個体群減少の危険性が増大したと考えられる種の増加が大きい。今回の改訂レッドデータブックに係る現地調査での、これまで見落とされていた新たな種の発見および名古屋貝類談話会会員による名古屋貝類談話会誌「かきつばた」上での三重県産貝類に関する多くの最新の報告や調査記録などが大きく寄与した結果でもある。

(2) 淡水産貝類

三重県の淡水産貝類相については、松本（1979）、木村（1994）で大枠は把握されている。しかし、2013年に三重県より初めて記録されたミズコハクガイ（守谷・河辺，2013）で代表されるヒラマキガイ科貝類相の解明、移入種もしくは移入個体群と考えられるモノアラガイ類、ドブガイの2型の詳細な分類学的な検討と共に分布域の解明など課題は残されている。さらに淡水産貝類の分布の現状を解明する意味では、私有地が多く水深が深く調査が困難な湖沼、ため池の調査、大きな水系から派生している小河川、用水路などにおける詳細な分布調査はまだ不十分で、今後も詳細な調査が不可欠であろう。

(3) 海産貝類

ベントス学会編集による干潟の絶滅危惧動物図鑑（2012）で多くの内湾性貝類が危機的な生息状況であることが明らかにされ、これに促される形で環境省の第4次レッドリストにおいて、内湾域の干潟から潮下帯に生息する多くの種が新規にリストアップされ、従来含まれていた塩性湿地、河口域、汽水域に生息する種についても大幅な見直しが行われ、ランクの変更と共にこの生息域の貝類も多くの種が新たにリストアップされた。今回の三重県版レッドデータブックにおいても、環境省の変更に対応して、大幅にリストの見直しが行われた。

干潟に主分布域がある種については、環境省の全国干潟調査、モニタリング1000に伴う調査、三重大学生物資源学部海洋生態学研究室で行っている伊勢湾、英虞湾の分布調査やモニタリング（英虞湾については志摩市主催のモニタリングで得たデータも活用されている）、五ヶ所湾、伊勢湾など名古屋貝類談話会の調査会で行われている調査、県南部の内湾域、汽水湖など委員の個人的な調査のデータ等を活用した。

今回の環境省にリストアップされた種の中には干潟にも生息するが、主生息域が潮下帯の種も多くあり、分布調査やモニタリングは容易ではない。それらのデータとしては三重大学生物資源学部練習船勢水丸によるベントスネットのデータ、同海洋生態学研究室によるドレッジ調査のデータを活用した。さらに委員の個人的な潜水調査、漁業に伴う残渣の調査によるデータも活用した。いずれにしても伊勢湾から県南部の内湾域の塩性湿地、干潟から潮下帯までの貝類相を網羅することは容易な作業ではなく、未だ完成していない。現在あるデータを最大限に活用し客観的に判断したが、情報不足と判断された種が多いことから明白なように、今後も積極的な分布調査、モニタリングが必要である。環境省、大学、個人だけではなく県のバックアップ体制も必要である。

3 絶滅危惧種の概要

(1) 陸産貝類

改訂レッドデータブックにおける掲載種は、63種（絶滅危惧ⅠA類（CR）：4種、絶滅危惧ⅠB類（EN）：10種、絶滅危惧Ⅱ類（VU）：7種、準絶滅危惧種（NT）：31種、情報不足（DD）：11種）であった。先述した通り2005年版に掲載がなく今回の新規掲載種となるものは、42種（CR：2種、EN：3種、VU：3種、

NT：23種，DD：11種）であった。このほか，2005年版よりランクの上がった種は2種（ヤマメタニシ：VU→CR，ミヤマヒダリマキマイマイ：VU→EN），DDより各ランクに移行した種は2種（ベニゴマガイ：DD→VU，タシナミオトメマイマイ：DD→NT），ランクの下がった種は1種（キョウトギセル：VU→NT）であった。ヤマメタニシは，三重県北部の石灰岩地域での分布が知られていた種であるが，今回の「三重県レッドデータブック改訂に係る現地調査」での生息確認がなく，最近の文献による生息報告も見られない。ミヤマヒダリマキマイマイは，かつて多くの個体が確認された藤原岳山麓部などでは全く目撃されなくなり，御池岳における生息地でも環境悪化により生息が危ぶまれる状況である。両種ともに急激な減少要因には，生息地の植生のシカ食害による消失のほか，豪雨や土石流発生など自然災害に伴う鈴鹿山系北部石灰岩地の危機的な環境悪化が起因すると考えられている。キョウトギセルについては，環境荒廃が大きく取り上げられる鈴鹿山系北部石灰岩地に大きな個体群が存在する種であるが，本種に関しては，例外的に他の競合種が存在しない環境に進出し増殖する傾向が強い種なのか最近の調査においては，多数確認されている。そのため，一時的な増加傾向に過ぎない可能性もあるが現状としてランクを下げた。一方，先述の環境省第4次レッドリストに新たに追加されたオオギセル，エルベリギセルの2種については，三重県には広く分布しており，現状として明確な減少傾向がないと判断しLCとした。なお，エルベリギセルについては，ウスベニギセルを同一種とみなし判断した。既に記したが，北部石灰岩地の自然環境の荒廃は，開発も伴い今や危機的な状況にあり，絶滅危惧種のみではなくそこに生息する陸産貝類全体の死活問題になりつつある。かつて普通種と言えるほど多産したヤマキサゴ，ヒルゲンドルフマイマイなどが今回掲載されたのもこのような経緯による。また，微小種や小型種を中心とし，いまだ三重県新記録種の発見は絶えない。新発見される微小種や小型種には，その希少性，分布域の狭さ，生物地理的重要性などを重視し，かつ現状の生息状況もふまえた結果，絶滅危惧種に掲載されたものも多い。

(2) 淡水産貝類

改訂レッドデータブックにおける掲載種は，13種（絶滅危惧 I A類 (CR)：2種，絶滅危惧 I B類 (EN)：1種，絶滅危惧 II類 (VU)：3種，準絶滅危惧種 (NT)：6種，情報不足 (DD)：2種）である。今回，ドブガイがNTに新規掲載された。ドブシジミがDD→NTへ移行した。ランクダウンした種はなく，マルタニシがNT→VUとランクアップされた。上述の3種のランク変更については本文参照。

三重県に分布する淡水産貝類の約半数が絶滅危惧種と判断された。前述したイシガイ科貝類は全種が絶滅危惧種と判断された。

(3) 海産貝類

改訂レッドデータブックにおける掲載種は，162種（絶滅危惧 I A類 (CR)：12種，絶滅危惧 I B類 (EN)：25種，絶滅危惧 II類 (VU)：41種，準絶滅危惧種 (NT)：48種，情報不足 (DD)：36種）である。今回の新規掲載種となるものは，119種（絶滅危惧 I A類 (CR)：6種，絶滅危惧 I B類 (EN)：17種，絶滅危惧 II類 (VU)：29種，準絶滅危惧種 (NT)：31種，情報不足 (DD)：36種）と非常に多い。

前回の情報不足判定からランク付けされた種として，ハナグモリ (DD→CR)，ホソコオロギ，コオキナガイ (DD→EN)，サザナミツボ，ミズゴマツボ，マゴコロガイ (DD→VU) の6種がある。いずれの種も高いランクに判断された。

前回からランクアップした種は，タケノコカワニナ，キヌカツギハマシイノミガイ (VU→EN)，オカミミガイ (NT→VU) の3種である。ランクダウンした種はシイノミミガイ (CR→EN)，ハマグリ (VU→NT)，ウスコミミガイ，ナギサノシタタリガイ (NT→LC) の4種である。ウスコミミガイ，ナギサノシタタリガイは伊勢湾口部から県南部のリアス式海岸に点在する内湾奥の礫底から外洋に面した転石帯まで比較的広い範囲で多くの産地が見つかったため，リスト外の種と判断された。上述のLC2種以外の各種のランク変更については本文参照。

海産貝類の大部分の種の選定理由には，誌面節約のため以下の様な簡略化した用語を用いた。用語については，日本ベントス学会 (2012) に準じた。選定理由を以下の5項目とした。「個体数・個体群の減少」「生息条件の悪化」「分布域限定」「希少」「特殊生息環境」。

「個体数・個体群の減少」：個体数・個体群に明らかな減少傾向が見られる。

「生息条件の悪化」：生息条件が環境・生態系の変化・開発・汚染などによって悪化している。

「分布域限定」：種の分布域が限定されており狭い。

「希少」種：種の生息個体数，発見例が少ない。

「特殊生息環境」：限定された環境や，特定種との共生関係にあり，生息基盤が脆弱である。

また各論における保護対策については現在までに行われている事例のみを挙げた。全種に共通して言えることは，陸上植生を含む塩性湿地から干潟，潮下帯へと連続する生息環境の保全，森林の保全から始まる河川水の保全，人間活動による有機物負荷の軽減を含む河川から河口域，海域の水質保全などがあげられる。

また，その生息環境に生息する貝類を詳細かつ継続的にモニタリングすることが保護対策の第1歩である。

| |
|---------|
| 哺乳類 |
| 鳥類 |
| 爬虫類 |
| 両生類 |
| 汽水・淡水魚類 |
| 昆虫類 |
| クモ類 |
| 貝類 |
| 甲殻類 |
| その他動物 |

| |
|----|
| EX |
| EW |
| CR |
| EN |
| VU |
| NT |
| DD |

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
EW
EW
CR
EN
VU
NT
DD

文 献

- 早瀬善正・木村昭一・河辺訓受. 2015. イノウエヤマトガイの三重県北部における新分布記録. *Venus*, 73(1-2): 79-83.
- 早瀬善正・木村昭一・河辺訓受・矢橋 真・守谷茂樹・西 浩孝・岩田明久. 2014. 藤原岳・多志田峽・御池岳その周辺地域の陸産貝類相. *かきつばた*, 39: 1-24.
- 早瀬善正・多田 昭. 2013. 奈良県十津川村(タイプ産地)のヒメビロウドマイマイの特徴, および紀伊半島各地の個体群との比較. *ちりばたん*, 42(1-4): 22-29.
- 環境省, 2012. (別添資料7-6) 貝類のレッドリスト, 報道発表資料, 第4次レッドリストの公表について(お知らせ), 28 pp. 環境省, 東京. (<http://www.env.go.jp/press.php?serial 15619>)
- 木村昭一. 1994. 東海地方の淡水貝類相. 全国高等学校水産教育研究会. 研究彙報(第33報): 14-34.
- 木村昭一. 2007. 日本本土に分布するトガリユウシオガイ. *ちりばたん*, 38(1-2): 27-31.
- 木村昭一. 2008. 五ヶ所湾観察・調査報告. *かきつばた*, 33: 51-54.
- 木村昭一・木村妙子. 2004. 豊かな内湾の貝類相—三重県英虞湾—. *Venus*, 63(1-2): 71.
- 松本幸雄. 1979. 三重の貝類(三重県産貝類目録). 鳥羽水族館, 鳥羽. 179 pp.
- 三重県. 2006. 三重県レッドデータブック2005 動物. (財)三重県環境保全事業団, 津, 498 pp.
- 守谷茂樹・河辺訓受. 2013. 三重県, 愛知県で確認されたミズコハクガイ. *かきつばた*, 38: 50-51.
- 日本ベントス学会編. 2012. 干潟の絶滅危惧動物図鑑—海岸ベントスのレッドデータブック. 東海大学出版会. 秦野. 285 pp.
- 佐藤達也・木村昭一. 2013. 三重県伊勢湾湾口域におけるイガイの生息状況. *かきつばた*, 38: 35-40.
- 田部雅昭・福原修一・長田芳和. 1994. 淡水産二枚貝ドブガイに見られる遺伝的II型. *Venus*, 53(1): 29-35.

(陸産貝類: 早瀬善正, 淡水産・海産貝類: 木村昭一)

除外種

「三重県レッドデータブック2005 動物」掲載種のうち, 今回の改訂により低懸念(LC)と判定された種とその理由は以下のとおりである.

(表9-1) 改訂により低懸念(LC)となった種

| No. | 綱名 | 科名 | 和名 | 改訂前 県ランク | 除外理由 |
|-----|----|--------|------------|-------------|-------------------------------------|
| 1 | 腹足 | オカミミガイ | ウスコミミガイ | NT | 熊野灘沿岸部を中心に県内に広く分布していることが確認されたため. |
| 2 | 腹足 | オカミミガイ | ナギサノシタタリガイ | NT | 伊勢湾から熊野灘沿岸かけて県内に広く分布していることが確認されたため. |

貝類レッドリスト

絶滅危惧IA類(CR)

| | 綱名 | 科名 | 和名 | 学名 | 環境省 | 掲載P. |
|-----|-----|----------|-----------|--|-------|------|
| 陸産 | 腹足 | イツマデガイ | ヤママメタニシ | <i>Fukuia integra</i> | CR+EN | 307 |
| 陸産 | 腹足 | キセルガイ | カスガコギセル | <i>Pictophaedusa hungerfordiana</i> | CR+EN | 307 |
| 陸産 | 腹足 | キセルガイ | シリボソギセル | <i>Tyrannophaedusa iotaptyx</i> | NT | 307 |
| 陸産 | 腹足 | ナンバンマイマイ | ウロコマイマイ | <i>Satsuma lepidophora</i> | CR+EN | 308 |
| 淡水産 | 二枚貝 | イシガイ | オバエボシガイ | <i>Inversidens (Inversidens) brandti</i> | VU | 308 |
| 淡水産 | 二枚貝 | イシガイ | ヨコハマシジラガイ | <i>Inversiunio jokohamensis</i> | NT | 309 |
| 海産 | 腹足 | ニシキウズ | イボキサゴ | <i>Umbonium moniliferum</i> | NT | 309 |
| 海産 | 腹足 | アマオブネ | ヒメカノコ | <i>Clython aff. oualaniensis</i> | NT | 309 |
| 海産 | 腹足 | タマガイ | ゴマフダマ | <i>Paratectonatica tigrina</i> | CR+EN | 310 |
| 海産 | 腹足 | エゾバイ | オガイ | <i>Cantharus cecillei</i> | CR+EN | 310 |
| 海産 | 腹足 | タモトガイ | マルテンスマツムシ | <i>Mitrella martensi</i> | CR+EN | 310 |
| 海産 | 腹足 | オリイレヨフバイ | ウネムシロ | <i>Hima hiradoensis</i> | CR+EN | 311 |
| 海産 | 腹足 | トウガタガイ | マキモノガイ | <i>Leucotina diana</i> | CR+EN | 311 |
| 海産 | 二枚貝 | フネガイ | ヒメアカガイ | <i>Anadara (Scapharca) troscheli</i> | CR+EN | 311 |
| 海産 | 二枚貝 | イタボガキ | イタボガキ | <i>Ostrea denselamellosa</i> | CR+EN | 312 |
| 海産 | 二枚貝 | ニッコウガイ | イチョウシラトリ | <i>Serratina diaphana</i> | CR+EN | 312 |

| | | | | | | |
|----|-----|--------|--------|----------------------------------|-------|-----|
| 海産 | 二枚貝 | シオサザナミ | フジナミガイ | <i>Soletellina boeddinghausi</i> | CR+EN | 312 |
| 海産 | 二枚貝 | ハナグモリ | ハナグモリ | <i>Glauconome angulata</i> | VU | 313 |

絶滅危惧IB類 (EN)

| | 綱名 | 科名 | 和名 | 学名 | 環境省 | 掲載P. |
|-----|-----|----------|--------------------------------|--|-------|------|
| 陸産 | 腹足 | ムシオイガイ | イブキムシオイ | <i>Cipangocharax</i> sp. | | 313 |
| 陸産 | 腹足 | ノミガイ | ノミガイ | <i>Tornatellides boeningi</i> | VU | 313 |
| 陸産 | 腹足 | キバサナギガイ | キバサナギガイ | <i>Vertigo hirasei</i> | CR+EN | 314 |
| 陸産 | 腹足 | キセルガイ | カギヒダギセル | <i>Mundiphaedusa heteroptyx</i> | VU | 314 |
| 陸産 | 腹足 | キセルガイ | ヒロクチコギセル | <i>Reinia variegata</i> | CR+EN | 314 |
| 陸産 | 腹足 | キセルガイ | ミカドギセル | <i>Tyrannophaedusa mikado</i> | NT | 315 |
| 陸産 | 腹足 | ナンバンマイマイ | カナマルマイマイ | <i>Satsuma japonica kanamarui</i> | CR+EN | 315 |
| 陸産 | 腹足 | ナンバンマイマイ | ヤマタカマイマイ | <i>Satsuma papilliformis</i> | NT | 316 |
| 陸産 | 腹足 | オナジマイマイ | ミヤマヒダリマキマイマイ (ヒラヒダリマキマイマイ型) | <i>Euhadra scaevola</i> | VU | 316 |
| 陸産 | 腹足 | オナジマイマイ | カタマメマイマイ | <i>Lepidopisum conospira</i> | VU | 317 |
| 淡水産 | 二枚貝 | イシガイ | カタハガイ | <i>Pseudodon (Obovalis) omiensis</i> | VU | 317 |
| 海産 | 腹足 | コハクカノコ | ツバサコハクカノコ | <i>Neritilia mimotoi</i> | VU | 317 |
| 海産 | 腹足 | オニノツノガイ | ホソコオロギ | <i>Cerithium torresi</i> | CR+EN | 318 |
| 海産 | 腹足 | オニノツノガイ | カヤノミカニモリ | <i>Clypeomorus bifasciata</i> | NT | 319 |
| 海産 | 腹足 | トゲカワニナ | タケノコカワニナ (レバツカワニナ) | <i>Stenomelania rufescens</i> | VU | 319 |
| 海産 | 腹足 | タマガイ | アダムスタマガイ | <i>Cryptonatica adamsiana</i> | NT | 319 |
| 海産 | 腹足 | トウガタガイ | イソチドリ | <i>Amathina tricarinata</i> | CR+EN | 320 |
| 海産 | 腹足 | トウガタガイ | ヒメゴウナ | <i>Monotygmata eximia</i> | NT | 320 |
| 海産 | 腹足 | ドロアワモチ | ドロアワモチ | <i>Onchidium cf. hongkongense</i> | VU | 321 |
| 海産 | 腹足 | オカミミガイ | ナラビオカミミガイ | <i>Auriculastra duplicata</i> | VU | 321 |
| 海産 | 腹足 | オカミミガイ | シイノミミミガイ | <i>Cassidula plecotrematoides japonica</i> | CR+EN | 321 |
| 海産 | 腹足 | オカミミガイ | キヌカツギハマシイノミ | <i>Melampus (Melampus) sincaporensis</i> | VU | 322 |
| 海産 | 二枚貝 | ツキガイ | イセシラガイ | <i>Anodontia bialata</i> | CR+EN | 322 |
| 海産 | 二枚貝 | ニッコウガイ | ベニガイ | <i>Pharaonella sieboldii</i> | NT | 322 |
| 海産 | 二枚貝 | アサジガイ | フルイガイ | <i>Semele cordiformis</i> | CR+EN | 323 |
| 海産 | 二枚貝 | バカガイ | アリソガイ | <i>Coelomactra antiquata</i> | VU | 323 |
| 海産 | 二枚貝 | バカガイ | ユキガイ | <i>Meropesta nicobarica</i> | NT | 323 |
| 海産 | 二枚貝 | バカガイ | ヤチヨノハナガイ | <i>Raeta pellicula</i> | CR+EN | 324 |
| 海産 | 二枚貝 | マルスダレガイ | ウラカガミ | <i>Dosinia (Dosinella) corrugata</i> | CR+EN | 324 |
| 海産 | 二枚貝 | マルスダレガイ | ウスハマグリ | <i>Pitar kurodai</i> | CR+EN | 325 |
| 海産 | 二枚貝 | ツクエガイ | コヅツガイ | <i>Eufistulana grandis</i> | NT | 325 |
| 海産 | 二枚貝 | ヤドリシジミ | イソカゼ | <i>Basterotia gouldi</i> | CR+EN | 325 |
| 海産 | 二枚貝 | ウロコガイ | オウギウロコガイ | <i>Galeommella utinomii</i> | CR+EN | 326 |
| 海産 | 二枚貝 | ニオガイ | ウミタケ | <i>Barnea (Umitakea) japonica</i> | VU | 326 |
| 海産 | 二枚貝 | オキナガイ | コオキナガイ | <i>Laternula (Laternula) impura</i> | CR+EN | 326 |
| 海産 | 二枚貝 | マテガイ | バラフマテ | <i>Solen roseomaculatus</i> | NT | 327 |

絶滅危惧II類 (VU)

| | 綱名 | 科名 | 和名 | 学名 | 環境省 | 掲載P. |
|-----|-----|----------|------------|--|-------|------|
| 淡水産 | 腹足 | タニシ | マルタニシ | <i>Cipangopaludina chinensis laeta</i> | VU | 327 |
| 陸産 | 腹足 | ゴマガイ | ベニゴマガイ | <i>Diplommatina pudica</i> | CR+EN | 328 |
| 陸産 | 腹足 | ヤマタニシ | イノウエヤマトガイ | <i>Japonia inouei</i> | VU | 328 |
| 淡水産 | 腹足 | ヒラマキガイ | ミズコハクガイ | <i>Gyraulus soritai</i> | VU | 329 |
| 陸産 | 腹足 | キバサナギガイ | クチマガリスナガイ | <i>Bensonella plicidens</i> | VU | 329 |
| 陸産 | 腹足 | キセルガイモドキ | フトキセルガイモドキ | <i>Mirus japonicus</i> | | 329 |
| 陸産 | 腹足 | キセルガイ | ミカワギセル | <i>Mesophaedusa mikawa</i> | NT | 330 |
| 陸産 | 腹足 | キセルガイ | キイツムガタギセル | <i>Pinguiphaedusa pinguis pinguis</i> | NT | 330 |
| 陸産 | 腹足 | キセルガイ | シロモリサキギセル | <i>Tyrannophaedusa (Aulacophaedusa) matsumurai</i> | | 331 |
| 淡水産 | 二枚貝 | イシガイ | トンガリササノハガイ | <i>Lanceolaria grayana</i> | NT | 331 |
| 海産 | 腹足 | アマオブネ | ウミヒメカノコ | <i>Smaragdia</i> sp. | VU | 331 |

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

| | | | | | | | |
|---------|-----|---------|---------------|-----------------------------------|---|-------|-----|
| 哺乳類 | 海産 | 腹足 | ユキスズメ | ヒナユキスズメ | <i>Phenacolepas</i> sp. | NT | 332 |
| | 海産 | 腹足 | オニノツノガイ | コゲツノブエ | <i>Cerithium coralium</i> | VU | 332 |
| 鳥類 | 海産 | 腹足 | スナモチツボ | サナギモツボ | <i>Finella pupoides</i> | VU | 332 |
| | 海産 | 腹足 | ウミニナ | イボウミニナ | <i>Batillaria zonalis</i> | VU | 333 |
| 爬虫類 | 海産 | 腹足 | リソツボ | スジウネリチョウジガイ | <i>Rissoina (Rissolina) costulata</i> | VU | 333 |
| | 海産 | 腹足 | リソツボ | ゴマツボ | <i>Stosicia annulata</i> | VU | 333 |
| 両生類 | 海産 | 腹足 | ワカウラツボ | ワカウラツボ | <i>Iravadia (Fairbankia) sakaguchii</i> | VU | 334 |
| | 海産 | 腹足 | ワカウラツボ | サザナミツボ | <i>Nozeba ziczac</i> | NT | 334 |
| 汽水・淡水魚類 | 海産 | 腹足 | イソコハクガイ | アラウズマキ | <i>Circulus duplicatus</i> | VU | 334 |
| | 海産 | 腹足 | イソコハクガイ | イソマイマイ | <i>Sigaretornus aff. planus</i> | VU | 335 |
| 昆虫類 | 海産 | 腹足 | ミズゴマツボ | ミズゴマツボ | <i>Stenothyra japonica</i> | VU | 335 |
| | 海産 | 腹足 | タマガイ | フロガイダマシ | <i>Naticarius concinnus</i> | VU | 335 |
| クモ類 | 海産 | 腹足 | タマガイ | オリイレシラタマ | <i>Sigatica bathyraphe</i> | NT | 336 |
| | 海産 | 腹足 | タマガイ | ツガイ | <i>Sinum (Ectosinum) incisum</i> | NT | 336 |
| 貝類 | 海産 | 腹足 | タマガイ | ツツミガイ | <i>Sinum (Ectosinum) planulatum</i> | NT | 336 |
| | 海産 | 腹足 | イトカケガイ | ウネナシイトカケ | <i>Acrilla acuminata</i> | VU | 337 |
| 甲殻類 | 海産 | 腹足 | ハナゴウナ | ヒモイカリナマコツマミガイ | <i>Hypermastus lacteus</i> | VU | 337 |
| | 海産 | 腹足 | オリイレヨフバイ | カキノテムシロ | <i>Plicarcularia bellula</i> | NT | 337 |
| その他動物 | 海産 | 腹足 | マクラガイ | マクラガイ | <i>Oliva mustelina</i> | NT | 338 |
| | 海産 | 腹足 | コロモガイ | オリイレボラ | <i>Trigonostoma scalariformis</i> | VU | 338 |
| EW | 海産 | 腹足 | オオシイノミガイ | オオシイノミガイ | <i>Acteon sieboldi</i> | NT | 338 |
| | 海産 | 腹足 | オオシイノミガイ | ムラクモキジビキガイ | <i>Japanacteon nipponensis</i> | NT | 339 |
| EW | 海産 | 腹足 | トウガタガイ | ヌノメホソクチキレ | <i>Iphiana tenuisculpta</i> | VU | 339 |
| | 海産 | 腹足 | オカミミガイ | オカミミガイ | <i>Ellobium chinense</i> | VU | 339 |
| CR | 海産 | 腹足 | オカミミガイ | クリイロコミミガイ | <i>Laemodonta siamensis</i> | VU | 340 |
| | 海産 | 二枚貝 | キヌタレガイ | アサヒキヌタレガイ | <i>Acharax japonica</i> | VU | 340 |
| EN | 海産 | 二枚貝 | イガイ | ヤマホトトギス | <i>Arcuatula japonica</i> | NT | 341 |
| | 海産 | 二枚貝 | イガイ | ハンレイヒバリ (カラスノマクラ) | <i>Modiolus hanleyi</i> | CR+EN | 341 |
| VU | 海産 | 二枚貝 | イガイ | イガイ | <i>Mytilus coruscus</i> | | 341 |
| | 海産 | 二枚貝 | ザルガイ | ヒシガイ | <i>Fragum bannoi</i> | VU | 342 |
| NT | 海産 | 二枚貝 | ニッコウガイ | サビシラトリ | <i>Macoma (Macoma) contabulata</i> | NT | 342 |
| | 海産 | 二枚貝 | ニッコウガイ | サギガイ | <i>Macoma (Rexithaerus) sector</i> | NT | 342 |
| DD | 海産 | 二枚貝 | フジノハナガイ | ナミノコガイ | <i>Donax (Latona) cuneatus</i> | NT | 343 |
| | 海産 | 二枚貝 | シオサザナミ | マスオガイ | <i>Gari (Psammotaena) elongata</i> | | 343 |
| 海産 | 二枚貝 | シオサザナミ | ムラサキガイ | <i>Soletellina adamsii</i> | VU | 343 | |
| | 二枚貝 | マルスダレガイ | ガンギハマグリ | <i>Pitar lineolatum</i> | NT | 344 | |
| 海産 | 二枚貝 | マルスダレガイ | イオウハマグリ | <i>Pitar sulfreum</i> | VU | 344 | |
| 海産 | 二枚貝 | ウロコガイ | スジホシシモドキヤドリガイ | <i>Nipponomysella subtruncata</i> | NT | 344 | |
| 海産 | 二枚貝 | ウロコガイ | マゴコロガイ | <i>Peregrinamor ohshimai</i> | NT | 345 | |
| 海産 | 二枚貝 | オオノガイ | ヒメマスオガイ | <i>Cryptomya busoensis</i> | VU | 345 | |

準絶滅危惧 (NT)

| 網名 | 科名 | 和名 | 学名 | 環境省 | 掲載P. | |
|-----|----|---------|-------------|---------------------------------|-------|-----|
| 陸産 | 腹足 | ゴマオカタニシ | ゴマオカタニシ | <i>Georissa japonica</i> | NT | 345 |
| 陸産 | 腹足 | ヤマキサゴ | ヤマキサゴ | <i>Waldemaria japonica</i> | | 346 |
| 陸産 | 腹足 | ゴマガイ | キイゴマガイ | <i>Diplommatina kiiensis</i> | | 346 |
| 陸産 | 腹足 | ヤマタニシ | アツブタガイ | <i>Cyclotus campanulatus</i> | | 346 |
| 陸産 | 腹足 | ヤマタニシ | サドヤマトガイ | <i>Japonia sadoensis</i> | NT | 347 |
| 淡水産 | 腹足 | カワニナ | クロダカワニナ | <i>Semisulcospira kurodai</i> | NT | 347 |
| 陸産 | 腹足 | カワザンショウ | ホラアナゴマオカチグサ | <i>Cavernacmella kuzuensis</i> | CR+EN | 347 |
| 陸産 | 腹足 | オカミミガイ | ケシガイ | <i>Carychium pessimum</i> | NT | 348 |
| 淡水産 | 腹足 | モノアラガイ | モノアラガイ | <i>Radix japonica</i> | NT | 348 |
| 陸産 | 腹足 | キバサナギガイ | スナガイ | <i>Gastrocopta armigerella</i> | NT | 348 |
| 陸産 | 腹足 | キセルガイ | ホソヤカギセル | <i>Mundiphaedusa hosayaka</i> | | 349 |
| 陸産 | 腹足 | キセルガイ | キョウトギセル | <i>Mundiphaedusa kyotoensis</i> | VU | 349 |
| 陸産 | 腹足 | キセルガイ | ハゲギセル | <i>Pinguiphaedusa attrita</i> | | 349 |

| | | | | | | |
|-----|-----|------------|---------------------------------|--|----|-----|
| 陸産 | 腹足 | キセルガイ | チビギセル | <i>Placeophaedusa expansilabris</i> | — | 350 |
| 陸産 | 腹足 | ホソアシヒダナメクジ | イボイボナメクジ | <i>Granulilimax fuscicornis</i> | NT | 350 |
| 陸産 | 腹足 | ベッコウマイマイ | ヒゼンキビ | <i>Parakaliella hizenensis</i> | NT | 350 |
| 陸産 | 腹足 | ベッコウマイマイ | スジキビ | <i>Parakaliella ruida</i> | NT | 351 |
| 陸産 | 腹足 | ベッコウマイマイ | ウメムラシタラ | <i>Sitalina japonica</i> | NT | 351 |
| 陸産 | 腹足 | ベッコウマイマイ | ヒメカサキビ | <i>Trochochlamys subcrenulata</i> | NT | 351 |
| 陸産 | 腹足 | ナンバンマイマイ | ケハダビロウドマイマイ | <i>Nipponochloritis fragilis</i> | NT | 352 |
| 陸産 | 腹足 | ナンバンマイマイ | ビロウドマイマイ | <i>Nipponochloritis oscitans</i> | DD | 352 |
| 陸産 | 腹足 | ナンバンマイマイ | ヒメビロウドマイマイ | <i>Nipponochloritis perpunctatus</i> | VU | 352 |
| 陸産 | 腹足 | ナンバンマイマイ | アナナシマイマイ | <i>Satsuma cristata</i> | NT | 353 |
| 陸産 | 腹足 | ナンバンマイマイ | "シメクチマイマイ" | <i>"Satsuma ferruginea"</i> | — | 353 |
| 陸産 | 腹足 | ナンバンマイマイ | シママイマイ | <i>Satsuma japonica simaensis</i> | — | 353 |
| 陸産 | 腹足 | オナジマイマイ | クチマガリマイマイ | <i>Aegista cavicollis</i> | NT | 354 |
| 陸産 | 腹足 | オナジマイマイ | フチマルオオベソマイマイ | <i>Aegista tumida</i> | NT | 354 |
| 陸産 | 腹足 | オナジマイマイ | イブキクロイワマイマイ (チビクロイワマイマイ型を含む) | <i>Euhadra senckenbergiana ibukicola</i> | — | 354 |
| 陸産 | 腹足 | オナジマイマイ | タシナミオトメマイマイ | <i>Trishoplita collinsoni collinsoni</i> | NT | 355 |
| 陸産 | 腹足 | オナジマイマイ | ニオヤカマイマイ | <i>Trishoplita commoda niyoka</i> | — | 355 |
| 陸産 | 腹足 | オナジマイマイ | ヒルゲンドルフマイマイ | <i>Trishoplita hilgendorfi</i> | NT | 355 |
| 陸産 | 腹足 | オカモノアラガイ | ナガオカモノアラガイ | <i>Oxyloma hirasei</i> | NT | 356 |
| 陸産 | 腹足 | オオコウラナメクジ | オオコウラナメクジ | <i>Nipponarion carinatus</i> | NT | 356 |
| 淡水産 | 二枚貝 | イシガイ | ドブガイ | <i>Anodonta</i> spp. | — | 356 |
| 淡水産 | 二枚貝 | イシガイ | マツカサガイ | <i>Inversidens (Pronodularia) japonensis</i> | NT | 357 |
| 淡水産 | 二枚貝 | イシガイ | イシガイ | <i>Unio douglasiae nipponensis</i> | — | 357 |
| 淡水産 | 二枚貝 | ドブシジミ | ドブシジミ | <i>Musculium japonicum</i> | — | 357 |
| 海産 | 腹足 | アマオブネ | カノコガイ | <i>Clithon faba</i> | — | 358 |
| 海産 | 腹足 | アマオブネ | ヒロクチカノコ | <i>Neripteron</i> sp. | NT | 358 |
| 海産 | 腹足 | ユキスズメ | ミヤコドリ | <i>Phenacolepas pulchella</i> | NT | 358 |
| 海産 | 腹足 | キバウミニナ | カワアイ | <i>Cerithidea (Cerithiopsis) djadjariensis</i> | VU | 359 |
| 海産 | 腹足 | タマキビ | モロハタマキビ (セトウチヘソカドタマキビ) | <i>Lacuna carinifera</i> | NT | 359 |
| 海産 | 腹足 | ワカウラツボ | カワグチツボ | <i>Iravadia (Fluviocingula) elegantula</i> | NT | 359 |
| 海産 | 腹足 | イソコハクガイ | シラギク | <i>Pseudoliotia pulchella</i> | NT | 360 |
| 海産 | 腹足 | ミズゴマツボ | エドガワミズゴマツボ (ウミゴマツボ) | <i>Stenothyra edogawensis</i> | NT | 360 |
| 海産 | 腹足 | カワザンショウ | ヨシダカワザンショウ | <i>"Angustassiminea" yoshidayukioi</i> | NT | 360 |
| 海産 | 腹足 | カワザンショウ | ヒナタムシヤドリカワザンショウ | <i>Assiminea</i> aff. <i>parasitologica</i> | NT | 361 |
| 海産 | 腹足 | カワザンショウ | ツブカワザンショウ (ヒメカワザンショウ) | <i>"Assiminea" estuarina</i> | NT | 361 |
| 海産 | 腹足 | カワザンショウ | カハタレカワザンショウ | <i>"Nanivitrea" sp.</i> | VU | 361 |
| 海産 | 腹足 | クビキレガイ | ヤマトクビキレガイ | <i>Truncatella pfeifferi</i> | — | 362 |
| 海産 | 腹足 | タマガイ | ネコガイ | <i>Eunaticina papilla</i> | NT | 362 |
| 海産 | 腹足 | タマガイ | カスミコダマ | <i>Natica buriasensis</i> | NT | 362 |
| 海産 | 腹足 | イトカケガイ | オダマキ | <i>Depressiscula aurita</i> | NT | 363 |
| 海産 | 腹足 | イトカケガイ | クレハガイ | <i>Papyriscala clementia</i> | NT | 363 |
| 海産 | 腹足 | イトカケガイ | セキモリ | <i>Papyriscala yokoyamai</i> | NT | 363 |
| 海産 | 腹足 | オリイレヨフバイ | ムシロガイ | <i>Niotha livescens</i> | NT | 364 |
| 海産 | 腹足 | テングニシ | テングニシ | <i>Pugilina (Hemifusus) tuba</i> | NT | 364 |
| 海産 | 腹足 | バイ | バイ | <i>Babylonia japonica</i> | NT | 364 |
| 海産 | 腹足 | フデシャジク | クリイロマンジ | <i>Philbertia (Pseudodaphnella) leuckarti</i> | NT | 365 |
| 海産 | 腹足 | スイフガイ | カミスジカイコガイダマシ | <i>Cylichnatys angustus</i> | VU | 365 |
| 海産 | 腹足 | トウガタガイ | ヌカルミクチキレ | <i>"Sayella" sp.</i> | NT | 365 |
| 海産 | 二枚貝 | キヌタレガイ | キヌタレガイ | <i>Petrasma pusilla</i> | NT | 366 |
| 海産 | 二枚貝 | ハボウキ | ズベタイラギ | <i>Atrina (Servatrina) japonica</i> | NT | 366 |
| 海産 | 二枚貝 | ハボウキ | タイラギ (リシケタイラギ) | <i>Atrina (Servatrina) lischkeana</i> | NT | 366 |
| 海産 | 二枚貝 | ハボウキ | ハボウキ | <i>Pinna attenuata</i> | NT | 367 |
| 海産 | 二枚貝 | ニッコウガイ | オオモノノハナ | <i>Macoma (Macoma) praetexta</i> | NT | 367 |
| 海産 | 二枚貝 | ニッコウガイ | トガリユウシオガイ | <i>Moerella culter</i> | NT | 367 |

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

| | | | | | | | |
|---------|----|-----|---------|---------------|---|----|-----|
| 哺乳類 | 海産 | 二枚貝 | ニッコウガイ | ウズザクラ | <i>Nitidotellina minuta</i> | NT | 368 |
| | 海産 | 二枚貝 | ニッコウガイ | サクラガイ | <i>Nitidotellina hokkaidoensis</i> | NT | 368 |
| 鳥類 | 海産 | 二枚貝 | フジノハナガイ | フジノハナガイ | <i>Chion semigranosus</i> | NT | 368 |
| | 海産 | 二枚貝 | シオサザナミ | ハザクラ | <i>Gari (Psammotaena) minor</i> | NT | 369 |
| 爬虫類 | 海産 | 二枚貝 | シオサザナミ | オチバ (コムラサキガイ) | <i>Gari (Psammotaena) virescens</i> | NT | 369 |
| | 海産 | 二枚貝 | キヌタアゲマキ | キヌタアゲマキ | <i>Solecurtus divaricatus</i> | NT | 369 |
| 両生類 | 海産 | 二枚貝 | フナガタガイ | タガソデモドキ | <i>Trapezium (Neotrapezium) sublaevigatum</i> | NT | 370 |
| | 海産 | 二枚貝 | バカガイ | カモジガイ | <i>Lutraria arcuata</i> | NT | 370 |
| 汽水・淡水魚類 | 海産 | 二枚貝 | バカガイ | オオトリガイ | <i>Lutraria maxima</i> | NT | 370 |
| | 海産 | 二枚貝 | バカガイ | ミルクイ | <i>Tresus keenae</i> | VU | 371 |
| 昆虫類 | 海産 | 二枚貝 | マルスダレガイ | シオヤガイ | <i>Anomalodiscus squamosus</i> | NT | 371 |
| | 海産 | 二枚貝 | マルスダレガイ | シラオガイ | <i>Circe undatina</i> | NT | 371 |
| クモ類 | 海産 | 二枚貝 | マルスダレガイ | ハマグリ | <i>Meretrix lusoria</i> | VU | 372 |
| | 海産 | 二枚貝 | ウロコガイ | ニッポンマメアゲマキ | <i>Galeomma</i> sp. | NT | 372 |
| 貝類 | 海産 | 二枚貝 | ウロコガイ | ウロコガイ | <i>Lepirodes takii</i> | NT | 372 |
| | 海産 | 二枚貝 | ウロコガイ | マツモトウロコガイ | <i>Paraborniola matsumotoi</i> | NT | 373 |
| 甲殻類 | 海産 | 二枚貝 | オオノガイ | クシケマスオガイ | <i>Cryptomya elliptica</i> | NT | 373 |
| | 海産 | 二枚貝 | オキナガイ | オキナガイ | <i>Laternula (Laternula) anatina</i> | | 373 |

情報不足 (DD)

| | 綱名 | 科名 | 和名 | 学名 | 環境省 | 掲載P. |
|----|-----|----|-----------|--------------------|--|-----------|
| EW | 陸産 | 腹足 | ゴマガイ | キュウシュウゴマガイ | <i>Diplommatina tanegashimae kyusyuensis</i> | 374 |
| EW | 陸産 | 腹足 | ヤマタニシ | トウカイヤマトガイ | <i>Japonia katorii</i> | VU 374 |
| | 淡水産 | 腹足 | ミズツボ | ホラアナミジンナ | <i>Moria nipponica</i> | VU 374 |
| CR | 淡水産 | 腹足 | エゾマメタニシ | マメタニシ | <i>Parafossarulus manchouricus japonicus</i> | VU 374 |
| | 陸産 | 腹足 | カワザンショウ | ヘソカドガイ | <i>Paludinellassiminea japonica</i> | 374 |
| EN | 陸産 | 腹足 | カワザンショウ | オオウスイロヘソカドガイ | <i>Paludinellassiminea tanegashimae</i> | 374 |
| | 陸産 | 腹足 | マキゾメガイ | ヒラドマルナタネ | <i>Pupisoma harpula</i> | 374 |
| VU | 陸産 | 腹足 | キセルガイ | ゼイギセル | <i>Ventriphaedusa proba</i> | 374 |
| | 陸産 | 腹足 | ベッコウマイマイ | ヒラベッコウ類 | <i>Bekkochlamys</i> spp. | DD 374 |
| NT | 陸産 | 腹足 | ベッコウマイマイ | ハクサンベッコウ | <i>Nipponochlamys hakusanus</i> | DD 375 |
| | 陸産 | 腹足 | ベッコウマイマイ | キヌツヤベッコウ | <i>Nipponochlamys semisericata</i> | DD 375 |
| DD | 陸産 | 腹足 | ベッコウマイマイ | ハクサンベッコウ属の一種 (菅島産) | <i>Nipponochlamys</i> sp. | 375 |
| | 陸産 | 腹足 | ベッコウマイマイ | ミノベッコウ | <i>Nipponochlamys</i> sp. | 375 |
| | 海産 | 腹足 | クチキレエビスガイ | スカシエビス | <i>Sukashitrochus carinatus</i> | VU 375 |
| | 海産 | 腹足 | スカシガイ | セムシマドアキガイ | <i>Rimula cumingii</i> | VU 375 |
| | 海産 | 腹足 | アマオブネ | キンランカノコ | <i>Smaragdia souverbiana</i> | NT 375 |
| | 海産 | 腹足 | リソツボ | ヌノメチョウジガイ | <i>Rissoina (Phosinella) pura</i> | NT 375 |
| | 海産 | 腹足 | リソツボ | タニシツボ | <i>Voorwindia cf. paludinoides</i> | NT 375 |
| | 海産 | 腹足 | ワカウラツボ | ゴマツボモドキ (シリオレミジンナ) | <i>Hyala cf. bella</i> | VU 376 |
| | 海産 | 腹足 | ワカウラツボ | イリエツボ | <i>Iravadia (Pseudonoba) yendoii</i> | CR+EN 376 |
| | 海産 | 腹足 | イソコハクガイ | ウミコハクガイ | <i>Teinostoma lucida</i> | VU 376 |
| | 海産 | 腹足 | イソコハクガイ | ナギツボ | <i>Vitrinella</i> sp. | NT 376 |
| | 海産 | 腹足 | スイショウガイ | フドロ | <i>Strombus robustus</i> | NT 376 |
| | 海産 | 腹足 | シロネズミ | ハツカネズミ | <i>Macromphalus tornatilis</i> | CR+EN 376 |
| | 海産 | 腹足 | ハナヅトガイ | ハナヅトガイ | <i>Velutina pusio</i> | NT 376 |
| | 海産 | 腹足 | ハナゴウナ | カシバンヤドリニナ | <i>Hypermastus peronelicola</i> | NT 376 |
| | 海産 | 腹足 | オリイレヨフバイ | オマセムシロ | <i>Hima praematurata</i> | VU 376 |
| | 海産 | 腹足 | タケノコガイ | イワカワトクサ | <i>Duplicaria evoluta</i> | VU 377 |
| | 海産 | 腹足 | タケノコガイ | シチクガイ | <i>Hastula rufopunctata</i> | NT 377 |
| | 海産 | 腹足 | スイフガイ | コヤスツララ | <i>Acteocina koyasensis</i> | NT 377 |
| | 海産 | 腹足 | カノコキセワタ | ヤミヨキセワタ | <i>Melanochlamys</i> sp. | DD 377 |
| | 海産 | 腹足 | トウガタガイ | ヒガタヨコイトカケギリ | <i>Cingulina cf. cingulata</i> | DD 377 |
| | 海産 | 腹足 | トウガタガイ | シゲヤスイトカケギリ | <i>Dunkeria shigeyasui</i> | NT 377 |
| | 海産 | 腹足 | トウガタガイ | エバラクチキレ | <i>Orinella ebarana</i> | NT 377 |

| | | | | | | |
|----|-----|---------|-----------------|---|-------|-----|
| 海産 | 腹足 | トウガタガイ | エドイトカケギリ | <i>Turbonilla edoensis</i> | NT | 377 |
| 海産 | 腹足 | トウガタガイ | クラエノハマイルカケギリ | <i>Turbonilla kuraenohamana</i> | NT | 377 |
| 海産 | 二枚貝 | イガイ | サザナミマクラ | <i>Modiolus flavidus</i> | NT | 378 |
| 海産 | 二枚貝 | フネガイ | ハイガイ | <i>Tegillarca granosa</i> | VU | 378 |
| 海産 | 二枚貝 | ニッコウガイ | ミクニシボリザクラ | <i>Loxoglypta compta</i> | NT | 378 |
| 海産 | 二枚貝 | ニッコウガイ | モモノハナ (エドザクラ) | <i>Moerella jedoensis</i> | NT | 378 |
| 海産 | 二枚貝 | ニッコウガイ | ヒラザクラ | <i>Tellinides ovalis</i> | NT | 378 |
| 海産 | 二枚貝 | フジノハナガイ | キュウシュウナミノコガイ | <i>Donax (Tentidonax) kiusiuensis</i> | NT | 378 |
| 海産 | 二枚貝 | シオサザナミ | アシガイ | <i>Gari (Gari) maculosa</i> | NT | 378 |
| 海産 | 二枚貝 | バカガイ | ワカミルガイ | <i>Mactrotoma (Electomactra) angulifera</i> | NT | 378 |
| 海産 | 二枚貝 | バカガイ | ヒナミルクイ (ヒナミルガイ) | <i>Mactrotoma (Mactrotoma) depressa</i> | VU | 378 |
| 海産 | 二枚貝 | マルスダレガイ | ヤタノカガミ | <i>Dosinia (Asa) troscheli</i> | VU | 379 |
| 海産 | 二枚貝 | ウロコガイ | オキナノエガオ | <i>Platommia rugata</i> | CR+EN | 379 |
| 海産 | 二枚貝 | ウロコガイ | オサガニヤドリガイ | <i>Pseudopythina macrophthalmensis</i> | NT | 379 |
| 海産 | 二枚貝 | スエモノガイ | シナヤカスエモノガイ | <i>Thracia (Eximiothracia) concinna</i> | VU | 379 |

貝類レッドリスト 新旧対照表

本書に掲載された貝類レッドリスト（改訂後のカテゴリー）と「三重県レッドデータブック2005」に掲載した貝類レッドリスト（改訂前のカテゴリー）との新旧対照表は以下のとおりである。

| | 改訂後のカテゴリー | 改訂前のカテゴリー | | | | | | 種数 | |
|--|-----------|-----------|--|--|--|-----------------|--------------------------------------|---|------|
| | | EX | CR | EN | VU | NT | DD | | リスト外 |
| | EX | | | | | | | 0 | |
| | CR | | カスガコギセル オバエボシガイ ヨコハマシジラガイ イボキサゴ ヒメカノコ マルテンスマツムシ ヒメアカガイ イチョウシラトリ | | ヤマメタニシ | | ハナグモリ | シリボソギセル ウロコマイマイ ゴマフダマ オガイ ウネムシロ マキモノガイ イタボガキ フジナミガイ | 18 |
| | EN | | シノミミミガイ | カギヒダギセル ヒロクチコギセル ミカドギセル カナマルマイマイ ヤマタカマイマイ カタマメマイマイ カタハガイ ナラビオカミミガイ フルイガイ ユキガイ | ミヤマヒダリマキマイマイ (ヒラヒダリマキマイマイ型) タケノコカワニナ (レベックカワニナ) キヌカツギハマシノミ | | ホソコオロギ コオキナガイ | イブキムシオイ ノミガイ キバサナギガイ ツバサコハクカノコ カヤノミカニモリ アダムスタマガイ イソチドリ ヒメゴウナ ドロアワモチ イセシラガイ ベニガイ アリソガイ ヤチヨノハナガイ ウラカガミ ウスハマグリ コヅツガイ イソカゼ オウギウロコガイ ウミタケ バラフマテ | 36 |
| | VU | | | | クチマガリスナガイ ミカワギセル キイツムガタギセル トンガリササノハガイ | マルタニシ オカミミガイ | ベニゴマガイ サザナミツボ ミズゴマツボ マゴコロガイ | イノウエヤマトガイ ミズコハクガイ フトキセルガイモドキ シロモリサキギセル | |

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

| | | 改訂前のカテゴリー | | | | | | 種数 | |
|---------|-----------|-----------|----|-----------------|---|----------------------|---|-------------|------|
| | | EX | CR | EN | VU | NT | DD | | リスト外 |
| 哺乳類 | 改訂後のカテゴリー | VU | | | コゲツノブエ | | | ウミヒメカノコ | 51 |
| 鳥類 | | | | | イボウミニナ | | | ヒナユキスズメ | |
| 爬虫類 | | | | | ワカウラツボ | | | サナギモツボ | |
| 両生類 | | | | | クリイロコミミガイ | | | スジウネリチョウジガイ | |
| 汽水・淡水魚類 | | | | | サビシラトリ | | | ゴマツボ | |
| 昆虫類 | | | | | ナミノコガイ | | | アラウズマキ | |
| クモ類 | | | | | イオウハマグリ | | | イソマイマイ | |
| 貝類 | | | | | ヒメマスオガイ | | | フロガイダマシ | |
| 甲殻類 | | | | | | | | オリレシラタマ | |
| その他動物 | | | | | | | | ツガイ | |
| EW | | | | | | | ツツミガイ | | |
| EW | | | | | | | ウネナシイトカケ | | |
| CR | | | | | | | ヒモイカリナマコツマミガイ | | |
| EN | | | | | | | カニノテムシロ | | |
| VU | | | | | | | マクラガイ | | |
| NT | | | | | | | オリレボラ | | |
| DD | | | | | | | オオシイノミガイ | | |
| | | | | | | | ムラクモキジビキガイ | | |
| | | | | | | | ヌノメホソクチキレ | | |
| | | | | | | | アサヒキスタレガイ | | |
| | | | | | | | ヤマホトトギス | | |
| | | | | | | | ハンレイヒバリ (カラスノマクラ) | | |
| | | | | | | | イガイ | | |
| | | | | | | | ヒシガイ | | |
| | | | | | | | サギガイ | | |
| | | | | | | | マスオガイ | | |
| | | | | | | | ムラサキガイ | | |
| | | | | | | | ガンギハマグリ | | |
| | | | | | | | スジホシムシモドキヤドリガイ | | |
| | NT | | | キョウトギセル ハマグリ | サドヤマトガイ クロダカワニナ ホラアナゴマオカチグサ モノアラガイ ホソヤカギセル イブキクロイワマイマイ (チビクロイワマイマイ型を含む) ニオヤカマイマイ ナガオカモノアラガイ マツカサガイ イシガイ カノコガイ ヒロクチカノコ ミヤコドリ カワアイ カワグチツボ ヨシダカワザンショウ ヤマトクビキレガイ ネコガイ フジノハナガイ ハザクラ オチバ (コムラサキガイ) シオヤガイ シラオガイ ニッポンマメアゲマキ クシケマスオガイ | タシナミオトメマイマイ ドブシジミ | ゴマオカタニシ ヤマキサゴ キイゴマガイ アツブタガイ ケシガイ スナガイ ハゲギセル チビギセル イボイボナメクジ ヒゼンキビ スジキビ ウメムラシタラ ヒメカサキビ ケハダビロウドマイマイ ビロウドマイマイ ヒメビロウドマイマイ アナナシマイマイ シメクチマイマイ シママイマイ クチマガリマイマイ フチマルオオベソマイマイ ヒルゲンドルフマイマイ オオコウラナメクジ ドブガイ モロハタマキビ (セトウチヘソカドタマキビ) | | |

| | 改訂後のカテゴリー | 改訂前のカテゴリー | | | | | | 種数 |
|--|-----------|-----------|----|----|----|-------------------|---|----|
| | | EX | CR | EN | VU | NT | DD | |
| | NT | | | | | オキナガイ | シラギク エドガワミズゴマツボ (ウミゴマツボ) ヒナタムシヤドリカワザンショウ ツブカワザンショウ (ヒメカワザンショウ) カハタレカワザンショウ カスミコダマ オダマキ クレハガイ セキモリ ムシロガイ テングニシ パイ クリイロマンジ カミスジカイコガイダマシ ヌカルミクチキレ キヌタレガイ ズベタイラギ タイラギ (リシケタイラギ) ハボウキ オオモモノハナ トガリユウシオガイ ウズザクラ サクラガイ キヌタアゲマキ タガソデモドキ カモジガイ オオトリガイ ミルクイ ウロコガイ マツモトウロコガイ | 85 |
| | DD | | | | | ホラアナミジンナ マメタニシ | キュウシュウゴマガイ トウカイヤマトガイ ヘソカドガイ オオウスイロヘソカドガイ ヒラドマルナタネ ゼイギセル ヒラベッコウ類 ハクサンベッコウ キヌツヤベッコウ ハクサンベッコウ属の一種 (菅島産) ミノベッコウ スカシエビス セムシマドアキガイ キンランカノコ ヌノメチョウジガイ タニシツボ ゴマツボモドキ (シリオレミジンナ) イリエツボ ウミコハクガイ ナギツボ フドロ ハツカネズミ ハナヅトガイ | |

- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物

- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

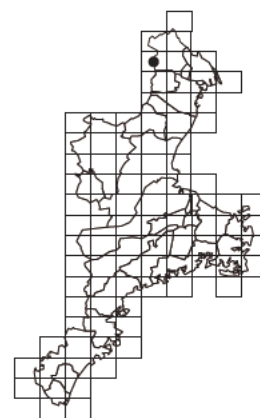
| | | 改訂前のカテゴリー | | | | | | 種数 | |
|---------|------------|-----------|----|----|----|----|-----|---------------|------|
| | | EX | CR | EN | VU | NT | DD | | リスト外 |
| 哺乳類 | 改訂後のカテゴリー | DD | | | | | | カシパンヤドリニナ | 49 |
| 鳥類 | | | | | | | | オマセムシロ | |
| 爬虫類 | | | | | | | | イワカワトクサ | |
| 両生類 | | | | | | | | シチクガイ | |
| 汽水・淡水魚類 | | | | | | | | コヤスツララ | |
| 昆虫類 | | | | | | | | ヤミヨキセワタ | |
| クモ類 | | | | | | | | ヒガタヨコイトカケギリ | |
| 貝類 | | | | | | | | シゲヤスイトカケギリ | |
| 甲殻類 | | | | | | | | エバラクチキレ | |
| その他動物 | | | | | | | | エドイトカケギリ | |
| EW | 改訂後のカテゴリー | DD | | | | | | クラエノハマイトカケギリ | 49 |
| EW | | | | | | | | サザナミマクラ | |
| CR | | | | | | | | ハイガイ | |
| EN | | | | | | | | ミクニシボリザクラ | |
| VU | | | | | | | | モモノハナ (エドザクラ) | |
| NT | | | | | | | | ヒラザクラ | |
| DD | | | | | | | | キュウシュウナミノコガイ | |
| | | | | | | | | アシガイ | |
| | | | | | | | | ワカミルガイ | |
| | | | | | | | | ヒナミルクイ | |
| | ヤタノカガミ | | | | | | | | |
| | オキナノエガオ | | | | | | | | |
| | オサガニヤドリガイ | | | | | | | | |
| | シナヤカスエモノガイ | | | | | | | | |
| | ウスコミミガイ | 2 | | | | | | | |
| | ナギサノシタタリガイ | | | | | | | | |
| 種数 | 0 | 9 | 10 | 18 | 30 | 11 | 163 | | |

ヤマメタニシ 腹足綱イツマデガイ科
Fukuia integra (Pilsbry, 1924)

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)
旧県：絶滅危惧 II 類 (VU)

環境省：CR+EN

選定理由： 過去の三重県北部（藤原岳・御池岳）での生息記録があるが、最近の調査における生息情報は全くなく、本県個体群の絶滅の可能性も考えられる。
種の概要： 殻高 4.5 mm 程で小型。少旋型の蓋を持つ。きわめて短い触角に黒色の眼点が明瞭で、その後方に黄色の色素を有する。常緑低木の茂みなどで発見される場合が多い。
分布： 分布は、東北地方（秋田県の一部地域）や新潟県から山陰地方までの主に日本海側の多雪地域の山地に集中する。太平洋側では、伊豆半島における分布地が知られる程度。三重県では鈴鹿山系のみ分布する。
現況・減少要因： 藤原岳・御池岳共にシカ食害による植生の変化などの森林環境の変化や近年の豪雨に伴う環境荒廃が減少要因と推測される。
保護対策： 藤原岳・御池岳の環境保全対策が必要。
特記事項： 近年、シブキツボ属 *Fukuia* の種に結論付けられた。
文献： 18. 34. 41. 44. 87. 89.



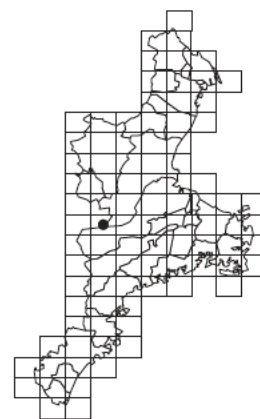
(早瀬善正・木村昭一)

カスガコギセル 腹足綱キセルガイ科
Pictophaedusa hungerfordiana (Moellendorff, 1882)

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)
旧県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

環境省：CR+EN

選定理由： 1968年の平倉演習林の陸産貝類相報告には記録されておらず、1983年に平倉と記録されたのが県下で初めての報告で、その後も他の生息地は見つかっていない。同産地で1980年後半より2007年まで継続的に生息を確認していたが、現状は不明。春から秋の活動期には、広葉樹の大木の幹に着生したコケの間を匍匐しているのが観察されるが、休眠期には大木の周辺の落葉下の礫間など地上に降りて休眠する。生息環境は安定しているが、本種の生息する大木は数本に限られ、生息面積は著しく小さい。
種の概要： 殻長 13 mm、本科としては小型、細長い紡錘形、殻表は弱い光沢を持ち、淡黄褐色の地に不規則な黄白色の斑紋が現れる。殻頂は急に細まる。
分布： 奈良市春日山をタイプ産地とし、三重県の上述の生息地を分布の東限とし、奈良県、大阪府、岡山県、徳島県、大分県に分布するが、生息地は非常に限られ、個体数も少ない。
現況・減少要因： 現状は選定理由参照、減少要因については、森林伐採、森林内の乾燥化などが考えられる。
文献： 14. 84. 87. 88. 101. 121.



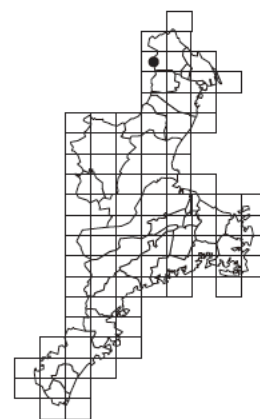
(木村昭一)

シリボソギセル 腹足綱キセルガイ科
Tyrannophaedusa iotaptyx (Pilsbry, 1900)

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)
旧県：—

環境省：NT

選定理由： 三重県下では、きわめて狭い範囲に少数個体が生息するのみで、かろうじて個体群が維持されている状況である。この生息地においても本種の今後の個体群存続が危惧され、絶滅の危機に瀕している確率がきわめて高い種と考えられる。当地の個体は、本種の南限分布地の個体群としても貴重であり保護が望まれる。
種の概要： 殻高 20 mm 程度で小型。三重県の個体は 19~21 mm 程度。螺層数は 11 層で多く、細長い形態。殻は紫褐色であるが、磨耗により殻表が灰白色となる個体が多い。石灰岩地域固有種である。(口絵 8 - 14)。
分布： 岐阜県・滋賀県・三重県（伊吹山系から鈴鹿山系にかけて）に分布する。三重県では、北部の藤原岳山麓部（坂本谷（絶滅）、多志田峡）のみの分布および生息記録。
現況・減少要因： 最近（2014年）、以下の引用文献において、本種の三重県での分布や生息情報に関する正式な報告を行った。この報告以前は、藤原岳山麓（坂本谷）の生息地が一部の研究者に未発表の情報として知られていた。しかし、坂本谷は、2002年7月に発生した土石流により埋もれ、三重県産の本種は絶滅したと考えられていた。ところが、2013年に行った三重県レッドデータブック改訂のための多志田峡調査において、第2産地が発見された。坂本谷は豪雨災害の際に発生した土石流により環境ごと個体群が消滅した。多志田峡では大規模な土石流により多志田川沿いの谷の大部分が土砂で埋もれているが、多志田川に入り込む小さな谷の一部には良好な林を伴うガレ場環境が維持されており、そのような僅かに残された良好な環境のみに生息していた。現在、



生息が確認された個体群も周辺環境が崩壊する可能性がないとは言えない状況であり、三重県においては、個体群の絶滅の危険性がきわめて高い種のひとつである。

保護対策： 多志田峡の環境保全対策が必要。さらに、本種の生息する区域を保護する必要性もある。

特記事項： 本種は、地域により殻形態や大きさが明瞭に異なる集団となっている場合があり、個体群間に形態的分化が生じている。今後、解剖学的・分子生物学的研究によるこれら個体群間の差異や遺伝的分化距離を明らかにするためにも、三重県の個体群を保護し維持してゆくことは重要である。

文献： 18.

(早瀬善正・木村昭一)

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ウロコマイマイ

腹足綱ナンバンマイマイ科

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

環境省：CR+EN

Satsuma lepidophora Minato, 2006

旧県：—

選定理由： 既知の生息地は 1 か所のみである。

種の概要： 以下の文献により新種記載されたが、それまではウロコムロマイマイとして仮命名されていた種である。殻高 10 mm, 殻径 17.5 mm の薄質で半透明の殻を持つ陸産貝類。

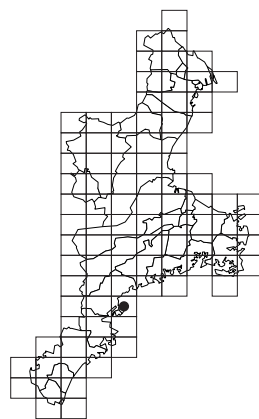
分布： 日本固有種。紀州地域に分布。

現況・減少要因： 現在も熊野灘に浮かぶ紀伊長島大島で生息が確認されているが、生息環境である樹林は台風により時々被害を受けるため安定した環境にはなく、倒木による林床の乾燥化は本種の生息に影響を与える。また、島の北側にはクズが侵入しており、林床の乾燥化を助長している。

保護対策： 定期的あるいは台風後の巡視を行い、生息環境の変化に注意を払っていく必要がある。

特記事項： 生息地である大島は「大島暖地性植物群落」として国の天然記念物に指定されている。

文献： 94.



(中 優・中野 環)

オバエボシガイ

二枚貝綱イシガイ科

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

環境省：VU

Inversidens (Inversidens) brandti (Kobelt, 1879)

旧県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

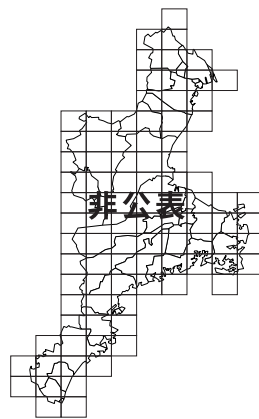
選定理由： 1979 年以前に県中部の 3 地点より分布記録がある。現在北部に 1 河川 (用水路を含む)、中部に 4 河川生息が確認されているが、そのうち 2 河川では著しく個体数が減少した。本種はヨコハマシジラガイと同様、河川環境が良く保全された中・下流域の緩やかな流れの砂泥底に生息するが、生息地、個体数共に著しく減少している。現在いずれの生息地も個体数は非常に少なく、県下に健全な個体群が存在するとは言えない現状である。

種の概要： 殻長 40 mm, 本県のイシガイ科貝類としては最も小型。丸みのある方形で、殻の膨らみがやや強く、弱いさざ波状の彫刻を持つ個体もある。グロキディウム幼生はマツカサガイと近似し、鉤状突起を持たない長卵形である。

分布： 東海地方から九州に分布する日本固有種。愛知県ではヨコハマシジラガイ、カタハガイと共に絶滅したとされている。

現況・減少要因： 現況は選定理由参照。減少要因については、水質汚濁、河川水の流量の減少、河川改修工事による底質の改変などが考えられる。

文献： 2, 56, 75, 85, 87.



(木村昭一)

ヨコハマシジラガイ

二枚貝綱イシガイ科

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

環境省：NT

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

Inversium jokohamensis (Ihering, 1893)

旧県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

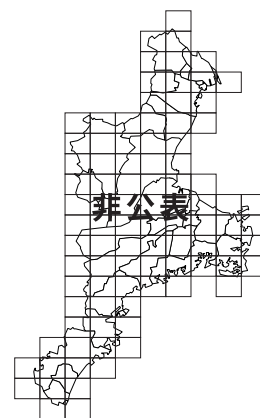
選定理由： 1997年に県下より初めてオトコタテボシ属の1種として生息が報告された。それまでマツカサガイと混同されていた。1997年に2河川（用水路を含む）で生息が報告されていたが、県中部の1河川では2000年代になって著しい個体数の減少があり、近年1河川生息域が追加されたが、県下に健全な個体群が存在するとは言えない現状である。

種の概要： 殻長70 mm、丸みのある長方形で、殻表にさざ波状の彫刻がある。マツカサガイと近似しているが、殻の膨らみが強く、さざ波状の彫刻が弱い。産地によっては殻形態では区別が困難であるが、グロキディウム幼生はマツカサガイが長卵形であるのに対して本種は三角形で強い鉤状突起を持つ。

分布： 北海道から東海地方に分布する日本固有種。近似種として琵琶湖にはオトコタテボシ、それより西にはニセマツカサガイが分布するとされている。

現況・減少要因： 現況は選定理由参照。減少要因については、水質汚濁、河川水の流量の減少、河川改修工事による底質の改変などが考えられる。

文献： 2. 56. 75. 85. 87.



(木村昭一)

イボキサゴ

腹足綱ニシキウズ科

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

環境省：NT

Umbonium moniliferum (Lamarck, 1822)

旧県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

選定理由： かつては伊勢湾沿岸に広く分布する普通種であったが、近年、生貝が確認できる場所は少ない。

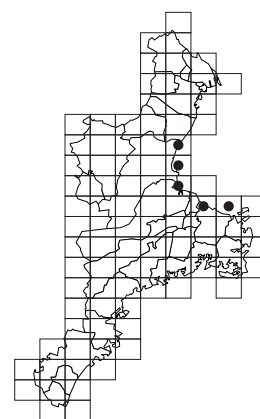
種の概要： 殻径約1.5 cmの低いそろばん玉型で、殻は厚く周辺は丸い。外洋の砂浜に生息するキサゴと酷似するが殻が小さく、臍部の滑層が大きい点で区別できる。

分布： 日本固有種。日本では本州東北地方から九州まで分布する。本種は内湾奥の砂泥干潟にかつてはごく普通に多産した種で、伊勢湾でも1960年代には広い範囲で多産した。

現況・減少要因： 本県でも干潟という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため、本種の生息地、生息数とも著しく減少したと考えられる。良好な干潟が残されている場所でも現在本種の生息が確認できないが、その原因については不明。

保護対策： 干潟の環境を保全すると同時に本種の生息要因を究明する必要がある。

文献： 2. 3. 8. 87. 105. 111. 115. 123.



(中野 環)

ヒメカノコ

腹足綱アマオブネ科

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

環境省：NT

Clithon aff. *oualaniensis* (Lesson, 1831)

旧県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

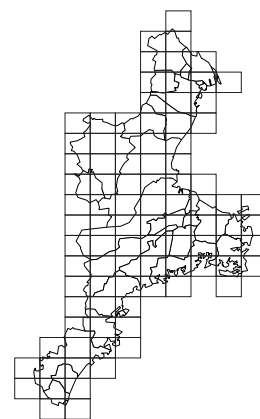
選定理由： 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。1979年以前に県南部のリアス式海岸に位置する小規模な内湾域3か所から分布記録がある。現在比較的新しい死殻が英虞湾の湾奥部の潮間帯より少数採集されているが、生息は確認できない。他の海域では死殻も稀産。

種の概要： 殻長10 mmで球形に近い。殻表は滑らかで強い光沢がある。暗い黄緑色の地色に灰白色の三角形の模様が並ぶ個体が多いが、模様には変異がある。南西諸島産の個体では、殻表の模様の変異が本州産個体と比べて著しい。

分布： 房総半島から南西諸島、インド・太平洋に分布する。現在九州以北の生息地は和歌山県、愛媛県など非常に限られている。内湾奥の河口部の干潟、アマモ場周辺の泥上に生息する。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。減少要因については、干潟の減少、水質汚濁などが考えられる。

文献： 2. 72. 73. 85. 87. 115.



(木村昭一)

- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物
- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

ゴマフダマ 腹足綱タマガイ科
Paratectonatica tigrina (Röding, 1798)

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)
 旧県：—

環境省：CR+EN

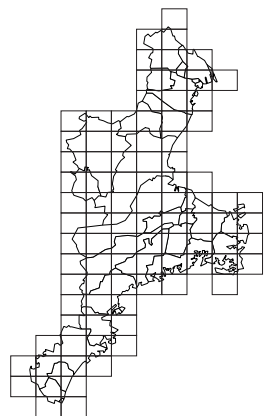
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化，分布域限定。1979年以前に県南部のリアス式海岸に位置する小規模な内湾域4か所から分布記録がある。潮間帯に生息する種であるにもかかわらず，現在死殻さえ確認できない。危機的生息状況であり本県から既に絶滅した可能性もある。

種の概要： 殻長30mm，ほぼ球形の殻で蓋も石灰質で白色。殻表には和名の通りごま斑状の模様がある。他の貝を穿孔して食べる肉食性。

分布： 現在瀬戸内海から有明海，八代海で生息が確認されているが，生息場所は非常に限られていて，少ない。海外では中国大陸からインド，太平洋に分布する。

現況・減少要因： 現況は選定理由参照。減少要因については，干潟の減少，水質汚濁などの理由だけでは説明が難しい。

文献： 73. 87. 115.



(木村昭一)

オガイ 腹足綱エゾバイ科
Cantharus cecillei (Philippi, 1844)

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)
 旧県：—

環境省：CR+EN

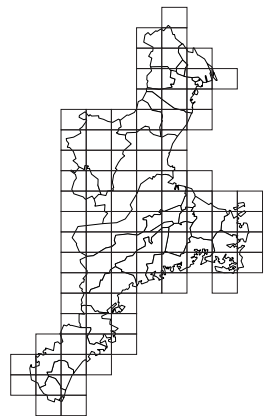
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化，分布域限定。1979年以前に伊勢湾から県南部の3か所の内湾域から分布記録がある。1980年頃には鳥羽湾の潮下帯の礫混じりの泥底から底刺し網によって，生貝が少数採集された。現在，干潟はおろか，潮下帯からも古い死殻でさえ確認できない。危機的生息状況であり本県から既に絶滅した可能性も高い。

種の概要： 殻長40mm，太い紡錘形の巻貝で，厚いピロード様の殻皮で覆われる。

分布： 房総半島から九州に分布するとされていたが，現在瀬戸内海から有明海，九州西岸で生息が確認されているにすぎない。生息場所は非常に限られていて，個体数も少ない。海外では朝鮮半島，中国大陸に分布する。

現況・減少要因： 現況は選定理由参照。船体塗料に含まれる有機スズによるインボセックスが減少要因である可能性がある。

文献： 2. 52. 58. 87. 115.



(木村昭一)

マルテンスマツムシ 腹足綱タモトガイ科
Mitrella martensi (Lischke, 1871)

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)
 旧県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

環境省：CR+EN

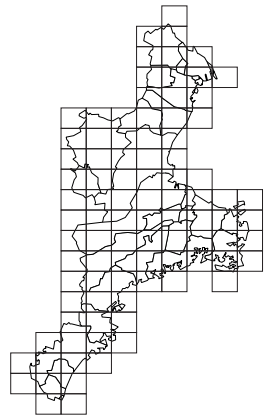
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に伊勢湾中部2か所，県南部の2か所の内湾域の潮間帯から潮下帯より分布記録がある。現在伊勢湾中部の潮下帯，生浦湾の潮間帯から潮下帯より半化石のような死殻が稀に採集されているが，生息は確認できない。危機的生息状況であり本県から既に絶滅した可能性もある。

種の概要： 殻長15mmの紡錘型で，ムギガイに似るがやや大型で，螺層の膨らみが弱く螺塔が高い。殻は黄褐色の地色に濃褐色の不規則な縞模様がある。模様には変異が多い。

分布： 北海道南部から九州，朝鮮半島，中国大陸に分布する。三河湾や伊勢湾，生浦湾の個体は，現在有明海に生息する個体と比べて，小型で模様のパターンも異なる。分類学的な検討が必要。

現況・減少要因： 既現況は選定理由参照。減少要因については，干潟の減少，水質汚濁などが考えられるが，著しい減少理由については不明。

文献： 2. 73. 87. 115.



(木村昭一)

ウネムシロ

腹足綱オリレヨフバイ科

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

環境省：CR+EN

Hima hiradoensis Pilsbry, 1904

旧県：

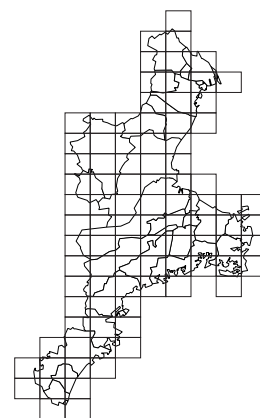
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化，分布域限定。1979年以前に鳥羽と紀伊長島の2か所の分布記録があるが，現在死殻さえ確認できない。危機的生息状況であり本県から既に絶滅した可能性もある。東海地方では現在愛知県渥美半島の三河湾沿岸の狭い範囲に数か所で生息地が確認されているにすぎない。

種の概要： 殻長 15 mm，クロスジムシロの個体変異や亜種と扱われたこともあったが，明らかに別種。殻の色彩には黄色，橙色，濃褐色，白帯のある灰褐色の4タイプがある。海水の滲みだしがある砂泥底から岩礫底に生息する。腐肉食性。

分布： 現在東北地方から三河湾，瀬戸内海，九州西岸で生息が確認されているが，生息場所は非常に限られている。海外では韓国（済州島），中国に分布する。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照，著しい減少の要因については，生息環境の減少，水質汚濁などの理由だけでは説明が難しい。

文献： 2, 73, 87, 115.



(木村昭一)

マキモノガイ

腹足綱トウガタガイ科

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

環境省：CR+EN

Leucotina diana (A. Adams in H. Adams, 1854)

旧県：

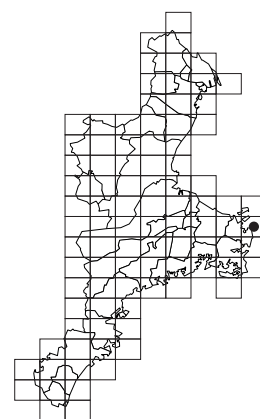
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化，希少。1979年以前に伊勢湾および県南部の4か所の内湾域から分布記録がある。2014年に鳥羽市浦村沖で生貝1個体が採集された（口絵8-6）。本県では伊勢湾湾口部の潮下帯で死殻は稀に採集されるが，干潟域では死殻もほとんど確認されない。生貝の記録は分布域全域でも非常に少ない。

種の概要： 殻長 30 mm，太い紡錘形で白色，本科としては大型。強い螺肋が各層にある。蓋は角質で黄褐色半透明。大型の二枚貝の体液を吸うと考えられているが，生態についてはほとんど知られていない。上述の伊勢湾湾口部での採集例ではマツヤマウスレと同時に採集されたが，生態的な関係については不明。

分布： 東北地方から九州に分布するとされていたが，近年生息が確認されているのは，上述の伊勢湾湾口部，瀬戸内海から九州西岸に限られている。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。減少要因については，干潟の減少，水質汚濁などの理由だけでは説明が難しい。

文献： 2, 87, 115.



(木村昭一)

ヒメアカガイ

二枚貝綱フネガイ科

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

環境省：CR+EN

Anadara (Scapharca) troscheli (Dunker, 1882)

旧県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

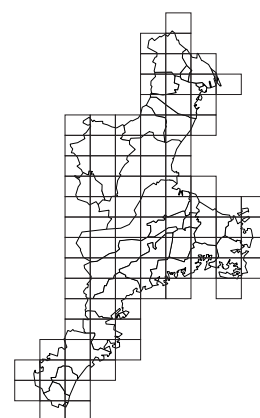
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化，分布域限定。2005年度版レッドデータブックで本県よりの詳細な分布記録が初めて示された。その後の分布調査でも英虞湾の内湾奥の泥質干潟1か所以外では合弁の死殻すら採集されていない。また現在県下から生息を確認できない。英虞湾でも合弁の死殻の採集個体数も年々減少してきており，危機的生息状況である。本県から既に絶滅した可能性も高い。

種の概要： 殻長 40 mm 箱形の二枚貝で，サルポウに近似するが，長方形に近い外形のサルポウに比較して，殻が三角形に近く，殻表の肋数が24本前後で，サルポウの32本前後より少ない。

分布： 本州から九州，中国大陸南部からベトナムに分布する。現在国内からは健全な個体群が報告されていない。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。著しい減少の要因については，生息環境の減少，水質汚濁などの理由だけでは説明が難しい。

文献： 72, 115.



(木村昭一)

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

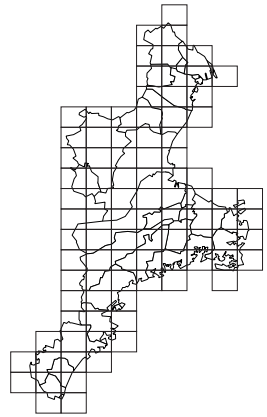
NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

イタボガキ 二枚貝綱イタボガキ科 三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR) 環境省：CR+EN
旧県：—
Ostrea denselamellosa Lischke, 1869

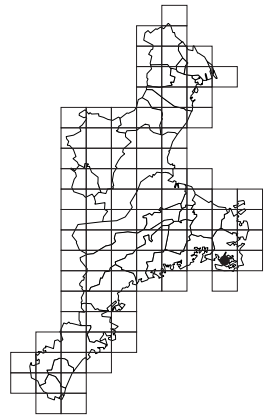
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1980年代前半には伊勢湾湾口部の潮下帯を中心に生息し，個体数も決して少なくなかった。例えば1982年に鳥羽湾の潮下帯の礫混じりの泥底から生貝が採集された報告があるが，1990年代に入り急激に減少し，現在では古い死殻が稀に採集される程度で生息が確認できない。危機的生息状況であり本県から既に絶滅した可能性もある。
種の概要： 殻長120 mm，マガキなどと比べて丸みのある方形をしていて，右殻表面は檜皮茸状になるのが特徴的。内湾から湾口部の潮下帯の砂泥底を分布の中心とする。
分布： 陸奥湾から九州に分布するとされていたが，現在瀬戸内海から有明海の限られた海域で生息が確認されているにすぎない。海外では朝鮮半島，中国大陸に分布する。
現況・減少要因： 現状は選定理由参照。非常に急激な減少要因については，干潟の減少，水質汚濁などの理由だけでは説明が難しい。
文献： 2, 6, 58, 87, 115.



(木村昭一)

イチョウシラトリ 二枚貝綱ニッコウガイ科 三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR) 環境省：CR+EN
旧県：絶滅危惧 IA 類 (CR)
Serratina diaphana (Deshayes, 1856)

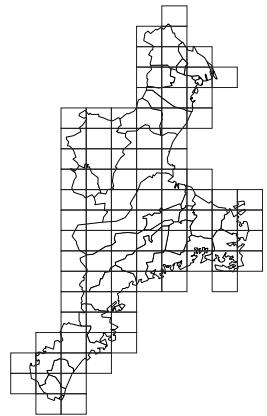
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に伊勢湾内の4か所の潮間帯から潮下帯より分布記録がある。現在伊勢湾内では生息が確認されない。2004年に英虞湾より本種の生息が初めて報告された。その後も他の生息地は発見されていない。
種の概要： 殻長45 mm，楕円形で膨らみは弱く扁平。殻表には板状の強い同心円状の肋がある。後端はとがる。殻の色彩は白色。
分布： 相模湾から九州，朝鮮半島，中国大陸に分布する。三河湾，愛知県側の伊勢湾では絶滅したと判断され，現在英虞湾が本種の分布の北・東限と考えられる。
現況・減少要因： 現状は選定理由参照。減少要因については，本種の生息場所が陸域に近く，埋め立て，護岸工事などによる干潟の消失が大きな影響を及ぼしていると考えられる。
保護対策： 英虞湾の生息地では，三重大学生物資源学部海洋生態学研究室及び志摩市主催による年3回以上のモニタリング調査が行われている。
文献： 2, 8, 72, 73, 87, 115, 125.



(木村昭一・木村妙子)

フジナミガイ 二枚貝綱シオサザナミ科 三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR) 環境省：CR+EN
旧県：—
Soletellina boeddinghausi Lischke, 1870

選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に伊勢湾から志摩半島，県南部の4か所の内湾域から分布記録がある。1980年代には既に個体数の非常に少ない種であり，1982年津市の伊勢湾沿岸で新鮮な合弁の死殻が採集されたのが最後で，現在古い殻の破片がかろうじて確認される程度で生息が確認できない。危機的生息状況であり本県から既に絶滅した可能性もある。
種の概要： 殻長100 mm，膨らみが弱い楕円形の大型二枚貝。
分布： 本州から九州に広く分布するとされていたが，現在，瀬戸内海，徳島県，九州南部で生息が確認されているにすぎない。生息場所は非常に限られていて，個体数も概して少ない。日本固有種。
現況・減少要因： 現状は選定理由参照。近似種で生息環境が近似しているムラサキガイは復活傾向が認められるが，本種は全く復活傾向が認められず，減少要因については，水質汚濁などの理由だけでは説明が難しい。
文献： 2, 87, 115.



(木村昭一)

ハナグモリ

二枚貝綱ハナグモリ科

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

環境省：VU

Glaucanome angulate Reeve, 1844

旧県：情報不足 (DD)

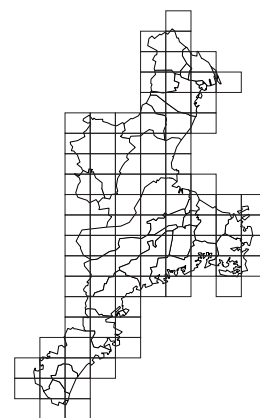
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に伊勢湾の2か所から分布記録がある。現在死殻すら採集できる地点はなく，生息が確認できない。東海地方で最も近年の生息記録と言えるのは，1970年代の名古屋港からの記録で，殻皮の保存された新鮮な合弁死殻が記録されている。危機的生息状況であり本県から既に絶滅した可能性もある。

種の概要： 殻長 25 mm，殻は薄質で膨らみが強い楕円形。

分布： 房総半島から九州の内湾域の最奥部の泥底の潮間帯中部付近に生息する。現在，東京湾には2か所生息地が確認されているが，三河湾，伊勢湾では生息が確認できない。瀬戸内海，徳島県，有明海，南西諸島では健全な生息地が確認されている。海外では朝鮮半島，中国大陸，フィリピンに分布する。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。減少要因については，干潟の消失などが考えられるが，三河湾，伊勢湾における著しい減少要因の理由は不明。

文献： 2, 50, 87, 115.



(木村妙子・木村昭一)

イブキムシオイ

腹足綱ムシオイガイ科

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：—

Cipangocharax sp.

旧県：—

選定理由： 御池岳の1地点の分布記録のみ。生息確認されたコグルミ谷は土石流により崩壊し，本種の生息が危惧される。県下の個体群は，本種の南限個体群として生物地理学的にも貴重。

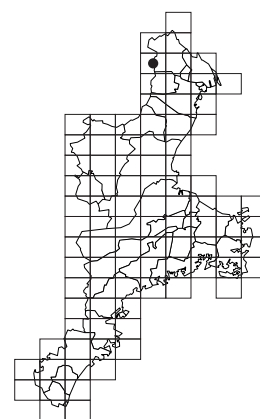
種の概要： 殻高 2.7 mm，殻径 4.0 mm，三重県下のムシオイガイ科で唯一，石灰質様の厚い蓋を持つ種。殻表面は成長肋が明瞭，殻口付近背面には虫様管を備える。未記載種。

分布： 岐阜県・滋賀県・三重県に分布。伊吹山系など石灰岩地に分布。現時点の三重県下においては，御池岳（コグルミ谷）での生息記録のみ。三重県の生息地は，本種の分布南限域にあたる。

現況・減少要因： 御池岳では，豪雨に伴う土石流の発生などにより環境が急激に悪化しており，生息が危ぶまれる。

保護対策： 藤原岳・御池岳の環境保全対策が必要。本種の新たな生息地の発見およびその環境の保護も重要。

文献： 20.



(早瀬善正)

ノミガイ

腹足綱ノミガイ科

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：VU

Tornatellides boeningi Schmacker & Boettger, 1891

旧県：—

選定理由： 既知の生息地は2か所のみである。

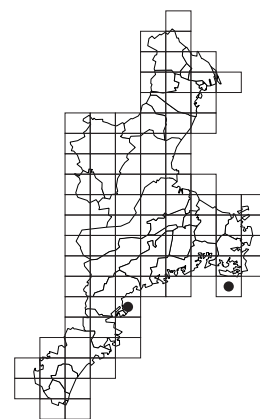
種の概要： 海岸地域の落葉の下や海浜植物などの根元付近に生息する殻高 3.2 mm，殻径 1.8 mm ほどの微小な円錐形の陸産貝類。褐色で光沢があり，口外唇は薄い。

分布： 国外では台湾，国内では本州（伊豆半島以南）・四国・九州・沖縄。県内では南勢，紀州地域に分布。

現況・減少要因： 志摩市1，紀北町1か所。生息地の2か所ともに島しょであり人為的な影響は少ないが，台風などの自然災害により生息環境が大きな影響をうけるおそれがある。

保護対策： 生息地が災害にみまわれた場合には，影響の程度を調査するなど注意を払う必要がある。

文献： 100.



(中 優)

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

キバサナギガイ

腹足綱キバサナギガイ科

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：CR+EN

Vertigo hirasei Pilsbry, 1901

旧県：—

選定理由： 三重県の記録は 5 地点以下。海浜植物が茂る自然度の高い砂質海岸に生息するが、そのような海浜部の環境は人的改変行為が行われ易い。本種は希少種でもある。

種の概要： 殻高 1.5 mm 程の短い円筒状の微小種。茶褐色で殻口には 4 本の歯状突起がある。

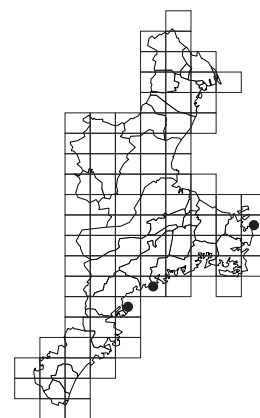
分布： 北海道・本州・四国・九州・沖永良部島など奄美諸島まで広く分布するが、生息地は少ない。三重県では散見的な分布情報のみであり、鳥羽市から県南部にかけての離島における分布記録が知られる。

現況・減少要因： 三重県では島嶼などの限られた良好な海浜部の環境で確認されている。鳥羽市菅島では、2007 年の調査時に、限られた砂浜で死殻がごく少数確認されたのみで生息が危ぶまれる状況。県下の各地域においても、現在も健全な個体群が維持されているのか疑わしい。

保護対策： 現時点で特に行われていない。本種が生息する海浜部の環境保全が必要。

特記事項： 本州では特に稀な種であり、生息個体数もきわめて少ない。

文献： 16. 127.



(早瀬善正)

カギヒダギセル

腹足綱キセルガイ科

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：VU

Mundiphaedusa heteroptyx (Pilsbry, 1902)

旧県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

選定理由： 既知の生息地は 5 か所以下。比較的標高の高い地域やブナ林等で生息が確認されているが、現在、生息が確認できるのは 1 か所。生息範囲は狭く、個体数も少ない。

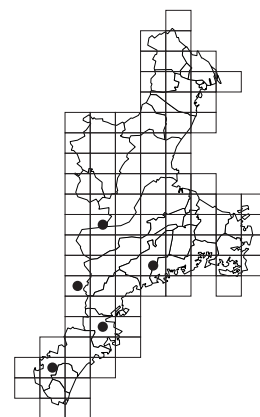
種の概要： 殻高 26 mm, 殻径 6.6 mm. 紡錘形で殻口はやや傾き広く開く。殻皮は淡黄色であるが、老成するとはげ落ちる。

分布： 近畿地方南部に分布し、1,000 m 級の山岳地帯の朽木や落葉下に生息する。県内では津市美杉町、大台町宮川、大紀町阿曾、尾鷲市、熊野市に分布する。

現況・減少要因： 生息場所は森林であり調査がすすんでいないため、新たな生息地が発見される可能性がある。森林の荒廃や乾燥化で、倒木や落葉層が消失している。

保護対策： 倒木や朽木に依存して生息するため、朽木や落葉層等の堆積環境が必要である。

文献： 36. 39. 44. 80. 87. 91. 124.



(中野 環)

ヒロクチコギセル

腹足綱キセルガイ科

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：CR+EN

Reinia variegata (A.Adams, 1868)

旧県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

選定理由： 既知の生息地は 5 か所以下。近年、生息が確認できるのは 2 地点のみ。生息地および個体数が減少している。

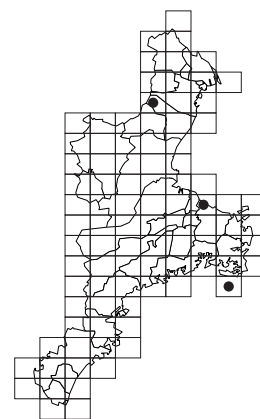
種の概要： 殻高 9 mm, 殻径 3 mm, 6 層でややふくれる。殻表は茶褐色の地に不規則な白色線条が現れる。樹上性。全国的に分布域が限定され、生息地が減少している。

分布： 関東以西の太平洋側に点々と分布する。県内では亀山市、伊勢志摩地域に生息する。

現況・減少要因： 亀山市および伊勢志摩地域の一部の生息地では生息を確認できなかった。現存する生息地でも個体数は非常に少ない。生息地が乾燥化の影響を受けている可能性がある。

保護対策： 森林を保全し、樹木の伐採による過度の乾燥化を防止することが必要である。

文献： 2. 36. 44. 45. 87. 91. 111. 124.



(中野 環)

ミカドギセル

腹足綱キセルガイ科

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：NT

Tyrannophaedusa mikado (Pilsbry, 1900)

旧県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

選定理由： 石灰岩地の固有種であり、三重県では、御池岳・藤原岳に生息する。石灰岩採掘やシカ食害に伴う林床の乾燥化、近年多発する豪雨に伴う山斜面の崩落や土石流などによる環境の悪化は、本種の生息に深刻な影響を及ぼしている。以前、本種が多産したガレ場の環境でも最近の調査においては、生息確認できなかった場所が多くなっている。三重県北部では、急速に個体群サイズが小さくなっていると考えられ、絶滅の危険度が増大している種である。

種の概要： 殻高 20~25 mm 程度で小型。螺層数はきわめて多く、18 層ほどである。殻頂以下の 10 層は、ほぼ同じ太さで細く、その後体層に向い徐々に太くなる。殻全体がきわめて細長い形態。殻は紫褐色であるが、稀に白色。殻表が風化しやすく、磨耗により灰白色の個体が多い。老成すると殻表面が藻類で覆われ緑色になる。(口絵 8 13)。

分布： 岐阜県・滋賀県・三重県の石灰岩地(伊吹・養老・鈴鹿山系)に分布する。

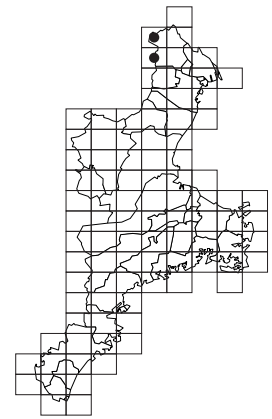
三重県では、北部石灰岩地(御池岳・藤原岳)のみに分布が確認されている。

現況・減少要因： 近年、多発する豪雨により、御池岳・藤原岳およびその周辺の石灰岩地では土石流が頻繁に発生し、崩落斜面が各所に見られ、環境荒廃が進んでいる。さらに、シカ食害による下草や低木の消失の影響も加わり、林床部の乾燥化や表土の流出も深刻な状況となっている。かつては湿潤な石灰岩のガレ場環境も、最近では、乾燥し、礫の下には本種の乾いた死殻のみが見られる状況である。本種は低木林林床の湿潤なガレ場環境に生息することから、これらの環境悪化の影響は深刻である。

保護対策： 御池岳・藤原岳を中心とする石灰岩地の環境保全対策が必要である。

特記事項： 本種は、伊吹・養老・鈴鹿山系石灰岩地のみ固有種であり、特徴的な殻形態でもあるため有名なキセルガイ科の一種である。三重県は、本種の南限分布域であるので、本個体群は分類学および生物地理学的にも貴重であり、その保全は重要である。

文献： 18, 19, 20, 41, 44, 87.



(早瀬善正・木村昭一・鈴木慎一)

カナマルマイマイ

腹足綱ナンバンマイマイ科

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：CR+EN

Satsuma japonica kanamarui (Hirase, 1909)

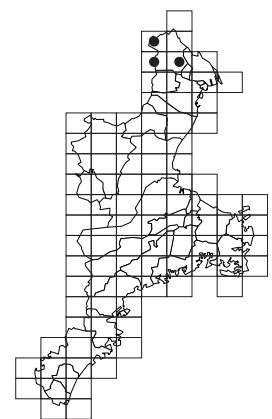
旧県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

選定理由： 藤原岳・御池岳周辺の石灰岩地固有の殻が低く平らな形状となるニッポンマイマイの形態型(亜種)としてきわめて重要。石灰岩採掘や近年多発する豪雨に伴う土石流による森林崩壊などの環境の悪化は、本種の生息好適環境の減少に大きな影響を及ぼしている。

種の概要： 殻径 20~30 mm 程度でやや大型。殻は、螺塔が平らなものと低円錐形のものが見られる。周縁は鋭く角張る。殻の色彩は、淡黄白色(口絵 8 19a)あるいは濃褐色(コハクカナマルマイマイ型)(口絵 8 19c)の 2 型が存在する。また、軟体にも黄白色と黒色の 2 型が見られる。同所に生息する小型のニッポンマイマイとは、分子系統解析の結果、同種とされるが、殻形態における中間的な個体は殆ど出現しない。したがって、これら両形態型(亜種間)には、同種ながら、生殖的隔離があるものと推測される。この隔離は、2 亜種の当地域への侵入年代の差により生じたのであろうと推測されるが、輪状種(ring species)の概念に近い関係なのかもしれない。

分布： 滋賀県・三重県の御池岳・藤原岳を中心とする石灰岩地に分布する。なお、岐阜県での分布記録は、人為的移入によるものであり自然分布ではないと考えられている。

現況・減少要因： 藤原岳南面は、石灰岩採掘により既に広域の環境が破壊されている。その上、近年多発する豪雨により、御池岳・藤原岳およびその周辺の石灰岩地では土石流が発生し、環境の崩壊・荒廃が進んでいる。さらに、シカ食害による下草や低木の消失の影響も加わり、林床部の乾燥化や表土の流出も深刻な状況となっている。かつて湿



潤な石灰岩のガレ場環境は至る所に見られたが、最近では、植生が失われ乾燥したガレ場が多くなり、礫の下には陸貝の死殻のみが多数散乱する状況が多い。本種は、陽あたりの良好かつ下草が良く茂り保湿性の高い低木林に生息することから、これらの環境悪化の影響は深刻である。

保護対策： 藤原岳の開発（石灰岩採掘）への制限が必要である。このほか、御池岳・藤原岳を中心とする石灰岩地の環境保全対策が必要である。いなべ市藤原町大貝戸の個体群（口絵8-19b）は、螺塔部が低円錐状とならず平坦な形状である。この形状の個体は、特に減少傾向が著しいので、早急な個体群維持の取り組みが必要と思われる。また、この個体群の生息地の一部は、大貝戸登山口休憩所の建設により消失しており、小規模な改変でもこのような希少種が生息している可能性が高い地域は専門家による厳密な事前調査を義務付けるべきである。

特記事項： 三重県指定希少野生動物種に指定されており、学術研究、増殖やその他の保護のための行為として知事が認めた場合を除き、捕獲等が禁止されている。

文献： 18. 19. 20. 33. 41. 44. 74. 87. 97.

(早瀬善正・木村昭一・木村妙子・鈴木慎一)

ヤマタカマイマイ

腹足綱ナンバンマイマイ科

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：NT

Satsuma papilliformis (Kobelt, 1875)

旧県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

選定理由： 三重県北部（藤原岳・御池岳）に生息記録があるが、確認例はきわめて少ない。三重県では、限られた地域だけに分布する種であり、本種個体群の保護は重要である。

種の概要： 殻高 30 mm 程で螺塔が高い。成貝は臍孔が閉じる。周縁は円く、淡褐色の細い色帯を有する。

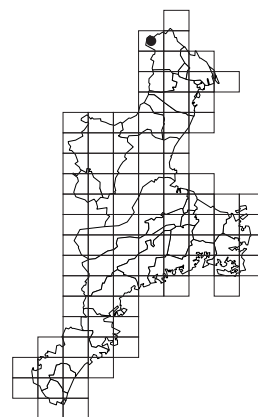
分布： 北陸・近畿北部・中国地方に分布。三重県では藤原岳・御池岳のみに分布する。

現況・減少要因： 最近の調査でも新鮮な死殻は稀に見られる程度。もともと個体数が少ない種であるが、藤原岳・御池岳共にシカ食害や豪雨に伴う森林環境の悪化は減少傾向の増大につながる。

保護対策： 藤原岳・御池岳の環境保全対策が必要。

特記事項： 三重県北部は、本種群の辺縁の分布地のひとつなので、そこに生息する本種個体群の保護は分類学および生物地理学的にも重要である。

文献： 18. 20. 41. 44. 87.



(早瀬善正・鈴木慎一)

ミヤマヒダリマキマイマイ (ヒラヒダリマキマイマイ型)

腹足綱オナジマイマイ科

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：VU

Euhadra scaevola (Martens, 1877)

旧県：絶滅危惧 II 類 (VU)

選定理由： 三重県北部で 5 地点以下。最近の生貝確認記録がきわめて少ない。

種の概要： 殻高 20 mm, 殻径 40 mm 程、螺塔が低い左巻き種。殻表面は成長肋が粗く、茶褐色の殻皮が覆う。臍孔は比較的小さく深い。三重県下の個体群は、種群内で大型低平のヒラヒダリマキマイマイ型。

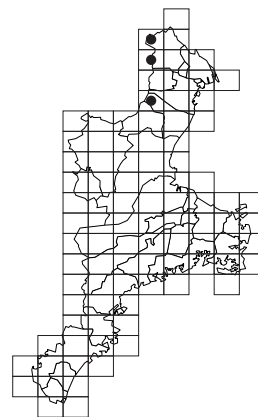
分布： 関東から近畿北部に分布。三重県では主に藤原岳・御池岳に分布。沢沿いなど湿潤な環境に多く見られる。

現況・減少要因： 藤原岳・御池岳共に豪雨に伴う土石流の発生、谷部斜面の崩壊および乾燥化などが要因と推測される。最近では、山麓部で死殻を確認するのがきわめて困難なほど著しい減少傾向にある。

保護対策： 藤原岳・御池岳の環境保全対策が必要。

特記事項： 関東地方より分布する種群の西限分布域近くに位置する個体群である上、関東の個体群とは形態的分化もあるので、個体群としての保護が重要である。

文献： 18. 20. 41. 44. 87.



(早瀬善正・鈴木慎一)

カタマメマイマイ 腹足綱オナジマイマイ科
Lepidopisum conospira (Pfeiffer, 1851)

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)
旧県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：VU

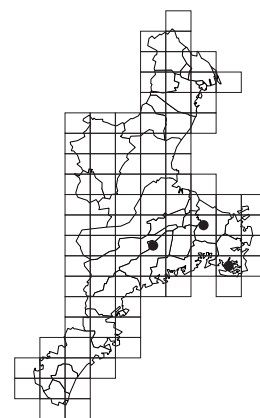
選定理由： 1951年に神宮林で初めて県下より記録された。1979年には伊勢市、志摩市の各1地点より報告された。その後1985年に大台町で死殻が記録されているが、現在生息は確認されていない。本種は河川沿いの草地や低木林に生息し、陸産貝類の調査としては把握しにくい生息場所であるが、長らく生息が確認されていないのは、生息にとって不適な環境変化が影響している可能性がある。

種の概要： 殻は小型で殻径7mm、殻は丸みを帯び球形に近い。臍孔は狭いが明確に開き、十分に成長した個体では殻口は反転、肥厚する。殻皮は赤褐色で成長脈に沿って突出した微小な低い三角形の突起で被われピロード状。

分布： 日本国内では群馬県から広島、四国に分布し、朝鮮半島からも記録がある。分布域における生息地点は少なく、散在している。また一度記録された生息地から再確認されない場合も多い。

現況・減少要因： 現況は選定理由参照。減少要因については、不明。

文献： 59. 87. 120.



(木村昭一)

カタハガイ 二枚貝綱イシガイ科
Pseudodon (Obovalis) omiensis (Heimburg, 1884)

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)
旧県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：VU

選定理由： 既知の生息地点数は10か所以下であり、採取や開発などの人為圧力が強く、減少するおそれが高い。

種の概要： 殻長75mm、殻高40mmの前方が狭まった長卵形の淡水産二枚貝。殻幅も小さく平たい。殻表には殻頂から後背隅に向かって分枝状の放射肋がある。

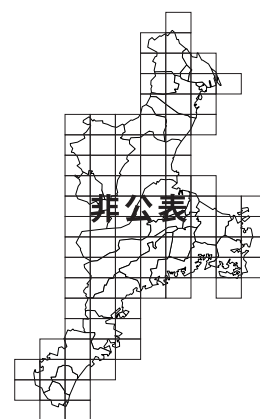
分布： 本州(中部以西)、四国、九州に分布。県内では北勢、中勢、南勢地域で記録がある。河川や細流などの砂泥底に生息。

現況・減少要因： 津市2、松阪市2、明和町1、玉城町2か所。年代は不詳であるが亀山市、1964年に伊勢市での記録があるが河川改修などにより絶滅したようである。圃場整備に伴う土水路の改修や観賞用捕獲などにより減少したものと推察される。

保護対策： 乱獲を防ぐ法的根拠を整備するほか、生息地の改変時には配慮を義務付ける必要がある。

特記事項： ヤリタナゴ、シロヒレタビラなどのタナゴ類の産卵母貝である。

文献： 1. 56. 83. 87. 99.



(中 優)

ツバサコハクカノコ 腹足綱コハクカノコ科
Neritilia mimotoi Kano, Sasaki, & Ishikawa, 2001

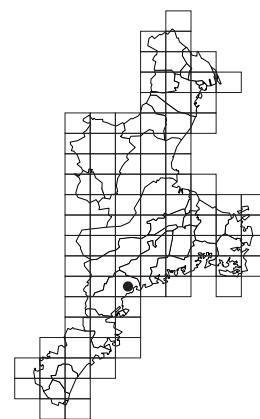
三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)
旧県：—

環境省：VU

選定理由： 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化、特殊生息環境。三重県では2009年に初めて南部の小河川の河口域(汽水域)で生息が確認された。周囲に地下水のしみ出しが認められる浅い水たまりのような河川床に半ば埋もれた石の下面に生息し、陸上からの土砂などが流れ込むと生息できなくなる。愛媛県宇和島市では井戸水から採集された。県内での生息場所は現在のところ1か所のみで、そこでは現在も生息が確認されているが、上述の生息環境が残された小河川の数m²程度の非常に狭い範囲でのみ生息が確認され、かつその範囲内で本種の付着している石は限られている。

種の概要： 最大個体の殻径は3.9mmで、原記載では最大個体の殻径が2.88mmであるので、三重県産の個体群は大型になる傾向があるようである。大型の個体は殻口が左右方向に急激に広がり、和名の由来となる翼状突起が発達する。蓋は石灰質。軟体部全体は白色半透明で、触角は長く殻径とほぼ同じ長さまで伸張する(口絵8-1)。

分布： タイプ産地は鹿児島県上甕島の貝池で、宮崎県、高知県(当初コハクカノコ属の1種として報告)、愛媛県で生息地が記録されている。和歌山県紀ノ川河口域では打ち上げられた砂中より、未成年の死殻が1個体だけ採集されている。2012年静岡県静岡市の河口域からもイガカノコ、フネアマガイの北進記録と共に生息が記録された。静岡県静岡市が現在の本種の分布東限及び北限である。本属中では最も北方に分布する種で、現在まで日本近海の温帯域でのみ生息が確認されている。比較的分布は広いが各県とも1~2か所程度の生息地点数で、生息地における個体数も多くない。高知県では新種記載前に絶滅危惧種としてレッドデータブックに掲載された。



現況・減少要因： 現状は選定理由参照。河川の水質の富栄養化、河川上流域の森林環境の悪化に伴う土砂の流入などの河川環境の悪化が大きな減少要因と考えられる。

保護対策： 定期的なモニタリングをしているが、三重県における本種の唯一の生息地も近年道路、護岸工事の改変を受けた。幸い個体群は保存されているが、非常に小規模な工事でも希少種の生息環境を完全に破壊する恐れがあり、行政による具体的な保護対策が望まれる。なおこの生息地はフネアマガイ（当地で三重県から初めて記録された南方系種）、ミヤコドリ、ニッポンマメアゲマキなどの希少貝類だけではなく、汽水性魚類の多様性に富む貴重な小河川である。

特記事項： 2001年に新種記載された種であり、特殊な生息環境に生息し、その面積も非常に小さくかつ微小種であるので、本種の分布調査自体が十分とは言えない。また前述したとおり、生息地は小規模な改変によっても破壊される可能性がある。今後さらなる詳細な分布調査とモニタリングが必要である。

文献： 11, 37, 38, 67, 96, 115.

(木村昭一)

| | | | |
|--|------------|------------------------------------|-----------|
| ホソコオロギ | 腹足綱オニツノガイ科 | 三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN) 旧県：情報不足 (DD) | 環境省：CR+EN |
| <i>Cerithium torresi</i> Lischke, 1870 | | | |

選定理由： 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。1979年以前にも宿浦1か所から分布記録があるだけである。現在でも鳥羽湾以南の熊野灘沿岸リアス式海岸に点在する小規模なよく保全された内湾域で古い死殻は稀に確認される。しかし、現在鳥羽市南部の入江、志摩市英虞湾の2か所でしか生息が確認されていない。2か所とも、本種の生息面積は非常に小さい。

種の概要： 殻長25mm、高い円錐形で、殻口は小さく、水管は短いが明瞭に突出する。殻頂部はとがる。殻の色彩は黒褐色から、黄色まで変異する。近似種のコオロギより殻が細く、殻質がうすく、殻表の彫刻が細かい（口絵8-3）。三重県の生息地の2か所では外洋水の影響の強い内湾域の潮間帯下部から潮下帯のアマモ場、もしくは褐藻群落周辺の砂泥底、石の周辺に生息する。またこの生息地では、コオロギと同所的に分布するが、鳥羽市南部の入江における詳細な生息環境調査の結果、コオロギがやや波あたりの強い岩礁や転石の上を好むのに対して、本種は内湾よりの砂泥底の藻の生えた転石上や周辺の砂泥上に多い。

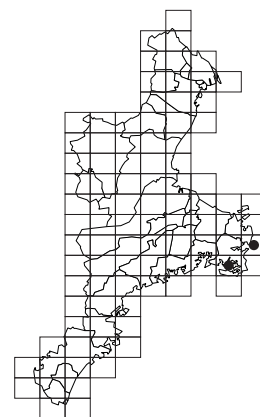
分布： 相模湾から九州に広く分布するとされていたが、現在鳥羽市、志摩市、佐賀県唐津市の各1か所でしか生息が確認されていない。南西諸島には分布しない。海外ではインド、太平洋に広く分布し、オーストラリア（トレス水道がタイプ産地）にも分布するとされているが、オーストラリア産の本種は日本産と比べて水管や殻口の形態に相違があり、同種かどうかは検討を要する。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。減少要因については、近似種でよく似た環境に生息するコオロギは、分布域のほぼ全域で復活傾向が認められ、比較的普通種になり、特に瀬戸内海では多産する生息地も少なくないが、コオロギと比べると、本種の生息状況は依然として深刻である。干潟の減少、水質汚濁などの理由だけでは減少理由の説明が難しい。

保護対策： 志摩市英虞湾の個体群については、三重大学生物資源学部海洋生態学研究室の年2回以上のモニタリング調査が行われている。現在本種の生息が確認されている1地点では2000年当初と比べて個体群の健全化が確認され、2014年春の調査では生息帯が潮間帯中部まで拡大している。しかし、英虞湾における他の生息地は依然として確認できない。

文献： 72, 73, 76, 87, 115.

(木村昭一)



カヤノミカニモリ 腹足綱オニツノガイ科
Clypeomorus bifasciata (Sowerby II, 1855)

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)
旧県：—

環境省：NT

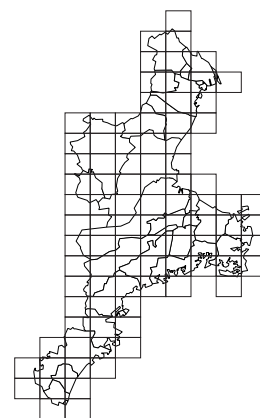
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に志摩市から県南部の3か所の内湾域の潮間帯から分布記録がある。現在英虞湾から南部の内湾域で古い死殻は採集されている。英虞湾で新しい死殻は稀に採集されるが，近年県下で生貝の採集記録はない。

種の概要： 殻長 20 mm，太い紡錘形で，殻は厚く殻表には黒いイボ状突起が並ぶ。外洋に面した内湾の潮間帯の岩礫底の岩や礫間にたまった小石・砂底にすむ。

分布： 房総，北長門海岸から南西諸島，インド・太平洋熱帯域まで広く分布する。日本でも九州南部から南西諸島では現在も健全な個体群が多く残されている。それとは対照的に本州から九州では著しく生息地，個体数とも減少している。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。非常に急激な減少要因については，生息環境の減少，水質汚濁などの理由だけでは説明が難しい。

文献： 72, 73, 87, 115.



(木村昭一)

タケノコカワニナ (レバックカワニナ) 腹足綱ゲカワニナ科
Stenomelania rufescens (Martens, 1860)

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)
旧県：絶滅危惧 II 類 (VU)

環境省：VU

選定理由： 既知の生息地は 10 か所以下。生息範囲は狭く，開発や汚水等の影響で生息地が消失している。近年，新たな生息地が確認される一方で，県南部の生息地が道路整備で改変された。また，伊勢湾，志摩市の生息地では，ほとんど絶滅状態であることから，今回の改訂でランクがアップされた。

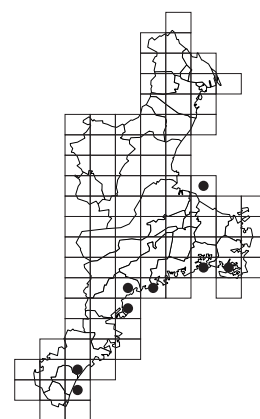
種の概要： 殻高 50 mm，縫合は浅く直線的。殻表はほとんど平滑で光沢のある黒褐色の殻皮で被われる。成長に伴い殻頂部は浸食され欠落する。

分布： 関東から九州に分布し，汽水域や内湾環境下に生息する。県内では松阪市から明和町および志摩市から熊野市にかけての熊野灘沿岸に生息する。

現況・減少要因： 熊野灘沿岸では死滅した個体は比較的多く得られるが，生貝を確認できる場所は少ない。水質の悪化や開発等の影響で減少したと考えられる。

保護対策： 河口域や内湾干潟の環境改変を控え，周辺水域の水質を保全する必要がある。

文献： 1, 62, 87, 111, 115, 123.



(中野 環)

アダムスタマガイ 腹足綱タマガイ科
Cryptonatica adamsiana (Dunker, 1860)

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)
旧県：—

環境省：NT

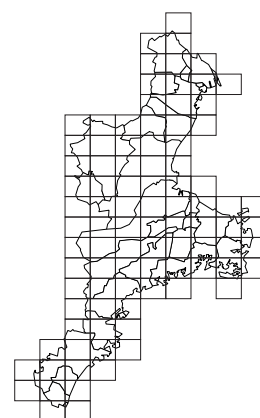
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前にも伊勢湾湾口部の1か所からしか分布記録がない。1980年頃には鳥羽湾の潮下帯のアマモ場周辺の泥底で生貝が採集された。当時でも既に個体数は著しく少なかった。現在伊勢湾湾口部から鳥羽市生浦湾などで死殻は確認されるが，生貝は採集できない。

種の概要： 殻長 20 mm，ほぼ球形の巻貝で，蓋も白色で石灰質。エゾタマガイと近似しているが，より小型で螺塔が高く，蓋や臍盤の形状が異なる。

分布： 房総半島から九州に分布するとされていたが，東京湾，相模湾から近年生息が確認されない。現在浜名湖，瀬戸内海から九州では健全な個体群が確認されている。三河湾では現在でもかろうじて生息が確認されているが，近年生息が確認されていない。伊勢湾の生息状況はさらに深刻である。

現況・減少要因： 現況は選定理由参照。干潟特にアマモ場の消失，水質汚濁などが減少要因と考えられる。

文献： 2, 52, 87, 115.



(木村昭一)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物
- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

イソチドリ 腹足綱トウガタガイ科 三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN) 環境省：CR+EN
Amathina tricarinata (Linnaeus, 1763) 旧県：—

選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化，特殊生息環境。1979年以前に県南部のリアス式海岸に位置する小規模な内湾域4か所から分布記録がある。近年でも伊勢湾湾口部から南部の小規模な内湾域の干潟や潮下帯から古い死殻は比較的広範囲で採集されるが，殻皮が保存された新しい死殻は，鳥羽市生浦湾の潮下帯，同市南部の入り江の潮下帯，英虞湾の数か所にすぎず，生貝が確認されたのは，英虞湾の1か所の狭い範囲の潮下帯の砂泥礫底だけである。

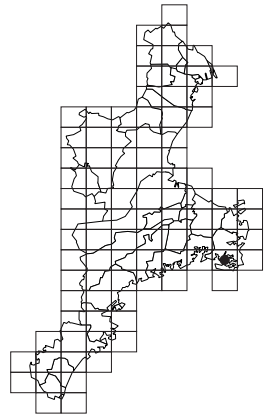
種の概要： 殻長15 mm，やや長い方形の笠型をしている。一時はマキモノガイなどと共にイソチドリガイ科として独立した経緯があるが，現在は高円錐形で多数の螺層を持つ貝殻がほとんどのトウガタガイ科貝類に戻されている。殻表には殻頂から殻口にかけて3本の強い放射状の肋がある。生貝は茶褐色の厚い殻皮で殻表が被われる。腹足には中央部に前後方向の深い溝があり，特異な形態をしている。砂泥質の干潟低潮線から水深20 mほどの潮下帯に分布し，タイラギ，ハボウキ，イタボガキ，イタヤガイ，アズマニシキ，稀にマガキ（瀬戸内海での1例のみ）などの大型二枚貝の腹縁付近に付着し，口吻を伸ばして体液を吸う。付着された貝殻には本種特有の黒色の付着痕が認められる。前述した英虞湾の生息域ではハボウキ，マガキも生息していたが，全ての個体がアズマニシキに付着していた（未発表資料：口絵8-7）。

分布： 房総から九州，中国，香港，フィリピンに分布する。現在，日本で生息が確認されているのは英虞湾を東限とし，瀬戸内海中央部，有明海のみで，生息場所，個体数共に非常に少ない。フィリピン産の個体は日本産と比べて著しく大成し，殻幅も大きいので同種かどうかは検討を要する。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。減少要因については，タイラギ，ハボウキ，イタボガキは絶滅危惧種で宿主自体の個体数が減少していること，同じように生きた貝類に付着する外来種シマメノウフネガイの大量繁殖による，本種の排除などが考えられる。

保護対策： 英虞湾の生息地では，三重大学生物資源学部海洋生態学研究室で年2回以上のモニタリング調査が行われている。潜水調査により2年間は比較的多くの生貝が観察できたが，最近の数年間には生息が確認できない（未発表資料）。一時的な個体群復活であった可能性も考えられる。

文献： 2, 7, 51, 72, 73, 87, 115.



(木村昭一)

ヒメゴウナ 腹足綱トウガタガイ科 三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN) 環境省：NT
Monotygmia eximia (Lischke, 1872) 旧県：—

選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に伊勢湾から県南部の3か所の内湾域の潮下帯から分布記録がある。現在伊勢湾湾口部から南部の小規模な内湾域の干潟や潮下帯から古い死殻は割合広範囲で採集される。非常に新しい死殻は，伊勢湾湾口部，鳥羽市生浦湾の潮下帯で見られるのみで，近年生貝は採集されていない。

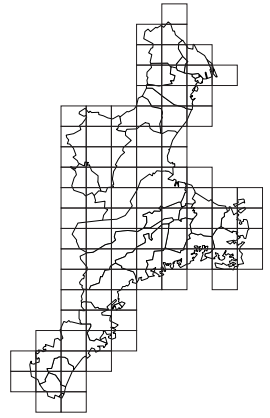
種の概要： 殻長20 mm，細長い高円錐形でほぼ同間隔の螺肋を持つ。殻は焦げ茶色から白色。近似種には大型二枚貝に寄生して体液を吸う種もあるが，本種の生態については不明。

近年，近似の未記載種と考えられる種が宮城県や島根県で確認されている。その他本属の種には現状不明の種が少なからず含まれている。

分布： 房総から九州，朝鮮半島に分布する。生貝の採集例は非常に少ない。現在，日本で生息が確認されているのは英虞湾を東限とし，瀬戸内海中央部，九州北部などに限られている。

現況・減少要因： 既現状は選定理由参照。減少要因については，不明。

文献： 87, 115.



(木村昭一)

ドロアワモチ

腹足綱ドロアワモチ科

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：VU

Onchidium cf. hongkongense Britton, 1984

旧県：—

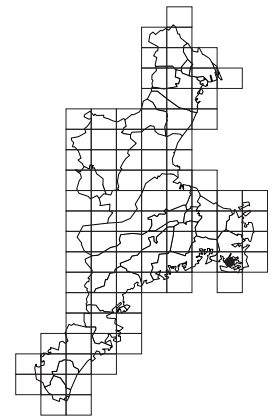
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。筆者らによって 2000 年代に入って，志摩市英虞湾で生息が確認された。現在同湾の湾奥部の数か所で生息が確認されているが，毎年生息を確認できるわけでもなく，個体数は概して少ない。現在県下では英虞湾のみから生息が記録されている。現在英虞湾は本種の分布北限かつ東限である。

種の概要： 体長 30～50 mm 程度で殻を持たず軟体部の伸縮幅は大きい。いわゆるナメクジ状で，背面には多くのイボ状突起がある。腹足部は黒褐色でその他の腹面は橙褐色（口絵 8-8）。塩性湿地周辺の潮間帯の中部から上部にかけて生息するが，底質に潜り込むので季節と条件により発見は非常に困難である。

分布： 英虞湾の他，愛媛県，長崎県，南西諸島，香港，シンガポールに分布するが，海外の個体と日本産個体が同種かどうかは検討を要する。本州では生息地，個体数共に非常に少ない。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。塩性湿地，潮間帯上部の破壊が大きな減少要因と考えられる。

文献： 72. 73. 115.



(木村昭一・木村妙子)

ナラビオカミミガイ

腹足綱オカミミガイ科

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：VU

Auriculastra duplicata (Pfeiffer, 1854)

旧県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1999 年に伊勢湾沿岸 1 か所の生息地が報告された。その後筆者らによる詳細な分布調査により，伊勢湾沿岸 2 か所，鳥羽市，英虞湾，五ヶ所湾からも本種の生息を報告したが，現在，健全な個体群は残されていない。また 1999 年に報告した生息地では近年生息が確認されていない。

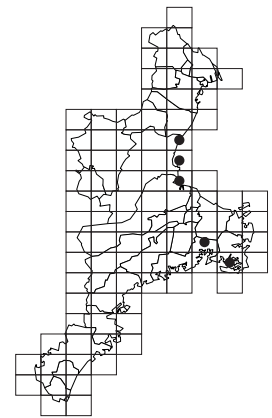
種の概要： 殻長 10 mm。殻は卵形で，殻質は厚い。殻皮は淡黄褐色で光沢が強い。

分布： 三河湾から九州，沖縄本島，中国大陸に分布する。陸上植生まで良く保全されたヨシ原塩性湿地内の朽ち木，石の下などに生息する。沖縄本島の個体群は生息環境や殻の形態的など相違が認められ，ナラビオカミミガイ沖縄型として区別されることもある。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。本種にとって上述した様な塩性湿地の消失が最も大きな減少要因と言える。

保護対策： 伊勢湾の生息地については，三重大学生物資源学部海洋生態学研究室による年間 3 回以上のモニタリング調査が行われている。

文献： 2. 46. 53. 66. 71. 72. 73. 87. 115.



(木村昭一・木村妙子)

シノミミミガイ

腹足綱オカミミガイ科

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：CR+EN

Cassidula plecotrematoides japonica Moellendorff, 1901

旧県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

選定理由： 既知の生息地は 10 か所以下。生息範囲は広いが，現在生息が確認できるのは限られている。

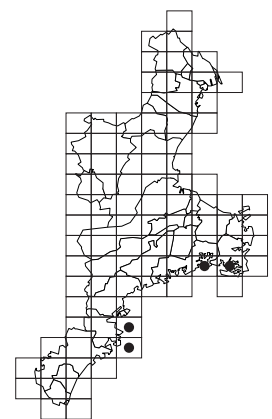
種の概要： 殻高 10 mm，殻径 7 mm。殻は太い紡錘形。栗色で鈍い光沢を持つ。表面が侵食されている場合も多い。

分布： 関東から九州にかけて分布し，内湾の礫間に生息する。県内では志摩半島から熊野灘沿岸にかけて分布する。

現況・減少要因： 現在，生息が確認できる場所は鳥羽市から南伊勢町に限られる。護岸改修による生息地の消失，海洋汚染等の影響で減少したとも考えられるが，十分には解明されていない。

保護対策： 内湾域での生息確認が急務である。内湾域の水質環境の保全策が必要である。

文献： 30. 44. 86. 87. 111. 112. 115. 118. 123.



(中野 環)

- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物

- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

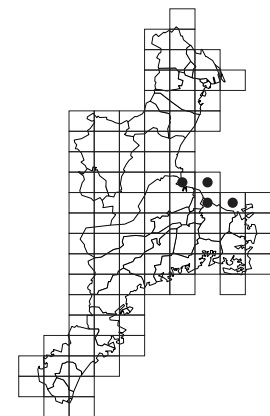
哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

キヌカツギハマシイノミ 腹足綱オカミミガイ科
Melampus (Melampus) sincaporensis Pfeiffer, 1855

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)
旧県：絶滅危惧 II 類 (VU)

環境省：VU

選定理由： 既知の生息地は 5 か所以下。港湾改修や埋め立てにより生息地が減少している。また、健全な個体群が生息する生息地でも乾燥化が進行している。
種の概要： 殻高 10 mm, 殻幅 8 mm, 殻は卵形で黒褐色の色帯がある。殻表面は褐色の殻皮で被われる。
分布： 東南アジアから東アジアにかけて分布。国内では三浦半島以南、瀬戸内海、有明海に分布し、河口域に発達したヨシ原湿地に生息する。県内では松阪市から伊勢市にかけて分布する。
現況・減少要因： 現在、松阪市で生息を確認できるが、河口域のヨシ原湿地の環境改変、水質汚濁等により生息環境が悪化し、個体数が減少した。
保護対策： 河口域の大規模な環境改変を控え、周辺水域の水質を保全する必要がある。
文献： 44, 71, 87, 104, 111, 115, 123.



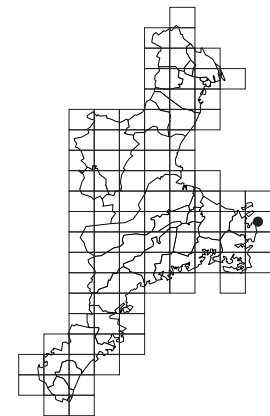
(中野 環)

イセシラガイ 二枚貝綱ツキガイ科
Anodontia bialata (Pilsbry, 1895)

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)
旧県：—

環境省：CR+EN

選定理由： 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。1979 年以前に伊勢湾から県南部の 3 か所の内湾域の潮下帯から分布記録がある。現在伊勢湾湾口部から南部の小規模な内湾域の干潟や潮下帯から成貝の古い死殻破片は割合広範囲で採集される。合弁の新しい死殻は、伊勢湾湾口部、紀伊長島町で採集されているにすぎない。近年、本県で生貝（殻長 20 mm 以下の幼貝のみ）が採集されているのは鳥羽市生浦湾の潮下帯からのみである。
種の概要： 殻長 80 mm, やや扁平な球形。殻は大きいが薄質で脆い。生貝の殻表は黄色褐色の殻皮で被われる。底質に深く埋没して、強力な斧足で硫化物を巻き上げる。鰓内に硫酸酸化細菌を共生させている。
分布： 北海道南部から九州、朝鮮半島、中国、インドに分布する。生貝の採集例は非常に少ない。
現況・減少要因： 現状は選定理由参照。減少要因については、干潟の減少、水質汚濁などの理由だけでは説明が難しい。
文献： 2, 25, 60, 68, 87, 115.



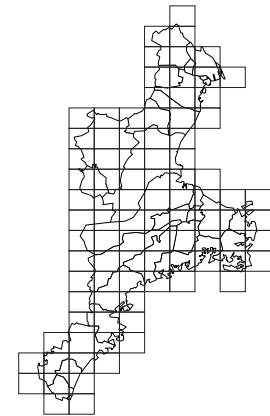
(木村昭一)

ベニガイ 二枚貝綱ニッコウガイ科
Pharaonella sieboldii (Deshayes, 1855)

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)
旧県：—

環境省：NT

選定理由： 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。1979 年以前に伊勢湾から県南部の 4 か所の内湾域の潮下帯から分布記録がある。現在伊勢湾湾口部から南部の内湾域の潮下帯から古い死殻半片は採集されるが、合弁の新しい死殻すら採集できない。本種は外洋域にも個体群が存在したが、近年全く確認できない。垂直分布を幅広く十分に調査できていないので断言できないが、本県から絶滅した可能性も考えられる。
種の概要： 殻長 60 mm, 大型で扁平なくさび形の濃い紅色の二枚貝で、死殻でもよく目立つ種である。
分布： 北海道南部から九州、種子島、朝鮮半島に分布する。近年福岡県、石川県など日本海側の有名な多産地でも個体数が激減している上に、生貝の採集例はほとんど無い。
現況・減少要因： 現状は選定理由参照。環境悪化が著しい内湾域のみならず外洋域でも著しい減少が認められ、減少要因については不明。
文献： 2, 87, 115.



(木村昭一)

フルイガイ

二枚貝綱アサジガイ科

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：CR+EN

Semele cordiformis (Holten, 1802)

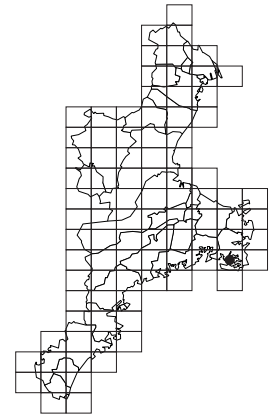
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前には英虞湾から県南部の内湾域の4か所の潮間帯から潮下帯より分布記録がある。現在，英虞湾の1か所でのみ生息が確認されているが個体数は非常に少ない。県南部の内湾域にも生息している可能性があるが，現在死殻すら採集できない。

種の概要： 殻長50mm，類円形でやや厚く，膨らみは弱い。殻頂は背縁のほぼ中央部にある。殻表は同心円細肋と放射状の溝で布目状。

分布： 房総半島から九州，中国大陸，東南アジアに分布する。外洋水の影響の強い内湾の岩礁の間に溜まった砂礫底に生息する。英虞湾が本種の現在の北限分布地と考えられる。本種は，ケマンガイと同所的に生息していることがあるが，非常に個体数は少ない。現在九州の一部に数か所の健全な個体群が残されているにすぎない。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。非常に急激な減少要因については，干潟の減少，水質汚濁などの理由だけでは説明が難しい。

文献： 87. 115.



(木村昭一・木村妙子)

アリソガイ

二枚貝綱バカガイ科

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：VU

Coelomastra antiquate (Spengler, 1802)

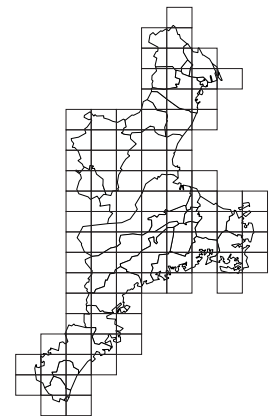
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に伊勢湾3か所，県南部の1か所の内湾域の潮下帯から分布記録がある。現在伊勢湾中部で稀に新鮮な死殻が打ち上げられる程度で，生息が確認できない。本種は伊勢湾湾口部より外洋域にも個体群が存在したが，近年全く確認できない。

種の概要： 殻長120mmに達する大型の二枚貝。いわゆるハマグリ型の貝殻で殻頂部は紫青色で，放射線はない。大型であることとその色彩から死殻でもよく目立つ種である。

分布： 房総半島から九州，朝鮮半島，中国大陸，東南アジアに分布する。徳島県，宮崎県には多産地，相模湾や日本海西部では生息が確認されている。しかし，近年かつての多産海域であった三河湾，伊勢湾からほとんど姿を消した。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。環境悪化が著しい内湾域のみならず外洋域でも著しい減少が認められ，減少要因については不明。

文献： 2. 87. 115.



(木村昭一)

ユキガイ

二枚貝綱バカガイ科

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：NT

Meropesta nicobarica (Gmelin, 1791)

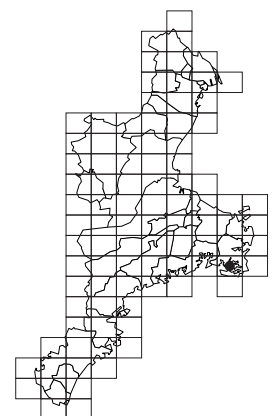
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前には県南部の内湾域の3か所の潮下帯より分布記録がある。現在では英虞湾の1か所でのみ生息が確認されているが個体数は非常に少ない。県南部の内湾域にも生息している可能性があるが，現在古い死殻すら非常に少ない。

種の概要： 殻長50mm，殻は白色卵形で薄く，後端は開く。殻表はやや強い放射肋で被われる。水管は太く長い。

分布： 房総半島から南西諸島，インド・太平洋に分布する。外洋水の影響のある内湾奥のアマモ場周辺の泥質干潟に深く穿孔する。伊勢湾以北ではほぼ絶滅状態で，死殻すら確認できない。英虞湾が本種の現在の北限分布地と考えられる。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。非常に急激な減少要因については，干潟の減少，水質汚濁などの理由だけでは説明が難しい。

文献： 2. 72. 87. 115.



(木村昭一・木村妙子)

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ヤチヨノハナガイ

二枚貝綱バカガイ科

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：CR+EN

Raeta pellicula (Deshayes, 1854)

旧県：

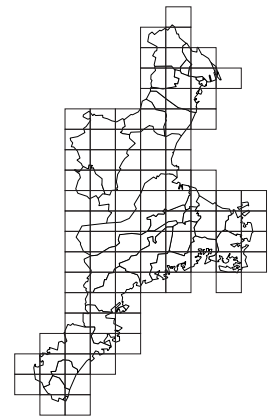
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に伊勢湾3か所の潮下帯から分布記録がある。現在伊勢湾中部で稀に新鮮な死殻破片が打ち上げられたり，潮下帯から比較的新しい半片死殻が採集されるが生息が確認できない。

種の概要： 殻長40mmで殻は白色半透明できわめて脆い。湾内の還元状態の砂泥底に多産するチヨノハナガイに近似するが，大型で肋が細かい。

分布： 福島県から九州，朝鮮半島，中国大陸，台湾，東南アジアに分布する。干潟から潮下帯の砂泥底に分布するが，生貝の採集例はきわめて稀である。近年日本で生貝の記録があるのは瀬戸内海だけである。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。干潟の消失，水質汚濁などが減少要因と考えられる。

文献： 2, 61, 87, 115.



(木村昭一)

ウラカガミ

二枚貝綱マルスダレガイ科

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：CR+EN

Dosinia (Dosinella) corrugata (Reeve, 1850)

旧県：

選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に伊勢湾から県南部の3か所の内湾域の潮下帯から分布記録がある。現在伊勢湾中央部から県南部にかけての比較的広い範囲の小規模な内湾域の干潟や潮下帯から古い死殻破片は時折採集される。合弁の比較的新しい死殻は，近年では鳥羽市生浦湾，紀伊長島町で採集されているにすぎない。最近，日本で生貝が確認されたのは2008年に伊勢湾最奥部の名古屋港沖の水深約6mの潮下帯のシルト泥底から採集された2個体だけである。本県では現在生息が確認できないため，絶滅した可能性も考えられたが，2013年に紀伊長島町の汽水湖からは，生きていた状態で合弁の死殻がイセシラガイの死殻と共に大量に発見された。また，近年鳥羽市生浦湾最奥部の潮下帯から採集された合弁死殻3個体はいずれも靱帯が保存されており，非常に新鮮な状態なので，本種が生息している可能性が残されていると判断された。

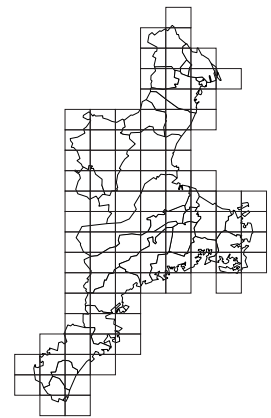
種の概要： 殻長65mm，殻は丸みを帯びた方形で膨らみは弱く，殻質は厚い。殻頂部は前傾し，輪肋は細かいが強く密にある。軟体部は白色で水管は長く伸長する。水管の長さから考えて底質にやや深く穿孔すると考えられる。潮間帯に普通に見られるカガミガイに近似するが，殻がやや小型でさらに扁平で外形がやや角張るので明瞭に区別される。干潟域にも生息が記録されているが，カガミガイと比べて生息水深が深く，潮下帯に分布の中心がある。水深20m程度までの潮下帯のシルト泥底に生息する。朝鮮半島の内湾域では，現在も比較的普通に生息し，地域によっては大量に採集され食用に供されているが，殻質が薄くかなり小型で日本産と同種であるかどうかは検討を要す。

分布： 陸奥湾から九州，朝鮮半島，中国大陸に分布する。東京湾や大阪湾でも大量の半化石が採集され，近年になって絶滅したと考えられる。多くの希少種の生息が記録されている熊本県羊角湾でも前述した紀伊長島町の例と同じく，イセシラガイと共に多くの死殻が生きていた状態で見つかったが，生貝は採集されていない。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。本種は特に淡水の影響の強い内湾最奥部のシルト泥底に生息し，陸域からの影響を受けやすい。また干潟域よりやや深い水深に分布の中心があるので無酸素水塊の影響を受けやすいと考えられる。したがって水質汚濁，干潟の消失，航路の浚渫，それらに伴う無酸素水塊の発生が本種の著しい減少の要因として考えられる。

保護対策： 保護対策は全く行われていない。それ以前の問題として前述のように本種の生息場所はモニタリング調査が容易ではなく，県下全域の生息の可能性のある海域の詳細な調査を行う必要がある。

文献： 2, 68, 87, 115, 126.



(木村昭一・木村妙子)

ウスハマグリ

二枚貝綱マルスダレガイ科

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：CR+EN

Pitar kurodai Matsubara, 2007

旧県：

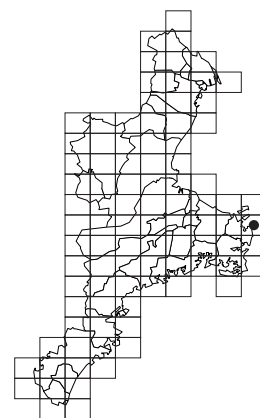
選定理由： 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。和名としてのウスハマグリ（学名は異なる）は 1979 年以前に伊勢湾湾口部から県南部の水深 30~50 m の海域 3 か所から分布記録がある。本種は比較的多くの近似種があり、分類学的にも混乱していて、本種としてはやや生息水深帯が深く、正確に同定された記録かどうかは検討を要す。近年、本県で生貝が採集されているのは鳥羽市生浦湾の潮下帯からのみである。個体数は非常に少ない。

種の概要： 殻長 30 mm、膨らみがやや強いハマグリ型の二枚貝で、殻質はうすく白色。生時は殻表が砂粒で被われている個体が多い。

分布： 福島県から九州、海外からも記録があるが、本種と同種であるかどうかは検討を要する。生貝の採集例は非常に少ない。本種は本州中部からの九州固有種である可能性も示唆されている。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。減少要因として干潟の減少、水質汚濁などがあげられる。

文献： 25. 87. 115.



(木村昭一)

コツツガイ

二枚貝綱ツクエガイ科

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：NT

Eufistulana grandis (Deshayes, 1855)

旧県：

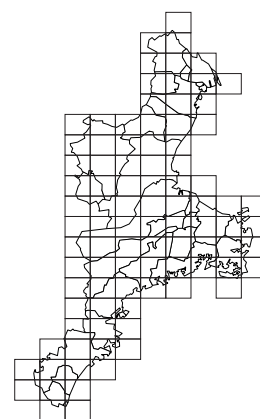
選定理由： 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。1979 年以前に伊勢湾 2 か所の潮下帯から分布記録がある。現在伊勢湾中部から湾口部で稀に棲管が打ち上げられたり、潮下帯から比較的新しい棲管や半片死殻が採集されるが生息が確認できない。最近では 2014 年に三重大学生物資源学部実習船勢水丸のベントスネットの操業で伊勢湾湾口部から棲管と共に中の貝殻まで保存された極めて新鮮な死殻が採集され、現在も生息していると判断された。

種の概要： 殻長 40 mm で殻は白色で長方形。全長 100 mm を越える細長い石灰質の棲管を分泌してその中に生息する。棲管は先端部分を残して、底質中にはほぼ垂直に埋もれる。

分布： 房総半島から南西諸島、インド、太平洋に分布する。沖縄本島では干潟域の一部と潮下帯に健全な個体群が確認されているが、近年本州から九州で生貝が採集された記録がない。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。干潟の消失、水質汚濁などが減少要因と考えられる。

文献： 2. 58. 60. 87. 115.



(木村昭一)

イソカゼ

二枚貝綱ヤドリシジミ科

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：CR+EN

Basterotia gouldi (A. Adams, 1864)

旧県：

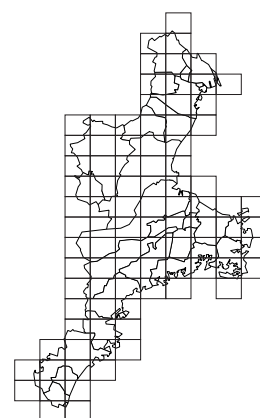
選定理由： 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化、特殊生息環境。本県より採集記録はないが、三重大学勢水丸によるドレッジ調査では 2000 年代に伊勢湾の潮下帯で死殻が確認され、現在でも伊勢湾湾口部の水深 10~40 m の潮下帯砂泥底から新鮮な死殻半片が比較的普通に採集されている。新鮮な死殻の個体数から考えて、現在も生息していると考えられるが、三重県から生貝が記録されたことはない。干潟では死殻ですら稀である。

種の概要： 殻長 10 mm、丸みのある四角形の殻で、両殻は完全に閉じない。ミドリユムシ類の巣穴周辺に共生する。

分布： 房総半島から九州に分布する日本固有種。近年生貝は浜名湖と瀬戸内海で記録されたが、浜名湖では宿主のミドリユムシ類の生息が確認できなくなり、ここ数年生息が確認できない。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。減少要因については、宿主のミドリユムシ類が著しく減少していることがあげられる。

文献： 2. 87. 115.



(木村昭一)

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

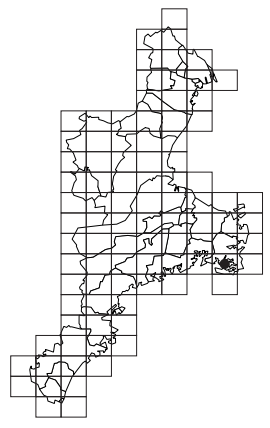
NT

DD

- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物
- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

オウギウロコガイ 二枚貝綱ウロコガイ科 三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN) 環境省：CR+EN
Galeommella utinomii Habe, 1958 旧県：—

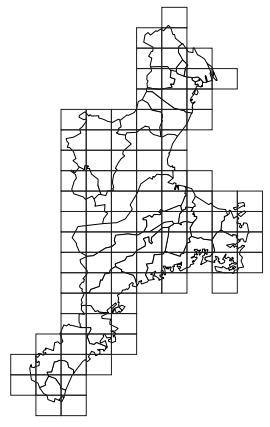
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．三重県から正式な産出記録のない種（この記載が最初の記録になる）．2009年11月に英虞湾湾口部の潮下帯から生貝1個体が採集されている．その後本県からは生息が確認されていない．本種はいずれの生息地においても個体数が非常に少なく，小型種であるのでモニタリングが難しい．
種の概要： 殻長10mmで殻は白色半透明できわめてうすい．殻表には太い放射肋が25本程度発達する．生時は多くの橙赤色の突起をもった白色の外套膜で殻が被われる．
分布： 東京湾から九州に分布する日本固有種．東京湾では近年生息が確認されない．現在伊豆半島北部のアマモ場が本種の分布の北・東限である．浜名湖からは2007年に生息が報告され，その後も個体数は非常に少ないが，継続的に生息が確認されている（未発表資料）．
現況・減少要因： 現状は選定理由参照．干潟の消失，水質汚濁などが減少要因と考えられる．
文献： 24, 70, 87, 115.



(木村昭一)

ウミタケ 二枚貝綱ニオガイ科 三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN) 環境省：VU
Barnea (Umitakea) japonica (Yokoyama, 1920) 旧県：—

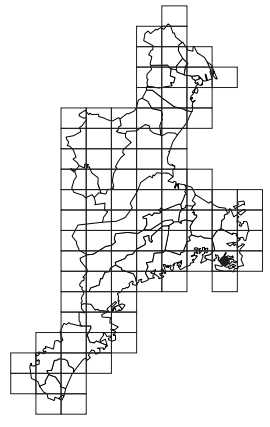
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に伊勢湾2か所の潮下帯から分布記録がある．現在伊勢湾最奥部から湾口部の潮下帯に比較的新しい死殻半片が稀に採集されるが生息が確認できない．近年伊勢湾に隣接する三河湾の干潟で生貝が採集された．
種の概要： 殻長100mmで殻は白色薄質で脆い．大きな水管を持ち，有明海では食用にされているが，資源量は著しく減少している．
分布： 北海道南部から九州，ロシア（日本海沿岸），朝鮮半島，中国大陸に分布する．国内では広い範囲の潮下帯より死殻の採集例があるが，現在生息が確認されているのは三河湾，瀬戸内海の一部，有明海，八代海に限定されている．
現況・減少要因： 現状は選定理由参照．干潟の消失，水質汚濁などが減少要因と考えられる．
文献： 2, 68, 87, 115, 116.



(木村昭一)

コオキナガイ 二枚貝綱オキナガイ科 三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN) 環境省：CR+EN
Laternula (Laternula) impura (Pilsbry, 1901) 旧県：情報不足 (DD)

選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化．1979年以前に本種の記録はない．2004年に筆者らが英虞湾より本種の生息状況を初めて報告した（三重県での生息地が発見されたばかりで調査不足であったので，ランクはDDと評価された）．その後も英虞湾内から南部のリアス式海岸に点在する小規模な内湾域を調査しているが，死殻すら確認できず，他の生息地は発見されていない．現在も英虞湾最奥部の1か所の砂泥質干潟の潮間帯中部から下部でのみ生息が確認されているだけである．年による個体数の変動もあるが，健全な個体群が現在も残されている．ただし，生息域の面積は非常に小さく，陸域に近いため，護岸工事や宅地造成などが大きな脅威となる．三河湾では1965年に採集された生貝標本が記録されているが，現在は生息が確認されず絶滅状態で，現在英虞湾が本種の分布の北・東限と考えられる．
種の概要： 殻長40mm，殻はやや長い卵形，白色薄質で殻表には微細な顆粒状突起がある．殻の前・後端は開き，水管は太い（口絵8-21）．前述の生息地には近似種のソトオリガイも生息しているが，本種は殻が全体に丸みが強く，短く，太いこと，二枚の殻をつなぐ蝶番の構造に大きな相違があるので，明瞭に区別できる．また，オキナガイにも近似するが，生息環境は，オキナガイが外洋に面した干潟の低潮線付近から潮下帯の砂泥底を好み内湾奥の泥質干潟には生息しないこと，オキナガイの殻はコオキナガイより通常大型になり，殻後端がやや細く水管状にくびれること，オキナガイの殻質は，白濁して不透明なコオキナガイに比較して透明感が強く，さらに薄質であることなどから容易に区別できる．



(木村昭一)

分 布： 房総半島から南西諸島，中国大陸に分布する。相模湾（三浦半島），三河湾，伊勢湾では絶滅状態で，前述のように現在，国内で生息が確認されているのは，英虞湾，瀬戸内海の一部，有明海，九州西岸の一部に限られ，かつて比較的生息地の多かった，南西諸島では埋め立てなどで多くの個体群が絶滅し，現在生息地はほとんど残されていない。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。減少要因については，本種の生息場所が陸域に近く，埋め立て，護岸工事などによる干潟の消失が大きな影響を及ぼしていると考えられる。

保護対策： 英虞湾の生息地では，三重大学生物資源学部海洋生態学研究室による年 2 回以上のモニタリング調査が行われている。また志摩市農林水産部里海推進室の市民干潟調査としての英虞湾いきもの調査隊事業によっても年 1 回モニタリング調査が行われている。

文 献： 2. 72. 73. 115.

(木村昭一・木村妙子)

バラフマテ

二枚貝綱マテガイ科

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：NT

Solen roseomaculatus Pilsbry, 1901

旧県：情報不足 (DD)

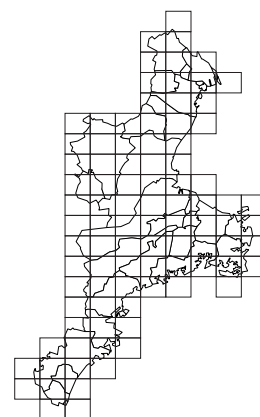
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979 年以前に伊勢湾，的矢湾，県南部の水深 50 m の 3 か所から分布記録がある。本種は潮間帯下部から潮下帯に生息する種であり，前述の記録の水深は深すぎる。特徴的な本種であるので誤同定の可能性は低いが，生貝記録かどうかは疑問である。現在伊勢湾口部から鳥羽市生浦湾の潮下帯から古い死殻半片は普通に採集されるが，生息は確認されていない。

種の概要： 殻長 50 mm，背側縁が背方向にそり，殻表に赤色の斑紋がある。

分 布： 房総半島以南，中国大陸，インド・西太平洋に分布記録があるが，南西諸島に分布するジャングサマテガイもしくは近似の別種と混同されている可能性がある。現在，瀬戸内海中央部には健全な個体群が残っている。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。減少要因については，干潟の減少，水質汚濁などの理由だけでは説明が難しい。

文 献： 2. 87. 115.



(木村昭一)

マルタニシ

腹足綱タニシ科

三重県：絶滅危惧 II 類 (VU)

環境省：VU

Cipangopaludina chinensis laeta (Martens, 1860)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

選定理由： かつては県内各地に生息しており，既知の生息地点数は 30 か所程度。近年，新たな生息地も確認されているが，既知の生息地が水田の乾田化等の改変により数多く消失しており，絶滅のおそれが高まっていることからランクを変更した。

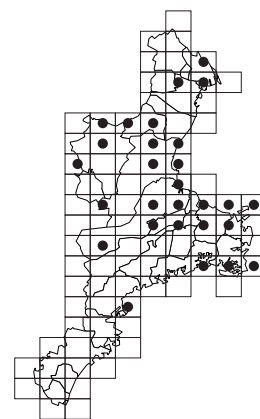
種の概要： 殻の各層が丸くふくらみ，縫合がくびれたタニシ。最大で殻高は 60 mm，殻径は 45 mm に達するが，通常はより小型の個体が多い。乾燥や低温に強く，冬には乾いた水田や畦のくぼみで越冬する。オオタニシとは，本種の体層に刻点状のくぼみがあることや本種の胎貝および幼貝の殻頂が尖らないことで区別できる。

分 布： 朝鮮半島，国内では北海道南部，本州，四国，九州，壱岐，対馬に分布。県内では各地で記録がある。水田や用水路，沼などの泥底に生息。

現況・減少要因： 桑名市 3，亀山市 2，津市 4，松阪市 8，多気町 2，玉城町 2，伊勢市 3，鳥羽市 2，志摩市 2，南伊勢町 1，尾鷲市 1，伊賀市 2 か所。主な生息域である水田や用水路の埋め立て，圃場整備などにより減少していると考えられる。食用にもされる。

保護対策： 用水路の改修にあたっては，底部は土のまま残す工法の採用が必要である。

文 献： 56. 122.



(中 優)

- 哺乳類
- 鳥 類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝 類
- 甲殻類
- その他動物

- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ベニゴマガイ

腹足綱ゴマガイ科

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：CR+EN

Diplommatina pudica Pilsbry, 1902

旧県：情報不足 (DD)

選定理由： 既知の生息地は10か所程度。20年以上生息が確認されていなかったが、近年、県中南部を中心に生息が確認された。いずれの生息地でも個体数は少ない。

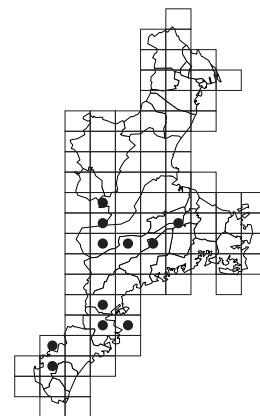
種の概要： 殻高3.4 mm、殻幅1.7 mm、殻口は丸く、体層前面の広い範囲を占める。殻表の螺肋は荒く、殻色は紅色や橙黄色。

分布： 静岡県、和歌山県に分布するが、近年、生息が確認されている場所は少ない。三重県では、鈴鹿市、亀山市、大台町から熊野市にかけて分布する。

現況・減少要因： 森林の乾燥化によって減少している可能性があるが、紀伊半島では、目立った環境変化がみられないにも関わらず、確認されることが少ない。植林地の生息地では、管理放棄や皆伐により環境変化が進行している。

保護対策： 急激な環境変化を起こさないよう計画的な森林管理が必要である。

文献： 31. 42. 44. 80. 81. 87. 108.



(中野 環)

イノウエヤマトガイ

腹足綱ヤマタニシ科

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：VU

Japonia inouei Kuroda & Habe, in Habe, 1961

旧県：—

選定理由： 三重県の記録は1地点のみ。鈴鹿市（小岐須溪谷）で生息が確認されており、その生息域は、きわめて狭い範囲に限られている。三重県内の発見例がこれまでになく、きわめて希少な種である。生物地理学的にも貴重な個体群である。

種の概要： 殻径は、4~5 mm程度。小型で淡黄褐色。殻の周縁には先端部が幅の広い花弁状となる殻皮毛を2列備え、生時は泥が殻表を覆っている。蓋は薄く多旋型。軟体は黒色で、触角が長く、基部に眼をもつ。

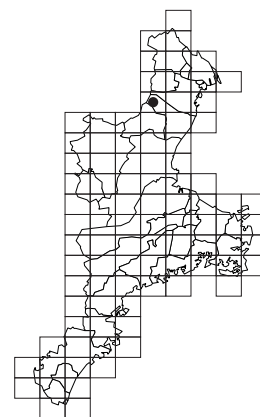
分布： 紀伊半島（大阪府・和歌山県・三重県）に分布する。県内では、三重県鈴鹿市小岐須町（小岐須溪谷）において、生息確認された。三重県の本種の生息環境は石灰岩地であり、スギ植林に点在する広葉樹の良好な自然林の林床で確認された。本種は石灰岩地域固有種ではないので、三重県下の他の地域で今後発見される可能性もある。

現況・減少要因： 本来、どの生息地においても個体数が少ない種であるが、三重県下での本種の生息域は、これまでに発見例がなかったことより推測すると、きわめて狭い可能性が高い。最近、三重県に生息することが知られたばかりの種であるため、減少傾向は判定できないが、生息範囲が狭い上に、観光やハイキングで訪れる人も意外に多く、人的影響を受けやすい環境下に生息している。

保護対策： 道路や遊歩道に近い環境で確認されており、道路の拡張や遊歩道の整備などの小規模改変によっても生息が脅かされる可能性もある。小岐須溪谷の自然林の環境保全とともに、たとえ小規模であっても改変行為が行なわれる際は、本種の生息への影響を十分に考慮する必要がある。このほか、他の生息地の発見とその環境の保護も重要である。

特記事項： 三重県できわめて希少な種であると共に、小岐須溪谷は、本種の北限および東限分布地であり、生物地理的観点においても当地の個体群の保護は重要である。なお、三重県初の本種の分布記録や特徴に関する詳細な記載（以下の文献）が最近発表されたところである。

文献： 15.



(早瀬善正・木村昭一)

ミズコハクガイ

腹足綱ヒラマキガイ科

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：VU

Gyraulus soritai Habe, 1976

旧県：—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

選定理由： 三重県の記録は2地点。本種は近年まで三重県での生息記録がなかったが、下記の文献により県内の生息が明らかとなった。生息環境である湿地環境の消失や水質悪化に伴う減少が懸念される。

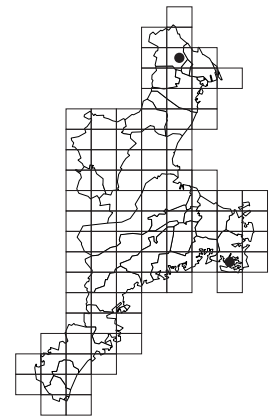
種の概要： 殻径4mm程の見かけ上右巻きに見える小型の左巻き種。ヒラマキミズマイに似るが、本種は、見かけ上の螺塔が僅かに突出し、見かけ上の臍孔は狭い。水深がほとんどなく水溜りの様な湧水湿地の枯葉の下で見つかる場合が多い。希少種で発見例が殆どない。

分布： 関東・北陸以西に分布。三重県では桑名市と志摩市に記録がある。

現況・減少要因： 本種は山麓から平野部の湿地環境に生息する種であるが、湿地環境は宅地造成や道路建設などにより消失傾向にある。

保護対策： 本種が生息する湿地環境の維持が必要。特に、古くからある自然度の高い湿地環境の保全が重要である。

文献： 98.



(早瀬善正)

クチマガリスナガイ

腹足綱キバサナギガイ科

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：VU

Bensonella plicidens (Benson, 1849)

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

選定理由： 三重県の記録は5地点。石灰岩地の固有種であり、三重県での分布範囲は限られている。湿潤な石灰岩の表面という微生息環境に依存して生息する種である。近年の石灰岩地の環境荒廃に伴う乾燥化で、生息場所および個体数が著しく減少している。

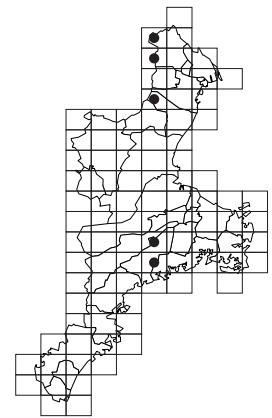
種の概要： 殻高2mm程度の微小種。殻は、淡い茶褐色で殻口内には複雑な多数の歯状突起が見られる。安定的なガレ場などの湿り気を帯びた石灰岩に付着して生息する。

分布： 本州・四国・九州の石灰岩地に分布。三重県では、いなべ市藤原町・鈴鹿市小岐須町・大紀町阿曾などの石灰岩地に分布する。

現況・減少要因： 北部石灰岩地では土石流の発生により環境が悪化している。その他の石灰岩地でも林の伐採や夏季の異常高温などにより林床の乾燥化が進み、本種の生息環境が急速に悪化する傾向に向かっていると思われる。

保護対策： 石灰岩地における森林環境の保全・維持が必要。

文献： 18, 19, 20, 41, 44, 87, 111



(早瀬善正・木村昭一)

フトキセルガイモドキ

腹足綱キセルガイモドキ科

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—

Mirus japonicus (Moellendorff, 1885)

旧県：—

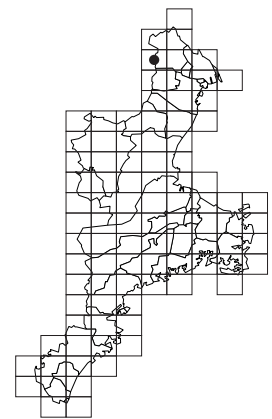
選定理由： 三重県の明確な記録は1地点。藤原岳山麓の多志田峡で生息確認されているが、生息域はきわめて狭い範囲内のみである。多志田峡では多志田川沿いの大部分が土石流による岩礫で埋もれている状況であり、今後も直ちに環境が改善に向うことは考え難い。そのような環境下での本種の生息は、きわめて絶滅の危険性が高い状況にあると考えられる。

種の概要： 殻高30mm程度。多志田峡では類似種であるキセルガイモドキも生息するが、本種は殻径がより大きく、太く円みを帯びた形状をしている。色彩もキセルガイモドキより濃褐色になる個体が多い(口絵8-9)。これらキセルガイモドキ類は形態変異が大きく分類が難しいグループであるが、三重県下での両種は、殻の形態的特徴により明確に区別されている。

分布： 現時点での本種の明確な分布地は多志田峡のみである。小岐須溪谷などの本種の記録は、標本確認ができず、正確に本種であると断定できず再検討が必要。

現況・減少要因： 現時点で本種の生息が確実に多志田峡では、大規模な土石流により多志田川沿いの谷の大部分が土砂で埋もれてしまったが、一部には良好な自然林を伴うガレ場環境が維持されており、そのような僅かに残された環境のみに生息している。現在、生息が確認されている個体群も周辺環境がいつ崩壊してもおかしくない状況であり、三重県における個体群の絶滅の危険性がきわめて高い。

保護対策： 多志田峡の環境保全対策が必要。さらに本種の生息する区域を保護する必要がある。



特記事項： 本種とキセルガイモドキが同所に生息する地域は少なく、キセルガイモドキ類の形態分化を研究する上でも三重県のフトキセルガイモドキは、貴重な個体群である。
文献： 18, 44, 87.

(早瀬善正・木村昭一)

ミカワギセル

腹足綱キセルガイ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：NT

Mesophaedusa mikawa (Pilsbry, 1905)

旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由： 三重県の確認記録は10地点以下。県内では、志摩半島を中心に比較的限られた範囲内に分布。愛知・静岡の個体群とは、伊勢湾により分断された個体群として生物地理学的にも貴重である。

種の概要： 殻高20 mm前後。殻表には成長肋が明瞭に現れる。殻の色彩は、茶褐色あるいは黄白色。神島(鳥羽市)の個体群は小型化傾向が強い(殻高13~18 mm程)。本種の西限分布地域と考えられる大紀町阿曾産の個体は、やや大型(殻高27 mm)である。

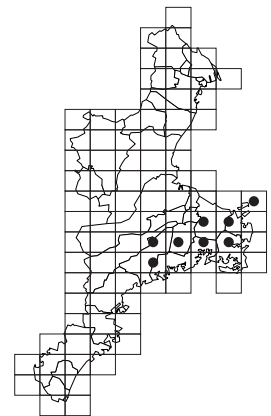
分布： 静岡県・愛知県・三重県の3県に分布。三重県内では志摩半島周辺に分布。

現況・減少要因： 現状では比較的多産する地域も見られるが、生息範囲は狭く、本種の生息に適した森林環境が減少傾向にある。

保護対策： 生息地の森林環境の保全・維持が必要。

特記事項： 地域ごとの殻の形態変異が多く遺伝的分化が考えられるので、各地域個体群の保護が重要である。コンボウギセルと同種とされる場合もあるが、殻の特徴や大きさが明瞭に異なる。

文献： 13, 87, 127.



(木村昭一・早瀬善正)

キイツムガタギセル

腹足綱キセルガイ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：NT

Pinguiphaedusa pinguis pinguis (A. Adams, 1868)

旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由： 三重県の記録は5地点以下。県下では尾鷲市から熊野市の海岸林で確認されるのみ。分類学的にも貴重な個体群。

種の概要： 殻高20 mm程。小型で殻頂部が細く、それ以降は急に太くなる腹太の形状。ただし、三重県の個体群は小型であるが、和歌山県の個体群ほど極端な腹太の形状を示さない。(口絵8-10)。

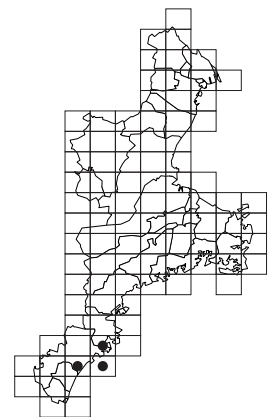
分布： 和歌山県南部に広く分布。三重県では尾鷲市から熊野市にかけて限られた地域に生息。

現況・減少要因： 良好な常緑樹林のみに生息する。狭い分布域に生息地があるため、樹木の伐採による海岸部の良好な自然林の減少や林床の乾燥化が懸念される。

保護対策： 吉野熊野国立公園特別地域に含まれ一応、保護された形となる地域もある。本種が生息する海岸林全体の環境保全が必要。特に本種が生息する常緑樹の大径木が見られる良好な樹林環境の維持が重要。

特記事項： 三重県に生息するツムガタギセルおよび本種との比較では、解剖学的特徴が明瞭に異なり(未発表資料)、両種群の大きな分化の可能性を推測する。

文献： 87.



(早瀬善正)

シロモリサキギセル

腹足綱キセルガイ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—

Tyrannophaedusa (Aulacophaedusa) matsumurai Minato, 2014

旧県：—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

選定理由： 三重県の記録は2地点。紀伊半島の固有種であり貴重。生息数も少なく希少。

種の概要： 殻は、殻高14 mm程度。小型で白く、細い成長肋が密である。ホソヒメギセルに近似するが本種の殻の方が大型。本亜属の共通特徴である殻口の上板の右側に細い溝が存在する。本種は最近、記載された。(口絵8-11)。

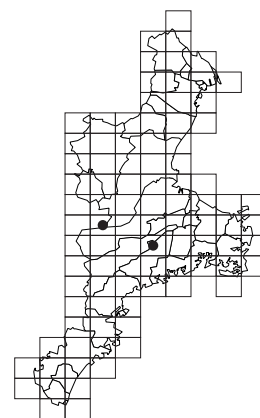
分布： 大阪府・和歌山県・奈良県の産地が知られている。三重県下では最近、生息することが確認された。現時点では、大紀町阿曾の石灰岩地と平倉(美杉町)に分布が知られる。ただし、かつて三重県下でホソヒメギセル(ユウビギセル)とされた記録は、本種の誤認記録の可能性もあり、今後の再検討を要する。

現況・減少要因： 自然林の伐採や開発などが懸念される。

保護対策： 本種は良好な自然林に生息し、現在知られている産地の環境の保全が必要。他の生息地の発見とその環境の保全も重要。

特記事項： 既に公表されたレッドリストではホソヒメギセル亜属の一種と表記していたが本種のことである。

文献： 14. 26. 44. 87. 95.



(早瀬善正・木村昭一)

トンガリササノハガイ

二枚貝綱イシガイ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：NT

Lanceolaria grayana (Lea, 1834)

旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由： 既知の生息地点数は20か所程度であり、採取や開発などの人為圧力が強く、減少するおそれがある。

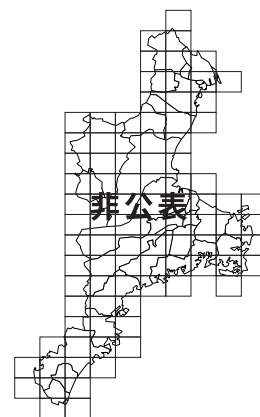
種の概要： 殻長110 mm前後、殻高30 mm前後の細長い淡水産二枚貝。その名のとおり後端がとがっている。

分布： 国外では中国、ロシア沿海州、朝鮮半島に分布。国内では本州(中部以西)、四国、九州に分布。県内では北勢、中勢、南勢および伊賀地域で記録がある。河川や池沼の流水域の砂泥底に生息。

現況・減少要因： 津市2、松阪市3、明和町2、玉城町2、伊勢市1、伊賀市2か所。1970、1980年代に北勢地域での記録があるが、その後の生息については不明。河川の改修や圃場整備に伴う土水路等の改修により減少。

保護対策： 乱獲を防ぐ法的根拠を整備するほか、生息地の改変時には配慮を義務付ける必要がある。

文献： 1. 56. 83. 87. 102.



(中 優)

ウミヒメカノコ

腹足綱アマオブネ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：VU

Smaragdia sp.

旧県：—

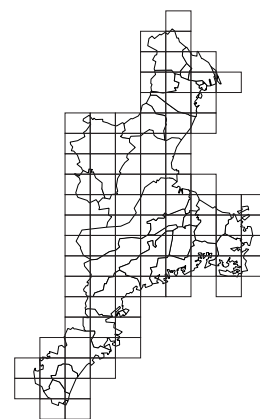
選定理由： 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。当然分布しているはずの本種であるが、今まで三重県から正式な採集記録はない。2013年8月に鳥羽市生浦湾の湾口部潮下帯のウミヒルモ場で、死亡したばかりの1個体が採集された。採集状況から判断しておそらく生息していたと思われるが、生貝は確認されていない。また、英虞湾など県南部の内湾域の潮下帯から半化石化した死殻は現在でも稀に採集される。

種の概要： 殻長4 mm、殻は半球形で、殻表には数本の白帯をめぐらし、細い稲妻模様を重ねる。蓋は石灰質。

分布： 伊豆半島から瀬戸内海、九州、南西諸島の潮間帯下部から潮下帯のコアマモ、ウミヒルモ群落の葉上に生息する。近年瀬戸内海中部、宮崎県、南西諸島より生息が記録されている。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。減少要因については、藻場の著しい減少が考えられる。

文献： 2. 5. 87. 115.



(木村昭一)

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

ヒナユキスズメ

腹足綱ユキスズメ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：NT

Phenacolepas sp.

旧県：—

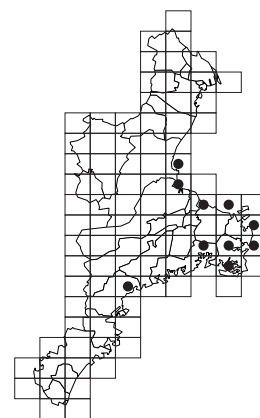
選定理由： 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。伊勢湾沿岸の内湾奥部の塩性湿地周辺の転石地から湾口部より南の小規模な内湾域の転石地まで分布する。近年の調査で比較的広い範囲に生息地が発見されているが、それぞれの面積は小さい。近年内湾域の生息地の改変が顕著で生息地の消失が確認されている。

種の概要： 和名だけが提唱された未記載種。殻長 5 mm、殻は笠型で、薄質。腹足の筋肉内に小型で半透明の蓋を持つ。砂泥底に半ば埋もれた石の裏面に付着する。内湾奥に生息する個体はワカウラツボと同所的に見られる場合も多く、殻表が摩耗している個体が多い。

分布： 三浦半島から瀬戸内海、九州に分布する。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。減少要因については、干潟、塩性湿地の減少の影響が最も大きい。

文献： 2, 66, 71, 73, 115.



(木村昭一)

コゲツノブエ

腹足綱オニノツノガイ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：VU

Cerithium corallium Kiener, 1841

旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

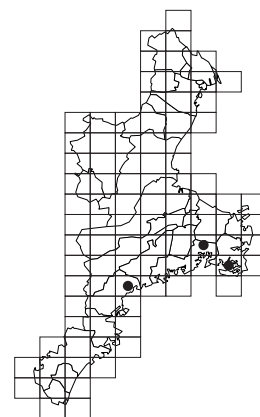
選定理由： 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。1979年以前に本県から分布記録がないが、単純な記録漏れと思われる。伊勢湾口部から鳥羽市にかけて死殻は見られるが、生息が確認できない。現在では英虞湾から県南部の内湾の干潟に健全な個体群が残されているが、生息地は少なく分断されている。

種の概要： 殻長 35 mm で細長く、螺塔は高い。殻表は暗青褐色から黒褐色で、丸い小さなイボ状突起が螺肋に沿って多数並ぶ。

分布： 房総半島から南西諸島、インド・西太平洋に分布する。内湾奥の潮間帯上部から中部の泥質干潟の表面に生息する。南西諸島では生息地が多いが、九州以北では生息地が少なく、古い死殻しか見られなくなった海域も多い。現在英虞湾が本種の東限分布地と考えられる。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。減少要因については、干潟の減少、水質汚濁などが考えられる。

文献： 62, 64, 66, 72, 73, 87, 115.



(木村昭一)

サナギモツボ

腹足綱スナモチツボ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：VU

Finella pupoides A. Adams, 1860

旧県：—

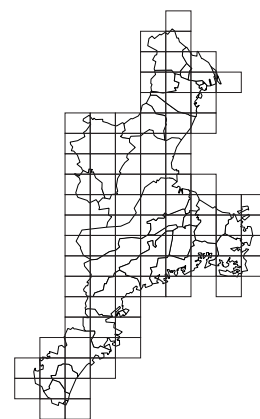
選定理由： 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。1979年以前に四日市、紀伊長島の潮下帯から分布記録がある。かつては普通種であった様で、1980年代には伊勢湾から南部の小規模な内湾域で比較的普通に死殻は見られたが、近年では古い死殻が潮下帯より稀に採集される程度で、現在生貝が全く採集できない。

種の概要： 殻長 4 mm でやや長い紡錘形の小型巻貝。螺層は良く膨れ、縫合は深い。殻表には多数の螺肋を持つ。殻質はやや薄く半透明。

分布： 三陸沿岸から南西諸島の内湾奥から湾口部の砂泥底に分布するが、近年生息記録があるのは、瀬戸内海の一部と奄美大島の笠利湾にすぎない。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。近年生貝はアマモ場周辺で確認されているので、干潟、アマモ場の減少が減少要因と考えられ、同様にアマモ場を生息環境とするスズメハマツボ、シマハマツボ、シマモツボには現在も減少傾向は認められない。

文献： 2, 87, 115.



(木村昭一)

イボウミニナ

Batillaria zonalis (Bruguïère, 1792)

腹足綱ウミニナ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：VU

旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由： 既知の生息地は10か所以下。現在、生息が確認できる場所は少なく、生息範囲も狭い。

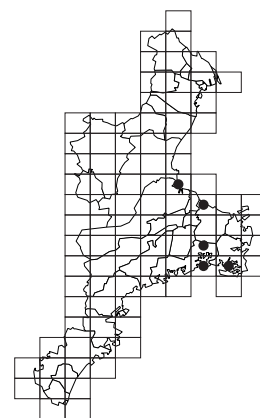
種の概要： 殻高40mm。殻口は張り出し菱形で、外唇上部は湾入する。ウミニナよりも低い潮位に生息域の中心を持つ。

分布： 北海道南部以南、インド・西太平洋域に分布し、河口域や内湾奥の干潟に生息する。県内では松阪市から伊勢市にかけての伊勢湾岸、および英虞湾から五ヶ所湾に分布する。

現況・減少要因： 1970年代前半までは伊勢湾から志摩半島にかけての河口域、内湾干潟で普通にみられたが、近年、健全な個体群がみられるのは英虞湾のみ。ほとんどの生息地では生きた個体を確認することができない。海洋汚染の影響で減少したとも考えられるが、減少要因は十分には解明されていない。

保護対策： 河口域、内湾干潟の環境改変を控え、周辺水域の水質を保全する必要がある。

文献： 87. 111. 113. 114. 115. 123.



(中野 環)

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

スジウネリチョウジガイ

Rissoina (Rissolina) costulata Dunker, 1860

腹足綱リソツボ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：VU

旧県：—

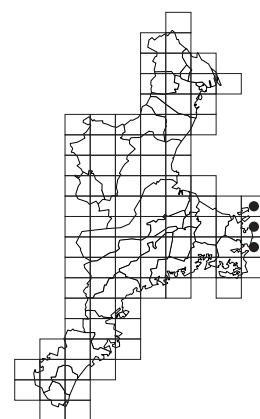
選定理由： 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。1979年以前に紀伊長島、三木崎の潮下帯から分布記録がある。1980年代には伊勢湾から南部の小規模な内湾域で比較的普通に死殻は見られたが、近年では古い死殻が潮下帯より稀に採集される程度で、現在伊勢湾湾口部から生浦湾で生貝が稀に採集されているにすぎない。

種の概要： 殻長4mmで高円錐形の小型巻貝で殻質は厚い。近似種が多い中で殻表の強いウネ状の肋が特徴的。

分布： 房総半島から九州、南西諸島、小笠原、朝鮮半島に分布する。九州以北では内湾湾口部の干潟に隣接する礫地や転石地の石の下面に付着している。近年でも瀬戸内海の一部と九州西岸には健全な個体群が確認されている。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。上述したような生息環境の減少などが大きな減少要因と考えられる。

文献： 2. 6. 87. 115.



(木村昭一)

ゴマツボ

Stosicia annulata (Dunker, 1860)

腹足綱リソツボ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：VU

旧県：—

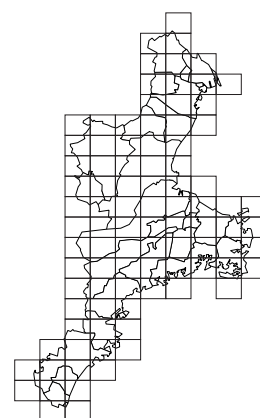
選定理由： 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。1979年以前に本県から分布記録がないが、単純な記録漏れと思われる。1980年代には伊勢湾から南部の小規模な内湾域で比較的普通に死殻は見られたが、近年では古い死殻が潮下帯より稀に採集される程度で、現在生息が確認できない。三河湾から伊勢湾では、モニタリングが困難な微小種であることを割り引いても、ほぼ絶滅状態である。

種の概要： 殻長4mm、殻は紡錘型で殻質は厚い。殻表に強い螺肋があり肋間は深い溝状になる。

分布： 房総半島から九州、中国大陸に分布する。内湾の潮通しの良い干潟に隣接する礫地や転石地の石の下面に付着している。近年でも瀬戸内海の一部と九州西岸には健全な個体群が確認されている。近年瀬戸内海では回復傾向が顕著である。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。上述したような生息環境の減少などが大きな減少要因と考えられる。

文献： 2. 6. 87. 115.

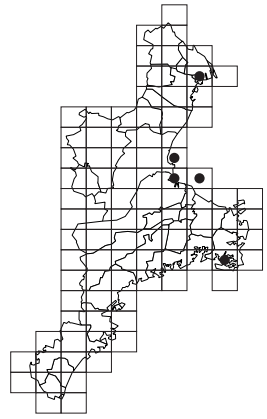


(木村昭一)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類

ワカウラツボ 腹足綱ワカウラツボ科 三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 環境省：VU
旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由： 既知の生息地は5か所以下。生息環境が特殊なため、近年まで発見例はわずかであった。いずれの生息地でも稀である。
種の概要： 殻高5 mm。小型で重厚な殻を持つ。殻表面には螺条脈を有し、殻皮は褐色を帯びる。
分布： 三河湾から有明海に分布し、内湾環境下の泥地にある深く埋もれた石下に生息する。県内では伊勢湾および英虞湾に生息する。
現況・減少要因： 伊勢湾の河口域では埋め立てや護岸工事により生息地が失われつつある。
保護対策： 内湾干潟や河口域のヨシ原湿地および周辺水域の水質環境を保全する必要がある。
文献： 54. 71. 87. 107. 111. 112. 115. 123. 124.

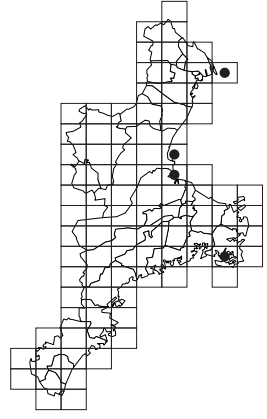


(中野 環)

甲殻類
その他動物
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

サザナミツボ 腹足綱ワカウラツボ科 三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 環境省：NT
旧県：情報不足 (DD)

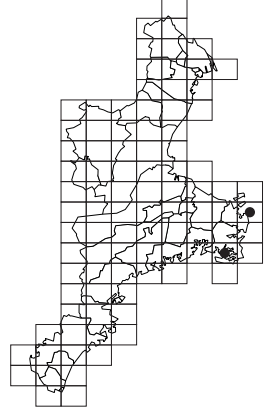
選定理由： 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。比較的記載年の新しく、かつ微小な巻貝なので県内の分布情報は多くない。近年伊勢湾沿岸から英虞湾、県南部の小規模な内湾域の数か所で死殻は採集されている。津市の伊勢湾沿岸の河口域では軟体部の入った個体を含む新鮮な死殻が打ち上げられることがあるが、生貝が採集される事は非常に稀である。伊勢湾最奥部の名古屋市庄内川河口域などの湾奥の泥質干潟周辺の石の下などで生貝が採集された例がある。英虞湾では1例だけであるがハサミシャコエビに付着して本種が採集された。
種の概要： 殻長2 mm弱と微小、殻は太い紡錘型で半透明、殻表に多数の細い波だった螺溝がある。
分布： 陸奥湾から南西諸島、朝鮮半島に分布する。東北地方ではカワグチツボのように干潟の泥上に群生する事も多い。
現況・減少要因： 現状は選定理由参照。上述したような生息環境の減少が大きな減少要因と考えられる。内湾奥の泥干潟周辺に生息するので陸域からの影響を大きく受けると考えられる。
文献： 2. 4. 68. 73. 115.



(木村昭一)

アラウズマキ 腹足綱イソコハクガイ科 三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 環境省：VU
旧県：

選定理由： 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。1979年以前に紀伊長島、新鹿の潮間帯から分布記録がある。現在でも伊勢湾から南部の小規模な内湾域の比較的広い範囲で死殻は比較的普通に見られる。近年では、伊勢湾湾口部から生浦湾、英虞湾で生貝が稀に採集されているにすぎない。
種の概要： 殻径4 mmで円盤状の巻貝で殻質は厚い。殻表には数本の強い螺肋がある。死殻は白色であるが、生貝は茶褐色の殻皮でおおわれ、黒色の付着物でおおわれる個体も多い。
分布： 房総半島から九州、朝鮮半島に分布する。古い死殻は分布域の広い範囲で比較的普通に見られ、瀬戸内海などでは多産する場所も多い。生貝は内湾湾口部の潮通しの良い礫底の石の下面に付着している。同所的にはヒナユキスズメ、ゴマツボ、シラギクが見られることが多いが、本種の生貝の個体数はそれらに比べて非常に少ない。
現況・減少要因： 現状は選定理由参照。上述したような生息環境の減少が大きな減少要因と考えられる。
文献： 2. 87. 115.



(木村昭一)

イソマイマイ

腹足綱イソコハクガイ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：VU

Sigaretornus aff. *planus* (A. Adams, 1850)

旧県：—

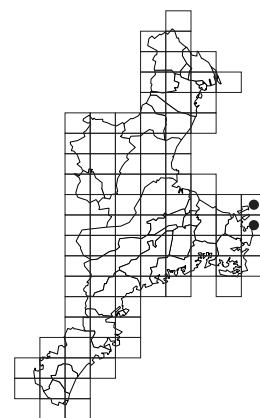
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に津，尾鷲の潮間帯から分布記録がある。現在でも伊勢湾から南部の小規模な内湾域で死殻は見られるが個体数は少ない。近年，伊勢湾湾口部，生浦湾の潮下帯より生貝が稀に採集されているにすぎない。

種の概要： 殻径 10 mm で白色円盤状の巻貝で殻質は薄い。臍孔は広く開く。近似種同様ユムシ類の巣穴に共生すると推測されているが，今まで観察例はない。従来本種の学名とされていた *S. planus* はフィリピンから香港に分布する別種であることが近年指摘された。

分布： 房総半島から九州に分布する。内湾湾口部の干潟から潮下帯の砂泥底に分布する。三浦半島，瀬戸内海など打ち上げられた新鮮な死殻が比較的普通に見られる場所もあるが，生貝の採集例は極めて少ない。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。上述したような生息環境の減少が大きな減少要因と考えられる。

文献： 2. 87. 115.



(木村昭一)

ミズゴマツボ

腹足綱ミズゴマツボ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：VU

Stenothyra japonica Kuroda, 1962

旧県：情報不足 (DD)

選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化，特殊生息環境。1979年以前に津から分布記録がある。分布調査をくり返しているが津から再採集されていない。2013年に桑名市，松阪市の3か所の生息地について報告された。県内では現在，海岸に近い水質の良い小河川の3か所の生息地が知られているだけで，生息面積も著しく小さい。

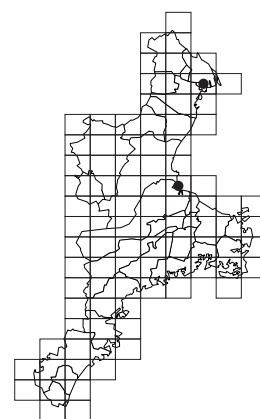
種の概要： 殻長 5 mm でタニシ型の巻貝であるが，殻口が丸く小さく，蓋は石灰質（口絵 8-2）。干潟表面に生息するエドガワミズゴマツボに近似するが，はるかに大型で殻表に点刻列があること等で明確に区別される。

分布： 東北から九州，朝鮮半島南部に分布する。河川下流域や海岸に近い小河川や水路などの汽水から淡水中に生息する。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。上述したような生息環境の減少などが大きな減少要因と考えられる。

保護対策： 松阪市の個体群については，名古屋貝類談話会および筆者らによって年2回以上のモニタリング調査が行われている。

文献： 2. 63. 69. 87. 115.



(木村昭一・早瀬善正)

フロガイダマシ

腹足綱タマガイ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：VU

Naticarius concinnus (Dunker, 1860)

旧県：—

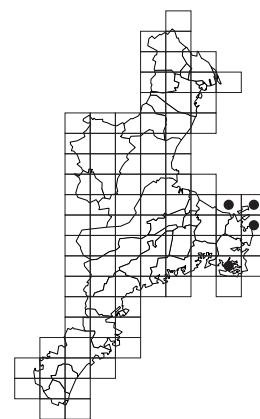
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に県南部の内湾域6か所の干潟から潮下帯より分布記録がある。現在伊勢湾湾口部から南部の内湾域の潮下帯から生貝が採集されているが個体数は非常に少ない。また熊野灘の潮下帯の砂底よりも古い死殻は採集される。干潟では近年死殻も稀である。

種の概要： 殻長 15 mm，ほぼ球形の巻貝で殻質は厚い。蓋も石灰質で強い螺肋がある。

分布： 房総半島から九州，朝鮮半島に分布する。かつては普通種であったが，特に内湾の干潟では非常に珍しい種になってしまった。瀬戸内海の内湾域にはおびただしい量の本種の死殻が含まれている。近年，瀬戸内海の内湾域では，特に本種のみが著しく減少していることが報告されている。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。環境悪化が著しい内湾域のみならず外洋域でも著しい減少が認められ，減少要因については不明。

文献： 6. 87. 115.



(木村昭一)

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

オリレシラタマ 腹足綱タマガイ科
Sigatica bathyraphe (Pilsbry, 1911)

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
旧県：—

環境省：NT

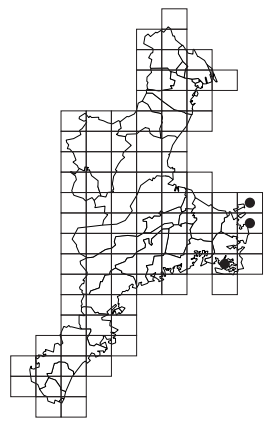
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化，希少。1979年以前に伊勢湾口部の水深30mより分布記録がある。現在伊勢湾湾口部から南部の内湾域の潮下帯から生貝が採集されているが個体数は非常に少ない。また熊野灘の潮下帯の砂底より死殻は採集されている。干潟では近年死殻すらほとんど採集されない。

種の概要： 殻長8mm，ほぼ球形の巻貝で，蓋も革質，臍孔は大きく開く。殻表は生時黄褐色の殻皮で被われる。ネコガイの幼貝と近似するが，縫合は深く溝状にくぼむ等の特徴で区別できる。

分布： 相模湾から九州に分布する。湾口部から外洋にかけての干潟から潮下帯まで分布域は広いが，採集記録が少ない種である。本種が生息する海域は貝類の多様性が高い清浄な湾口部の砂底である場合が多い。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。内湾の個体群の減少要因は干潟の減少，水質汚濁などが考えられる。

文献： 87. 115.



(木村昭一)

ツガイ 腹足綱タマガイ科
Sinum (Ectosinum) incisum (Sowerby I in Reeve, 1864)

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
旧県：—

環境省：NT

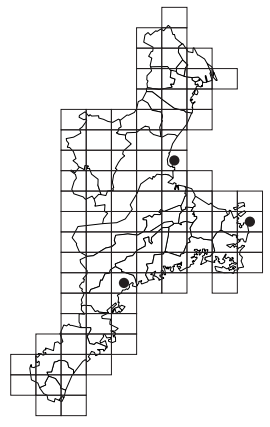
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に県南部の2か所の水深30mより分布記録がある。現在伊勢湾中央部から南部の内湾域の潮下帯から生貝が採集されているが個体数は非常に少ない。干潟では近年死殻すらほとんど採集されない。

種の概要： 殻長25mm，軟体部は白色で大きく，殻は薄質，扁平で生時は軟体部に内包される。ツツミガイと近似するが，やや小型で殻表の螺溝が幅広く強い。ヒメミミガイとも近似するが殻が大型で扁平。

分布： 房総半島から南西諸島，中国大陸，フィリピンに分布する。内湾の潮間帯から水深20m程度の砂泥底に生息する。干潟で本種の生息が確認されている北限は浜名湖と考えられ，瀬戸内海，九州西岸，四国でも干潟で生息が確認されているが個体数は少ない。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。減少要因は干潟の減少，水質汚濁などが考えられる。

文献： 87. 115.



(木村昭一)

ツツミガイ 腹足綱タマガイ科
Sinum (Ectosinum) planulatum (Récluz, 1845)

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
旧県：—

環境省：NT

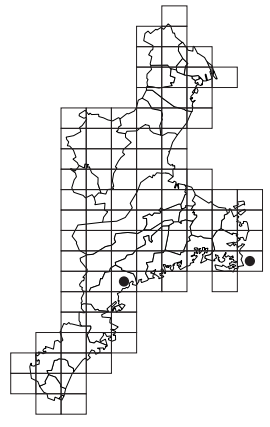
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に県南部の3か所の潮下帯より分布記録がある。現在南部の内湾域の潮下帯から生貝が採集されているが個体数は非常に少ない。干潟では近年死殻すらほとんど採集されない。

種の概要： 殻長30mm，軟体部は白色で大きく，殻は薄質，扁平で生時は軟体部に内包される。ツガイと近似するが，大型になり殻表の螺肋は非常に弱い。

分布： 房総半島から南西諸島，中国大陸，インド・太平洋に分布する。内湾の潮間帯から水深20m程度の砂泥底に生息する。干潟で本種の生息が確認されている北限は浜名湖と考えられ，和歌山県，九州西岸，南西諸島でも干潟で生息が確認されているが概して個体数は少ない。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。減少要因は干潟の減少，水質汚濁などが考えられる。

文献： 87. 115.



(木村昭一)

ウネナシイトカケ

腹足綱イトカケガイ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：VU

Acrilla acuminata (Sowerby, 1844)

旧県：—

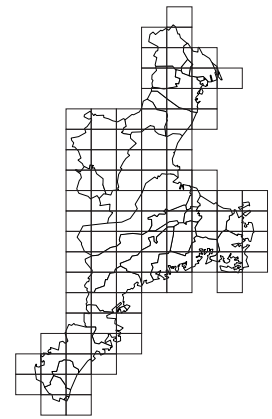
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化，希少，1979年以前に津市沖水深10 mより採集記録がある。現在，伊勢湾沿岸から県南部の内湾域で非常に新鮮な死殻が稀に打ち上がるので，生息していると考えられるが，生貝は採集されていない。元々個体数の少ない種であるが，危機的な生息状況である。

種の概要： 殻長45 mm，高円錐型の細長い巻貝で，螺肋はやや強く，殻表には巻きに沿って茶褐色の帯がある。イソギンチャクに寄生すると考えられるが，詳細は不明。

分布： 房総半島から九州，朝鮮半島，中国大陸，インドネシアに分布する。分布域は広いが，現在死殻を得ることも困難で，生貝が記録されているのは千葉県，有明海の一部にすぎない。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。減少要因は干潟の減少，水質汚濁などが考えられる。

文献： 61, 87, 115.



(木村昭一)

ヒモイカリナマコツマミガイ

腹足綱ハナゴウナ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：VU

Hypermastus lacteus (A. Adams, 1863)

旧県：—

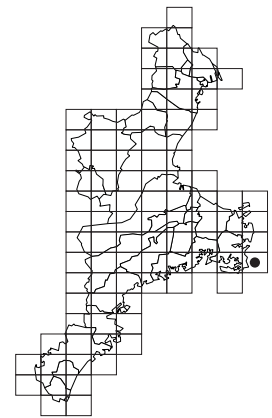
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化，希少，特殊生息環境。1979年以前に記録はない。筆者によって2012年，本県より初めて生貝が記録された。現在，志摩半島の1か所で生息が確認されているにすぎないが，県南部の内湾域で死殻が採集されているので，他にも生息地が存在すると思われる。

種の概要： 殻長4 mm，紡錘形で光沢があり白色半透明，生時には軟体部が透視される。外洋に面した潮通しの良い内湾の砂礫底にもぐって生息するヒモイカリナマコの体内に内部寄生する。2011年に志摩市における調査では宿主20個体中4個体に本種5個体の寄生が確認された。宿主1個体には本種が2個体，他の宿主には1個体ずつ確認された。宿主自体が減少しているため生息基盤は脆弱である。

分布： 三浦半島，三河湾，志摩市，田辺湾，瀬戸内海，徳島県から生息記録がある。既知の生息地は非常に少ない。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。減少要因は干潟の減少，水質汚濁，また宿主のヒモイカリナマコの減少などが考えられる。

文献： 2, 73, 87, 115.



(木村昭一)

カニノテムシロ

腹足綱オリイレヨフバイ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：NT

Plicarcularia bellula (A. Adams, 1852)

旧県：—

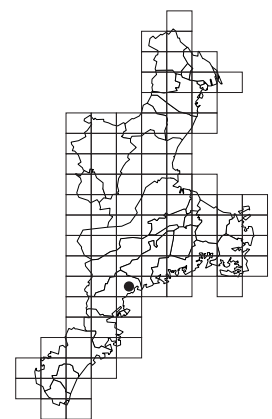
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に県南部の内湾域3か所の干潟から分布記録がある。現在県南部の1か所の内湾域の干潟から潮下帯で生貝が採集されているが，個体数は少ない。本種の現在の分布東・北限であると考えられる。その他の海域では現在死殻も採集できない。

種の概要： 殻長15 mm，太い紡錘形の巻貝で，殻口は滑層が発達し，白色を帯び，カニの手（鋏脚）を彷彿とさせる。腐肉食性。

分布： 紀伊半島から九州，南西諸島，インド・太平洋に分布する。内湾の潮間帯中部から潮下帯までに分布する。上述した三重県の生息地では，水深5 mの砂泥底まで生息が確認された（未発表資料）。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。減少要因は干潟の減少，水質汚濁などが考えられる。

文献： 73, 87, 115.



(木村昭一)

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

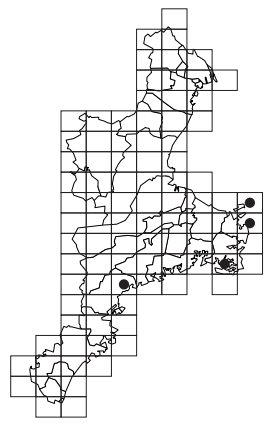
NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

マクラガイ 腹足綱マクラガイ科 三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 環境省：NT
旧県：—
Oliva mustelina Lamarck, 1811

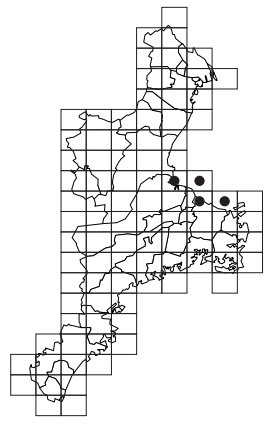
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に伊勢湾湾口部から県南部の水深30mの4か所から分布記録がある。かつては内湾域の干潟でも普通に生息が確認できたが，1980年頃にはすでに干潟で生息が確認されることは非常に少なくなった。現在伊勢湾湾口部から熊野灘にかけての潮下帯でのみ生貝が採集されるが個体数は少ない。
種の概要： 殻長35mm，円筒形で殻表は強い光沢があり，平滑，殻質は非常に厚い。
分布： 房総半島から九州，朝鮮半島，中国大陸，インド・太平洋に分布する。瀬戸内海など大規模な内湾域では干潟でも普通種であったが，現在干潟で本種の生息が確認される海域は非常に少ない。現在でも外洋域（特に日本海側）には健全な個体群が確認されている。
現況・減少要因： 現況は選定理由参照。船体塗料に含まれる有機スズによるインボセックスが減少要因である可能性がある。
文献： 73, 87, 115.



(木村昭一)

オリイレボラ 腹足綱コロモガイ科 三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 環境省：VU
旧県：—
Trigonostoma scalariformis (Lamarck, 1822)

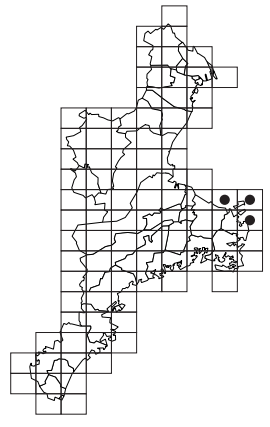
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に伊勢湾内の2か所の潮下帯より分布記録がある。現在伊勢湾中部から湾口部にかけての潮下帯から生貝（口絵8-4a）が採集されているが，生息海域は非常に狭く，個体群が隔離している。伊勢湾最奥部の名古屋市沖の潮下帯でも少数の生貝が確認されている。
種の概要： 殻長25mm，殻は非常に厚く堅固，縦肋は非常に強く，肋間は平滑（口絵8-4b）。
分布： 房総半島から九州西岸，黄海，インド・太平洋に分布する。内湾の潮間帯から水深20m程度の砂泥底に生息する。干潟で本種の生息が確認されている北限は浜名湖と考えられ，有明海でも干潟で生息が確認されているが概して個体数は少ない。
現況・減少要因： 現状は選定理由参照。減少要因は干潟の減少，水質汚濁などが考えられる。
文献： 2, 68, 73, 87, 115.



(木村昭一)

オオシイノミガイ 腹足綱オオシイノミガイ科 三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 環境省：NT
旧県：—
Acteon sieboldi (Reeve, 1842)

選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に伊勢湾湾口部の2か所の潮下帯より分布記録がある。現在伊勢湾中部から湾口部にかけて死殻が採集され，潮下帯から生貝が採集されているが，生息海域は非常に狭く，個体群が隔離している。本種は年による個体数の増減が著しいが，分布域の縮小など著しい減少傾向にあることは否定できない。
種の概要： 殻長20mm，殻は長い卵形，殻は薄く，殻表に細かい螺溝を有するが，光沢がある。軟体部は白色。
分布： 東北地方から九州，中国大陸に分布する。内湾の潮間帯から水深20m程度の砂泥底に生息する。干潟で本種の生息が確認されている北限は浜名湖と考えられるが個体数は著しく少ない。三浦半島沿岸では著しい減少傾向が報告されたが，近年回復傾向が認められ潮下帯に健全な個体群が確認されている。
現況・減少要因： 現状は選定理由参照。減少要因は干潟の減少，水質汚濁などが考えられる。
文献： 2, 8, 73, 87, 115.



(木村昭一)

ムラクモキジビキガイ 腹足綱オオシノミガイ科
Japanacteon nipponensis (Yamakawa, 1911)

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
旧県：—

環境省：NT

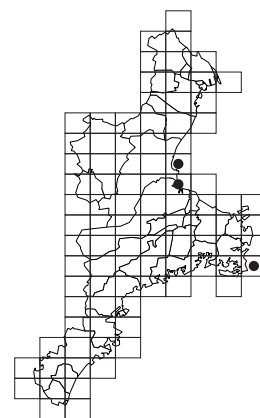
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に津沖の潮下帯（水深3m）より分布記録がある。現在伊勢湾中部から湾口部にかけて海岸に死殻が打ち上げられたり，潮間帯で生貝が採集されているが，生息海域は非常に狭く，個体群が隔離している。志摩市大王町の外洋に面した小規模な河口域でも生貝が採集された。本種は年による個体数の増減が著しい。

種の概要： 殻長10mm。殻は長い卵形，螺層肩部に黒色の火炎彩状模様をもつ（口絵8-5b）。軟体部は灰色から黒色（口絵8-5a）。伊勢湾中部の干潟で5月に交尾が確認されている。

分布： 陸奥湾から九州，朝鮮半島に分布する。内湾の清浄な砂質干潟の低潮線に生息することが多い。外洋側には和名だけが提唱された近似種のアサグモキジビキガイが分布するが，三重県における分布については現在明らかでない。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。減少要因は干潟の減少，水質汚濁などが考えられる。

文献：73, 87, 115.



(木村昭一)

ヌノメホソクチキレ 腹足綱トウガタガイ科
Iphiana tenuisculpta (Lischke, 1872)

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
旧県：—

環境省：VU

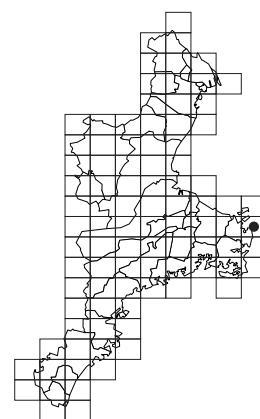
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化，希少。1979年以前に県南部の海域の潮間帯下部から潮下帯にかけて1か所から分布記録がある。小型種が多い本科の種としては大型で目立ちやすいが，死殻の採集例も非常に少ない。近年，本県で生貝が採集されているのは伊勢湾湾口部の鳥羽市生浦湾の潮下帯の砂底からのみである。

種の概要： 殻長15mm，非常に高い円錐形で，殻は光沢のあるベッコウ色で軟体部は鮮紅色。おそらく多毛類などの底生動物に寄生していると考えられているが，詳細は不明。

分布： 房総半島から九州，内湾から湾口部の砂質干潟から潮下帯。生貝の確実な記録は2001年に和歌山県からの報告であり，採集例の少ない種である。現在三重県以外では山口県，大分県での生貝の記録があるにすぎない。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。減少要因として干潟の減少，水質汚濁などがあげられる。

文献：87, 115.



(木村昭一)

オカミミガイ 腹足綱オカミミガイ科
Ellobium chinense (Pfeiffer, 1854)

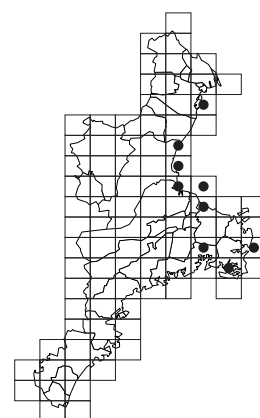
三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：VU

選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に伊勢湾沿岸の3か所と浜島（英虞湾側かどうかは不明）より分布記録があるが，既に1か所（米津）の生息地の破壊が報告されている。1999年には伊勢湾沿岸4か所の生息地が報告された。その後筆者らによる本種の詳細な分布調査により，鳥羽市南部，英虞湾（浜島以外の生息地），五ヶ所湾からも本種の生息を報告したが，現在健全な個体群が残されているのは伊勢湾沿岸の3か所だけである。その健全な生息地の1つの松阪市櫛田川河口域では2011年から2012年にかけての堤防工事により，本種が最も多く生息していたヨシ原塩性湿地が破壊された。健全な生息地3か所のうち1か所の個体群に大きなダメージを受けたのが，今回の見直し作業で本種のランクがアップされた大きな理由である。

種の概要： 殻長35mm。日本産オカミミガイ科貝類としては最も大型。地域や産地によって殻の大きさには変異がある。殻は卵形で殻口は耳状に肥厚し白色。若い個体では殻表は緑褐色の殻皮でおおわれているが，生息地では殻皮がはがれて殻全体が灰白色になる個体が多い。春から秋の活動期にはヨシ原内から外まで這い出ることもあるが，真夏や冬季にはヨシ原内の朽ち木の下や底土中に潜る。伊勢湾・三河湾では7月下旬にヨシ原内の泥上に卵紐を産む。

分布： 房総半島から九州，朝鮮半島，中国大陸に分布していたが，東京湾，三浦半島では既に絶滅し，現在の分布東限は三河湾である。内湾奥の河口域に発達したヨシ原湿地内の潮間帯上部の泥上に生息。健全な個体群の生息地はヨシ原から連続する陸上植生も保全されている場合が多い。三河湾，伊勢湾，瀬戸内海，玄界灘，伊万里湾，大村



湾, 有明海, 八代海には現在も健全な個体群が残されているが, 生息地点数は多くない. 津波対策等で堤防, 護岸工事が行われる頻度が上がっている現状では予断が許されない.

現況・減少要因: 現状は選定理由参照. 上述した松阪市の生息地では, 堤防工事によって, そこに生息していた本種の個体群が消失し, 2014年春の段階では全く回復していない. 工事前に本種の生息を把握されていたにもかかわらず, 計画変更なしに工事が行われた事は非常に残念なことである. 本種にとって塩性湿地の消失が最も大きな減少要因と言える.

保護対策: 小規模な改変でもこのような希少種が生息している可能性が高い地域は専門家による厳密な事前調査を義務づけるべきで, またその結果に応じた工事計画の変更をするシステム作りが必要である. 本種の生息場所の面積は広大ではなく, 工事の工法を工夫すれば生息地の破壊の防止と工事の遂行を両立させることも決して不可能ではないと考えられる. 上述した伊勢湾内3か所の健全な個体群が残されている生息地については, 三重大学生物資源学部海洋生態学研究室による年間3回以上のモニタリング調査が行われている.

文献: 2, 8, 53, 66, 68, 71, 73, 76, 87, 104, 115.

(木村妙子・木村昭一)

クライロコミミガイ

腹足綱オカミミガイ科

三重県: 絶滅危惧II類 (VU)

環境省: VU

Laemodonta siamensis (Morelet, 1875)

旧県: 絶滅危惧II類 (VU)

選定理由: 個体群・個体数の減少, 生息条件の悪化. 1979年以前に伊勢湾内2か所から分布記録がある. 1999年に前述の産地以外の伊勢湾沿岸4か所の生息地が報告された. その後筆者らによる詳細な分布調査により, 伊勢湾湾口部から, 鳥羽市, 五ヶ所湾からも本種の生息を報告したが, 現在, 健全な個体群は3か所のみである.

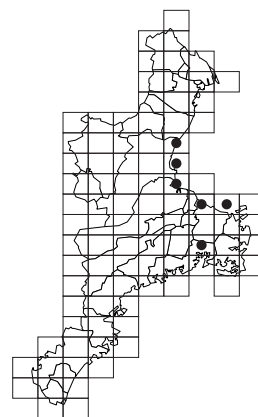
種の概要: 殻長7mmの卵形で, ウスコミミガイと非常によく似ている. 殻頂が欠けていること, 殻表に毛状突起が生えないことなどから明確に区別される.

分布: 伊勢湾から九州, 南西諸島, 東南アジアに分布する. 陸上植生まで良く保全されたヨシ原塩性湿地内の朽ち木, 石の下などに生息する. 南西諸島の個体群は生息環境や殻の形態など相違が認められる.

現況・減少要因: 現状は選定理由参照. 本種にとって上述した様な塩性湿地の消失が最も大きな減少要因と言える.

保護対策: 伊勢湾の生息地については, 三重大学生物資源学部海洋生態学研究室による年間2回以上のモニタリング調査が行われている.

文献: 53, 66, 71, 73, 87, 115.



(木村昭一・木村妙子)

アサヒキヌタレガイ

二枚貝綱キヌタレガイ科

三重県: 絶滅危惧II類 (VU)

環境省: VU

Acharax japonica (Dunker, 1882)

旧県: —

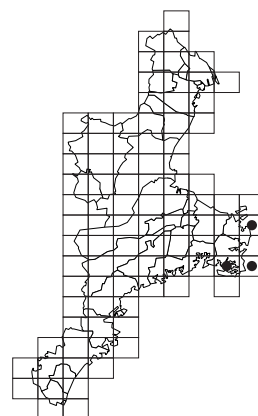
選定理由: 個体群・個体数の減少, 生息条件の悪化. 1979年以前に県南部の2か所の潮下帯より分布記録がある. 近年生浦湾, 英虞湾の外洋水の影響の強い潮下帯アマモ場で生貝が確認されているが, 干潟で生息は確認されていない. 死殻の採集例も非常に少ない.

種の概要: 殻長20mm. 殻は円筒形で厚い殻皮におおわれ非常に薄く, 石灰分が少なく軽く脆い. キヌタレガイと近似するが殻の色彩は濃く, 淡黄褐色の放射肋が明瞭で数が多い.

分布: 北海道から九州, 中国大陸に分布する. 内湾の潮間帯から水深20m程度の砂泥底に生息する. 鰓には硫化水素を用いて有機物を合成する化学合成細菌が共生している. 現在干潟で生きた個体が確認されることは非常に少ない. 浜名湖や瀬戸内海では潮間帯のアマモ場で生きた個体が確認されている. キヌタレガイより外洋水の影響の強い海域を生息環境とする場合が多い.

現況・減少要因: 現状は選定理由参照. 減少要因は干潟の減少, 水質汚濁などが考えられる.

文献: 73, 88, 115.



(木村昭一)

ヤマホトトギス 二枚貝綱イガイ科
Arcuatula japonica (Dunker, 1857)

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
旧県：—

環境省：NT

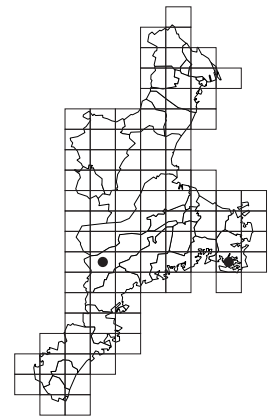
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に伊勢湾内2か所，的矢湾1か所の潮下帯より分布記録がある。近年生浦湾，英虞湾の外洋水の影響の強い潮下帯アマモ場より生貝が採集されているが個体数は非常に少ない。干潟で生息は確認されていない。死殻の採集例も非常に少ない。

種の概要： 殻長30 mm。殻は薄く，後方に広がる長方形。内湾域の潮間帯に多産するホトトギスガイに近似するが，本種は大きくなり殻が長く，細長い。ノジホトトギスにも近似するが，やはり本種の方が大型になり，赤褐色の模様が明瞭である。

分布： 房総半島から九州，沖縄本島，朝鮮半島，中国大陸に分布する。内湾の潮間帯から水深20 m程度の砂泥底に生息する。現在干潟で生きた個体が確認されることは非常に少ない。浜名湖や有明海では潮間帯のアマモ場で生きた個体が確認されている。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。減少要因は干潟の減少，水質汚濁などが考えられる。

文献： 2, 73, 87, 115.



(木村昭一)

ハンレイヒバリガイ (カラスノマクラ) 二枚貝綱イガイ科
Modiolus hanleyi (Dunker, 1882)

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
旧県：—

環境省：CR+EN

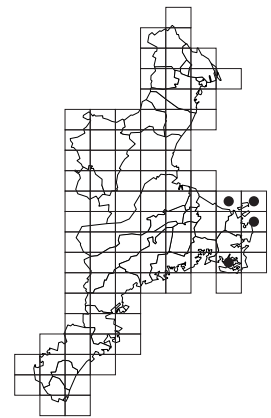
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に伊勢湾内3か所（ハンレイヒバリガイ，カラスノマクラでそれぞれ2か所，1か所は共通）の潮下帯より分布記録がある。近年伊勢湾から湾口部にかけて生浦湾，英虞湾湾口部で生息が確認されているが個体数は少ない。県内では干潟で生息は確認されていない。

種の概要： 殻長45 mm。殻は薄く，後方に広がる長方形。殻表は小型の個体では金色を帯びた黄色で大型個体では茶褐色で光沢が強い。

分布： 東京湾から九州，インド・西太平洋に分布する。内湾の潮間帯から水深20 m程度の砂泥底に生息する。近年全国的に生貝の採集例が少なく，干潟で生息が確認されているのは瀬戸内海周防灘の限られた海域のみである。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。減少要因は干潟の減少，水質汚濁などが考えられる。

文献： 87, 115.



(木村昭一)

イガイ 二枚貝綱イガイ科
Mytilus coruscus Gould, 1861

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
旧県：—

環境省：—

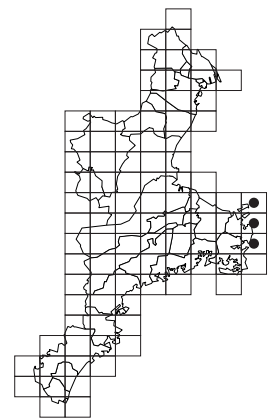
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に伊勢湾内1か所，県南部の海域の3か所の潮間帯から水深20 mより分布記録がある。本種はかつて伊勢湾内から湾口部にかけての岩礁の潮間帯から潮下帯に群生し，食用として重要な種であった。1980年代から著しく生息域，個体数とも減少し，2013年に伊勢湾口部の非常に限られた海域のみかろうじて生息域が残されている種であることが，詳細な潜水による生息調査によって初めて明らかにされた。

種の概要： 殻長100 mmを越える。殻は黒紫色で厚い。いわゆるムール貝（ムラサキイガイ：移入種）を大型にしたような種。

分布： 北海道南部から九州，朝鮮半島，中国大陸に分布する。相模湾や東海地方で著しい減少が報告されている。瀬戸内海などで現在でも食用種として珍重されている。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。減少要因は干潟の減少，水質汚濁，ムラサキイガイ（外来種）との競合などが考えられる。

文献： 8, 87, 119.



(木村昭一)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ヒシガイ 二枚貝綱ザルガイ科 三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 環境省：VU
旧県：—
Fragum banno (Otsuka, 1937)

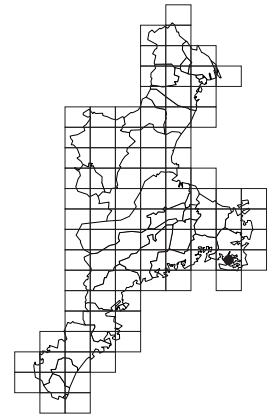
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に英虞湾の1か所（賢島）の潮間帯から潮下帯より分布記録がある。近年生浦湾，鳥羽市南部の干潟で古い死殻は採集されているが，生息が確認されているのは英虞湾中部の狭い範囲にすぎない。現在でも英虞湾の湾奥部から中央部にかけての潮間帯から潮下帯では，賢島を含めて比較的新しい死殻が採集されているので生息している可能性はある。

種の概要： 殻長10 mm。殻は四角形，厚質で堅固。殻表には瘤状突起が並ぶ20本前後の太い放射肋がある。

分布： 東京湾から九州，奄美大島，台湾，タイに分布する。外洋水の影響のある内湾の干潟から水深10 m程度の砂泥底に生息する。近年玄界灘及び周防灘の一部から個体群の消滅が報告された。現在全国的に生貝の採集例が少なく，英虞湾は分布の北・東限と考えられる。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。減少要因は干潟の減少，水質汚濁などが考えられる。

文献： 72. 87. 115.



(木村昭一)

サビシラトリ 二枚貝綱ニッコウガイ科 三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 環境省：NT
旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
Macoma (Macoma) contabulata (Deshayes, 1855)

選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に伊勢湾から2か所，県南部の1か所の内湾域の潮間帯から分布記録がある。1980年代より著しい生息地，個体数の減少が認められた。現在伊勢湾中部に健全な個体群が確認されているが，生息地，個体数とも回復傾向が見られない。

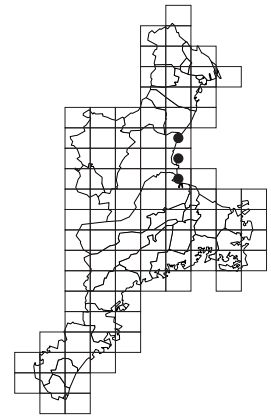
種の概要： 殻長70 mmで，殻は卵形，膨らみが強い。殻はやや薄く，白色，生きている時には薄い殻皮を縁辺部に被る。

分布： 北海道南部から九州，朝鮮半島，中国大陸，ロシア日本海沿岸に分布する。北日本では生息地が多いが，西南日本（温帯域）では生息地が少なく，減少傾向が著しい。内湾奥の河口域や汽水湖の泥底に深く穿孔して生息する。

現況・減少要因： 現況は選定理由参照。河口域の改変，干潟消失，水質汚濁などが減少要因と考えられる。

保護対策： 伊勢湾の生息地については，三重大学生物資源学部海洋生態学研究室による年間2回以上のモニタリング調査が行われている。

文献： 2. 8. 61. 68. 73. 87. 115.



(木村昭一・木村妙子)

サギガイ 二枚貝綱ニッコウガイ科 三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 環境省：NT
旧県：—
Macoma (Rexithaerus) sector (Oyama, 1950)

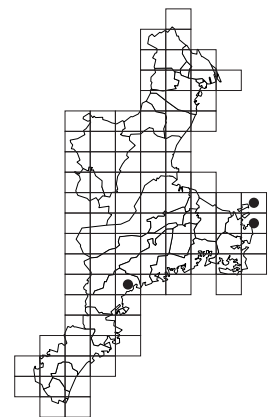
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に伊勢湾内2か所，県南部の海域の2か所の潮下帯より分布記録がある。1980年代には伊勢湾沿岸各地で比較的普通に新鮮な死殻が打ち上げられていたが，近年古い死殻すら稀で，伊勢湾湾口部から南の小規模な内湾域の潮下帯より生貝がわずかに確認されているにすぎない。

種の概要： 殻長40 mm。殻は楕円形で扁平で膨らみが少なく薄質。殻表は白色で光沢があり平滑。ゴイスギガイと近似するが本種は大型で殻表の光沢が強い等の点で区別できる。

分布： 北海道から九州，サハリン，朝鮮半島，中国大陸に分布する。外洋水の影響のある内湾の干潟から水深10 m程度の砂泥底に生息する。近年，三浦半島や浜名湖で生息が継続的に確認されているが，そのような場所は少なくなった。かつての多産地の瀬戸内海でも，生息海域，個体数が激減している。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。減少要因は干潟の減少，水質汚濁などが考えられる。

文献： 2. 87. 115.



(木村昭一)

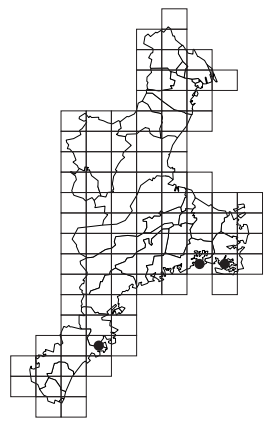
| |
|---------|
| 哺乳類 |
| 鳥類 |
| 爬虫類 |
| 両生類 |
| 汽水・淡水魚類 |
| 昆虫類 |
| クモ類 |
| 貝類 |
| 甲殻類 |
| その他動物 |
| EX |
| EW |
| CR |
| EN |
| VU |
| NT |
| DD |

ナミノコガイ 二枚貝綱フジノハナガイ科
Donax (Latona) cuneatus Linnaeus, 1758

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：NT

選定理由： 既知の生息地は5か所以下。志摩半島から熊野灘沿岸の砂浜海岸に生息するが、生息範囲が狭く個体数も多くはない。港湾整備や養浜事業により生息地が減少している。
種の概要： 殻幅20mm。内面は紫色を帯び、内側腹縁は刻まれる。砂浜海岸の波打ち際付近に見られ、潮位に合わせて砂浜を移動する。
分布： 熱帯インド・太平洋に分布する。国内では房総半島以南の砂浜海岸に分布する。県内では志摩半島から熊野灘沿岸の砂浜海岸に生息する。干潮時にある程度の湿り気が保持された状態で干出する前浜（保水帯）に分布域がある。
現況・減少要因： 志摩半島、尾鷲市から熊野市にかけての熊野灘沿岸で生息を確認できる。養浜事業による底質の変化や自然海岸消失の影響が懸念される。
保護対策： 稚貝の着底場所が潮下帯である可能性が高く、浅海域を含めた環境を考慮する必要がある。前浜の傾斜など地形も分布密度を左右する要因と考えられている。自然海岸の急激な環境改変を控える必要がある。
文献： 79, 87, 106, 111, 115, 124.



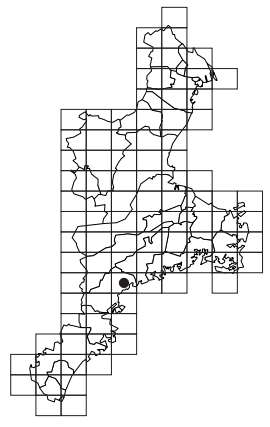
(中野 環)

マスオガイ 二枚貝綱シオサザナミ科
Gari (Psammotaena) elongata (Lamarck, 1818)

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
旧県：

環境省：

選定理由： 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。2004年に紀伊長島町の汽水湖から県下よりの生息が初めて報告された。現在の本種の北・東限分布地として貴重である。報告時から個体数は少なかったが、近年歩道整備によって生息地の一部が改変を受け、個体数が明らかに減少した。
種の概要： 殻長50mmで前後に長い方形。殻表は平滑で紫色、若い個体では緑褐色の殻皮で被われる。
分布： 紀伊半島から九州、南西諸島、インド・太平洋に分布する。内湾奥の石や礫混じりの泥質干潟に生息する。紀伊半島から九州にかけての生息地は少なく、比較的生息地の多い南西諸島でも護岸工事等で個体群の消失が報告されている。
現況・減少要因： 現状は選定理由参照。干潟の消失、水質汚濁などが減少要因と考えられる。
文献： 62, 64, 115.



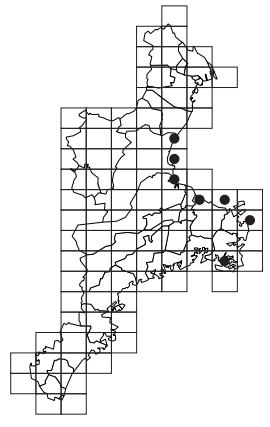
(木村昭一)

ムラサキガイ 二枚貝綱シオサザナミ科
Soletellina adamsii Reeve, 1857

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
旧県：

環境省：VU

選定理由： 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。1979年以前に伊勢湾内3か所、県南部の海域の1か所の潮間帯から潮下帯より分布記録がある。1980年代には伊勢湾沿岸各地で比較的普通に新鮮な死殻が打ち上げられていたが、一時期死殻すら全く見かけない時代があった。2012年頃より復活傾向が確認され、伊勢湾中部から湾口部の沿岸で非常に新しい死殻などが比較的普通に見られる海岸もある。しかし、その様な海岸は少なく範囲も狭い、また干潟で生貝が確認されることは現在も非常に稀である。
種の概要： 殻長120mm。殻は長い楕円形で膨らみが少なく薄質。殻表は紫色で褐色の殻皮でおおわれている。
分布： 房総半島から九州、台湾、インドネシアに分布する。外洋水の影響のある内湾の干潟から潮下帯の砂泥底に生息する。近年復活傾向はあるものの、かつての状態にはほど遠い。瀬戸内海西部、宮崎県に健全な個体群が確認されている。
現況・減少要因： 現状は選定理由参照。減少要因は干潟の減少、水質汚濁などが考えられる。
文献： 2, 73, 87, 109, 115.



(木村昭一)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類

ガンギハマグリ

二枚貝綱マルスダレガイ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：NT

Pitar lineolatum Sowerby II, 1854

旧県：

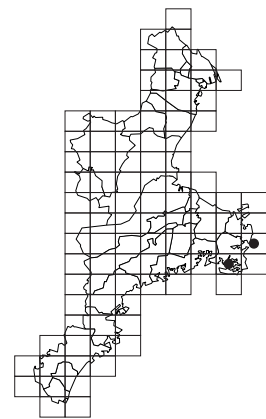
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に県南部の海域の2か所の潮下帯より分布記録がある。現在，生貝が確認されているのは鳥羽市南部低潮線付近及び英虞湾の潮下帯の共にアマモ場近くの礫混じりの砂泥底の2か所のみで，生貝の個体数は非常に少ない。その他の海域では死殻が採集されることも稀である。

種の概要： 殻長 25 mm。殻はいわゆるハマグリ型で，良く膨らむ。殻表は茶色がかった白色で折れ線模様がある。生時は殻の一部に薄い殻皮をかぶり，その殻皮に砂泥が付着している。

分布： 房総半島から九州，南西諸島，中国大陸，台湾，フィリピンに分布する。日本では，山口県北部から九州西岸に健全な生息地が点在するが，分布域のほとんどで生息海域，個体数が激減している。この傾向は潮間帯で特に顕著である。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。減少要因は干潟の減少，水質汚濁などが考えられる。

文献： 76. 87. 115.



(木村昭一)

甲殻類
その他動物

イオウハマグリ

二枚貝綱マルスダレガイ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：VU

Pitar sulfreum Pilsbry, 1904

旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前には英虞湾1か所の潮間帯より分布記録がある。現在では英虞湾，五ヶ所湾で健全な個体群が確認されているが，それ以外の海域では死殻すら稀である。英虞湾は現在，本種の東・北限分布地である。

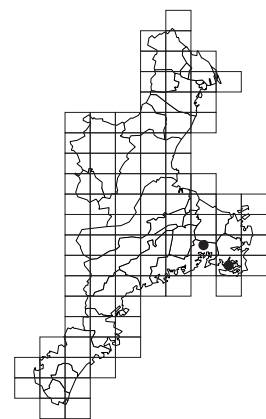
種の概要： 殻長 30 mm。円形で膨らみが強く，殻はやや厚い。生時は殻表に砂や泥を付着させている。殻表は平滑で鮮黄色，殻の内面は橙黄色。

分布： 房総半島から南西諸島，インド・太平洋に分布する。外洋水の影響のある内湾奥の泥質干潟の中・高潮線に生息する。伊勢湾以北ではほぼ絶滅状態で，死殻すら確認できない。

現況・減少要因： 現況は選定理由参照。減少要因として特に本種は干潟の高い部分に生息地があり，陸域の改変の影響を受けやすい。

保護対策： 英虞湾の生息地については，三重大学生物資源学部海洋生態学研究室による年間2回以上のモニタリング調査が行われている。

文献： 66. 73. 87. 115.



(木村昭一・木村妙子)

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

スジホシムシモドキヤドリガイ

二枚貝綱ウロコガイ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：NT

Nipponomysella subtruncata (Yokoyama, 1922)

旧県：

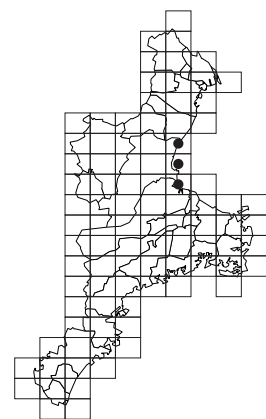
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化，特殊生息環境。県下から正式な生息記録はないが，伊勢湾中部の干潟5か所で生息が確認されている。本種は砂泥底に深く潜って生息するスジホシムシモドキの体表に付着しているが，宿主自体が良く保全された干潟のみ生息し，そのような干潟自体が減少しているため，本種の生息基盤は脆弱である。

種の概要： 殻長 5 mm。殻は微小，長卵形で膨らみは弱く白色。

分布： 浜名湖から九州，南西諸島。分布北限の浜名湖では潮通しの良いアマモ場周辺の砂泥底に多数のスジホシムシモドキが生息しており，年による変動もあるが健全な本種の個体群が確認されている。三重県下の生息地では，浜名湖ほどの個体数は確認できない。南西諸島の個体群は生息環境が著しく異なり宿主も別種の可能性もあり，分類学的な検討を要す。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。減少要因は干潟の減少，水質汚濁などが考えられる。

文献： 2. 73. 115.



(木村昭一)

マゴコロガイ

二枚貝綱ウロコガイ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：NT

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

Peregrinamor ohshimai Shoji, 1938

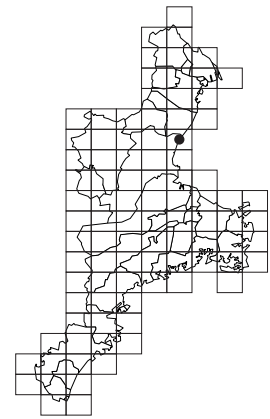
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化，特殊生息環境。1990年に津市志登茂川河口域から県下で初めて本種の産出が報告された。近年，伊勢湾最奥部の名古屋港沖の潮下帯よりも生息が確認された。近年三重県下の干潟で本種が確認されているのは，伊勢湾中部の1か所だけである。その生息地でも個体数は非常に少ない。

種の概要： 殻長10 mm。殻は薄質半透明，腹面から見るとハート型。本種は干潟の砂泥底に深く穿孔して生息するアナジャコ類の頭胸部腹側に足糸で着生する。

分布： 東京湾から九州に分布する日本固有種。東京湾からは原記載以来生息が記録されていない。名古屋港沖が現在の分布北限であると考えられる。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。減少要因は干潟の減少，水質汚濁などが考えられる。現在でもアナジャコ類が多産する干潟は多いので，ホストの減少が減少要因とは考えにくい。

文献： 2, 68, 73, 78, 115.



(木村昭一)

ヒメマスオガイ

二枚貝綱オオノガイ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：VU

Cryptomya busoensis Yokoyama, 1922

旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由： 既知の生息地は5か所以下。港湾工事や埋め立てにより生息地が減少している。また，貧酸素水塊の発生や水質汚染により生息環境の悪化が進行している。

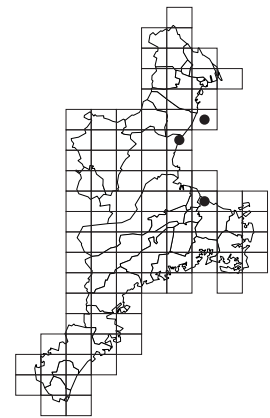
種の概要： 殻長15 mm，殻高10 mm。殻は薄く，卵形で白色。膨らみはやや強い。後端は裁断状でひろく。殻頂下にさじ状の弾帯受けがある。

分布： 北海道から九州にかけて分布する。県内では伊勢湾内の水深10 m以深に生息する。

現況・減少要因： 伊勢湾内の水質悪化により生息場所，生息数ともに減少したと考えられる。近年，生貝はわずかに確認されている。

保護対策： 伊勢湾内の環境改変を控え，水質の富栄養化を防止する必要がある。

文献： 61, 87, 105, 111, 115, 123.



(中野 環)

ゴマオカタニシ

腹足綱ゴマオカタニシ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：NT

Georissa japonica Pilsbry, 1900

旧県：—

選定理由： 三重県の記録は5地点。三重県下では，限定的な3地域のみで生息記録のある貴重な個体群である。2地域は石灰岩地であり，開発や乾燥化の影響が心配される。

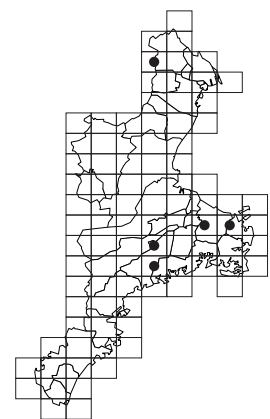
種の概要： 殻高2 mmまでの微小種。殻は淡い赤色で螺肋が明瞭。蓋は石灰質。

分布： 本州（関東・北陸以西）・四国・九州・沖縄に広く分布する。三重県では藤原町（藤原岳・多志田峡）・大紀町（阿曾石灰岩地）・伊勢市（島路山）の3地域に生息。

現況・減少要因： 生息地ではきわめて多産する場合もあるが，分布域が狭い種である。開発や乾燥化が懸念される。

保護対策： 本種の生息地における石灰岩採掘の制限や森林環境の保全。

文献： 18, 41, 44, 87.

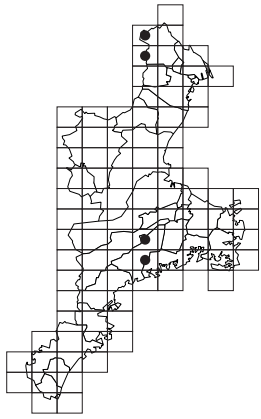


(早瀬善正)

- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物
- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

ヤマキサゴ 腹足綱ヤマキサゴ科 三重県：準絶滅危惧 (NT) 環境省：—
Waldemaria japonica (A. Adams, 1861) 旧県：—

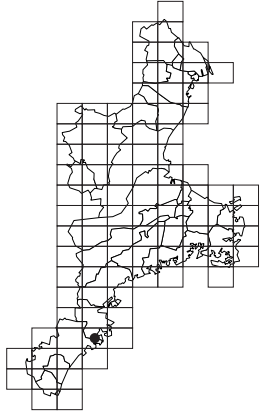
選定理由： 三重県の記録は5地点以下。三重県内では、御池岳・藤原岳周辺と大紀町阿曾周辺の限定的な2地域のみで生息がみられる貴重な個体群である。2地域は石灰岩地であり、開発や乾燥化の影響が心配される。藤原岳では減少傾向が著しい。
種の概要： 本州・四国に広く分布するが各地域固有の形状に分化する。三重県でも2地域の各個体群の形状は異なるとされる。三重県北部の個体群はやや大型で黄色から赤色まで殻の色が変異し、モミジヤマキサゴと呼ばれる型。
分布： 本州・四国に広く分布している。三重県では限定的な2地域でのみ分布。
現況・減少要因： 生息地では多産する場合もあるが、分布域が狭い。開発や乾燥化が懸念される。かつては、北部石灰岩地では足の踏み場もないほどのおびただしい個体数が確認されていたが、近年では、その様な状況を目にしない。
保護対策： 石灰岩採掘の制限や石灰岩地の環境の保全。
文献： 18, 19, 40, 41, 44, 87.



(早瀬善正)

キイゴマガイ 腹足綱ゴマガイ科 三重県：準絶滅危惧 (NT) 環境省：—
Diplommatina kiiensis Pilsbry, 1902 旧県：—

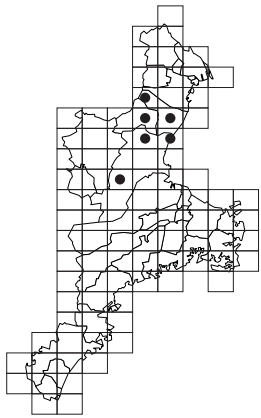
選定理由： 三重県の明確な確認記録は1地点。生息数も少なく希少。
種の概要： 殻高3mm程の微小種であるが、日本国内のゴマガイ科のなかではやや大形の種。殻頂部は円錐形でその後は円筒状の形態。殻口唇縁(第1口唇)の後方に隆起(第2口唇)が見られる。近似種のイブキゴマガイとの大きな差異は、第1・第2口唇の間隔がイブキゴマガイでは広いのに対して、キイゴマガイは、ほぼ接している点である。
分布： 紀伊半島南部のみ。三重県下では尾鷲市で確認された(報告準備中)。このほか、伊勢市での過去の記録もあるが、イブキゴマガイの誤認記録の可能性が高く、この地域での分布を現時点では疑問視する。
現況・減少要因： 生息密度が低い上、明確な分布域は、きわめて狭い。生息地の環境が現時点で保護されている訳ではなく、開発や森林伐採の可能性がある。
保護対策： 生息地の森林環境の保全・維持が必要。
特記事項： 本種とイシマキゴマガイ、シコクゴマガイとは形態的な区別はできず、今後、DNA解析など分類学的再検討も必要。
文献： 87.



(早瀬善正)

アツブタガイ 腹足綱ヤマタニシ科 三重県：準絶滅危惧 (NT) 環境省：—
Cyclotus campanulatus Martens, 1865 旧県：—

選定理由： 三重県の確認記録は10地点以下。三重県内での分布域は狭い。太平洋沿岸部での東限分布域にもあたるので、生物地理を考える上でも三重県の個体群は貴重。
種の概要： 殻径15mm程度の小型種。殻は低円錐形で厚く、螺管が円く、縫合は深い。臍孔は広い。茶褐色で濃い赤褐色の縞模様を有する。蓋は多旋型で石灰化し厚く、比較的平らな形状。
分布： 本州(群馬県以西)・四国・九州に分布するが、分布の中心は西日本である。三重県では鈴鹿市から津市(布引山地山麓部)を中心とする狭い範囲に主に分布する。
現況・減少要因： 山麓部の環境に生息する場合が多く、石灰工場や石灰採石場の周辺などに生息する場合もあり、林の伐採や環境の改変行為などの影響を受ける可能性が高い種である。
保護対策： 生息地の森林環境の保全・維持が必要。
文献： 44, 87, 127.



(早瀬善正・木村昭一)

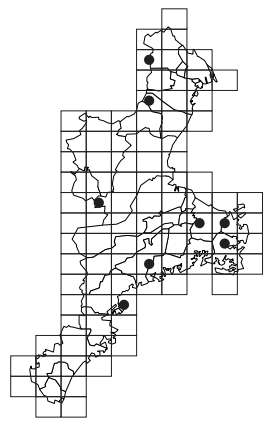
哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

サドヤマトガイ 腹足綱ヤマタニシ科
Japonia sadoensis Pilsbry & Hirase, 1903

三重県：準絶滅危惧 (NT)
旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：NT

選定理由： 既知の生息地点数は10以下であり、個体数は非常に少ない。
種の概要： 殻は小形で、殻高5mm、殻径5.5mm、5層。円錐形で暗褐色。殻表には不規則に多くの螺条がある。次体層の中央に一行、体層の中央部に二列のやや長い毛状の突起がある。
分布： 本州（関東以西）、四国、九州に分布する。県内では、北勢、中勢、南勢、紀州地域で記録がある。落ち葉混じりの礫間に生息し、樹上に登ることはない。
現況・減少要因： いなべ市1、鈴鹿市1、津市1、伊勢市2、鳥羽市1、大紀町1、紀北町1か所。県内の生息地ではまれにしかみられない。自然林の開発や放置されて荒れた杉林の増加により、生息環境の悪化が進行している。
保護対策： 県内の生息地のほとんどが国立、国定公園など保護された環境にあるが、継続的な確認調査によるデータの蓄積が必要である。
文献： 41. 45. 87. 90.



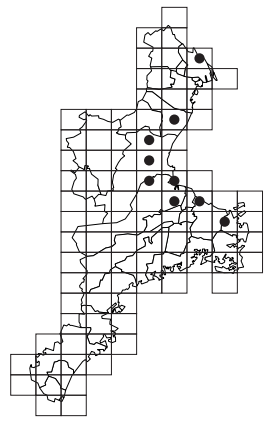
(中 優)

クロダカワニナ 腹足綱カワニナ科
Semisulcospira kurodai Kajiyama & Habe, 1961

三重県：準絶滅危惧 (NT)
旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：NT

選定理由： 1979年の三重県産貝類目録に分布記録はないが、他種と混同されていた可能性が高い。1994年には県下の4河川で生息が報告されている。その後県中部の平野部の10河川ほどで生息が確認されている。河川中・下流域の流れの緩やかな砂泥底を生息場所とし、カワニナ・チリメンカワニナと比較して最も人為的な影響を受けやすい。湖沼にも生息する。原記載時に分布が記録されていた津市逆川では現在生息が確認できない。
種の概要： 殻長は40mm程度でカワニナよりやや殻が細長く棍棒状で、殻底の肋が強くその数は6本程度で少ない。胎児殻（体内に保有している個体）は他の2種が濃い茶褐色であるのに対して本種は淡いクリーム色で殻長2mmを越す個体もあり他の2種と比べて大きく、保有数は少ない。
分布： 静岡県西部から岡山県に分布する日本固有種。タイプ産地は兵庫県。
現況・減少要因： 現況は選定理由参照。減少要因については、河川水の流量の減少、河川改修工事による底質の改変などが考えられる。
文献： 32. 56. 85. 87. 88.



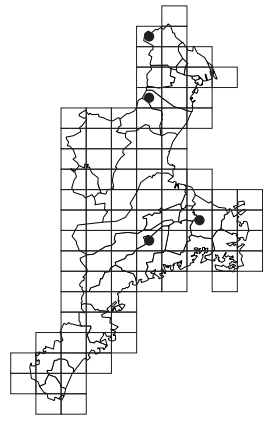
(木村昭一)

ホラアナゴマオカチグサ 腹足綱カワザンショウ科
Cavernacmella kuzuensis (Suzuki, 1937)

三重県：準絶滅危惧 (NT)
旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：CR+EN

選定理由： 既知の生息地点数は10以下であり、生息場所が石灰洞窟に限られている。
種の概要： 殻高2mm、殻径1.3mm、4・1/2層からなる。殻は薄く半透明で淡い白色。洋梨形の薄い蓋を持つ。石灰岩地の洞窟に生息する微小な陸貝である。
分布： 本州、四国、九州、沖縄に分布する。県内では、いなべ市、鈴鹿市、伊勢市、大紀町の石灰洞窟内で生息が確認されている。石灰洞窟内の湿った壁面に付着している。
現況・減少要因： 調査した殆どの石灰洞窟で生息が確認されているが、個体数は少ない。岩盤の崩落などにより既になくなってしまった石灰洞もある。
保護対策： 生息地となっている石灰洞を現状維持することが先決なので、天然記念物などに指定して環境保全を図る必要がある。
特記事項： 篠立の石灰洞は県天然記念物。近年、洞窟ごとに別種とされたが、現時点では本種としておく。
文献： 35. 41. 43. 45. 87.



(鈴木慎一)

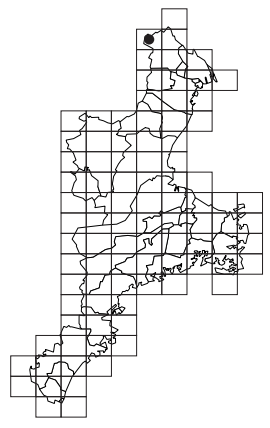
哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類

ケシガイ 腹足綱オカミミガイ科
Carychium pessimum Pilsbry, 1902

三重県：準絶滅危惧 (NT)
旧県：—

環境省：NT

選定理由： 三重県の明確な産地は1地点のみ。その産地も土石流により崩壊している。県内では、分布域が極端に狭く、希少な種である。
種の概要： 殻高1.8 mm程の微小種であり、大きさなどニホンケシガイに類似するが、成長肋が明瞭な特徴などにより区別される。
分布： 本州・四国・九州などに広く分布するとされる。三重県での明確な産地は、御池岳の狭い範囲(コグルミ谷)のみ。
現況・減少要因： 御池岳の豪雨による土石流の発生、それに伴う谷斜面の崩壊などが要因。御池岳の生息地(コグルミ谷)の環境は土石流により既に消失しており、現状は不明。
保護対策： 御池岳の環境保全対策が必要。他の生息地の発見とその環境の保全が必要。
特記事項： 現在、分類学的再検討が行われており、種名などの変更もあり得る。今後、さらに貴重な種として扱われる可能性もある。
文献： 20.



(早瀬善正)

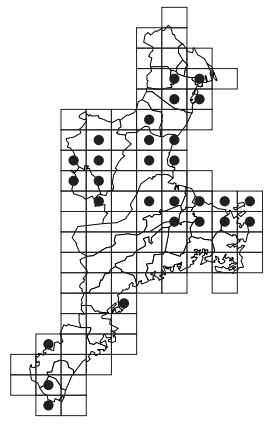
甲殻類
その他動物
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

モノアラガイ 腹足綱モノアラガイ科
Radix japonica Jay, 1857

三重県：準絶滅危惧 (NT)
旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：NT

選定理由： 既知の生息地点数は20か所程度で、かつては県内各地に生息していたが、生息地点数、個体数ともに減少している。
種の概要： 殻高15~20 mm, 殻径14 mm前後の殻の薄い淡水産の巻貝。体層は大きくてよくふくらんで丸く、螺塔は小さい。池や沼、水田、川の下よみなどの水草や礫に付着したり、泥底を這いまわる。
分布： 北海道、本州、四国、九州に分布。県内では全域で記録がある。
現況・減少要因： 亀山市1, 津市1, 松阪市2, 多気町5, 玉城町1, 伊勢市1, 鳥羽市4, 紀北町1, 熊野市1, 紀宝町2, 伊賀市3, 名張市1か所。1980年代に北勢、中勢地域や津市美杉町での記録があるがその後については不明。主な生息域である池や水田などの消失に伴い、減少していると考えられる。かつては本種の生息地であった場所で、外来種であるハブタエモノアラガイと交代している例があるが、この種の侵入による影響かは不明。
保護対策： 生息地である池や水田などの工事においては、生息が可能な水域を常に確保しておくなどの対策が必要である。
文献： 1, 56, 102.



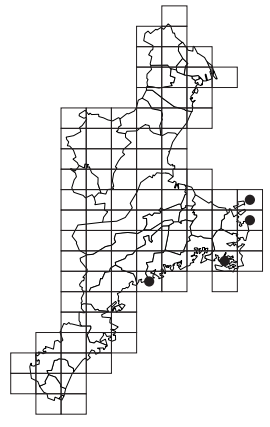
(中 優)

スナガイ 腹足綱キバサナギガイ科
Gastrocopta armigerella (Reinhardt, 1877)

三重県：準絶滅危惧 (NT)
旧県：—

環境省：NT

選定理由： 三重県の確認記録は5地点以下。生息地が少ない上、護岸のない自然度の高い海浜部の砂浜環境の多くが失われており、本種の生息環境が減少している。
種の概要： 海岸棲種であり、海岸林の林縁部の海浜植物が茂る砂地に生息する。落葉など植物の堆積物と砂地の間に見られる種である。殻高2 mm程度の微小種。殻は白色半透明で円筒形。殻口には7本(うち1本は、2歯が癒着し2分岐状)の歯状突起を有している。
分布： 本州・四国・九州・沖縄に広く分布する。三重県では生息地が主に志摩半島周辺の海岸部や離島に限られる。
現況・減少要因： 三重県は広い海岸線を有しているが、生息地は少ない。本種は、生息地では、きわめて多数の個体が見られる場合が多いが、海岸線沿いに限定された狭い生息帯のみに分布する。このため護岸の建設などで生息地が容易に破壊され個体群が消失する。
保護対策： 本種の生息が確認される海浜部の環境の維持が必要。
文献： 13, 16, 17, 87.



(早瀬善正)

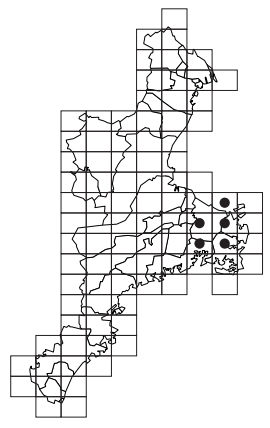
| |
|---------|
| 哺乳類 |
| 鳥類 |
| 爬虫類 |
| 両生類 |
| 汽水・淡水魚類 |
| 昆虫類 |
| クモ類 |
| 貝類 |
| 甲殻類 |
| その他動物 |
| EX |
| EW |
| CR |
| EN |
| VU |
| NT |
| DD |

ホソヤカギセル 腹足綱キセルガイ科
Mundiphaedusa hosayaka (Pilsbry, 1905)

三重県：準絶滅危惧 (NT)
 旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

選定理由： 三重県の確認記録は5地点。県内では、志摩半島を中心に比較的限られた範囲内のみ分布する種群。愛知・静岡・長野とは伊勢湾により分断された個体群としても貴重。
種の概要： 殻高20~28mm程で変異幅がある。殻は茶褐色で、螺塔が高く螺層数も比較的多く細長い形状である。
分布： 長野県の一部地域・静岡県(西部)・愛知県・三重県の4県に分布。三重県内では志摩半島周辺に分布。
現況・減少要因： 比較的多くの個体が生息する地域も見られるが、生息範囲は社寺林などの限られた場所の場合が多く、本種の生息に適した森林環境が減少傾向にあると思われる。
保護対策： 生息地の森林環境の保全・維持が必要。
特記事項： 種小名の誤綴りの修正に伴いエンシュウギセルという和名が提唱され、環境省レッドリストには、その名称でNTランクに記載されているので注意が必要。ここでは、古くから広く流布するホソヤカギセルで表記した。
文献： 29, 44, 87, 127.



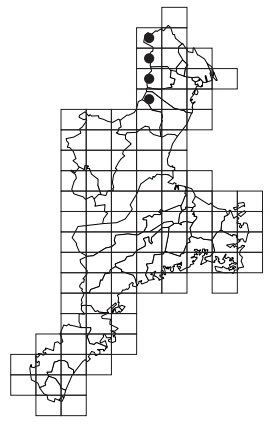
(早瀬善正・木村昭一)

キョウトギセル 腹足綱キセルガイ科
Mundiphaedusa kyotoensis (Kuroda, 1936)

三重県：準絶滅危惧 (NT)
 旧県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：VU

選定理由： 三重県の確認記録は5地点以下。三重県では主に北部に分布範囲が限定される。
種の概要： 殻高11~18mm程度の小型種。大きさには、ばらつきが大きい。殻は淡黄白色であるが、老成し殻皮がはがれ白化した個体が多い。北部石灰岩地の個体は殻口の唇縁が特に厚くなる。
分布： 京都府・福井県・滋賀県・三重県に分布する。三重県では主に北部の鈴鹿山系に分布する。
現況・減少要因： 本来個体数の少ない種である。主な分布地である北部石灰岩地における近年の調査では、比較的多数の個体が確認されており、増加傾向にあるのかもしれない。しかし、それ以外の産地では確認自体困難なほど稀な種である。多産する場合もその範囲はきわめて限られている上、石灰岩地の環境が悪化していることに変わりはなく、依然、減少への注意は必要である。
保護対策： 本種の主要な分布地である藤原岳・御池岳の環境保全対策が必要。藤原岳・御池岳では健全な個体群が見られるので、その維持も重要である。
文献： 18, 19, 20, 41, 44, 87.



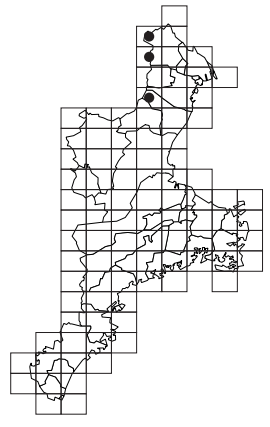
(早瀬善正)

ハゲギセル 腹足綱キセルガイ科
Pinguiphaedusa attrita (Boettger, 1877)

三重県：準絶滅危惧 (NT)
 旧県：—

環境省：—

選定理由： 三重県の記録は5地点以下。分布域が狭く希少。
種の概要： 殻高は、40mm程になる大型のキセルガイ類。殻は黄褐色である。
分布： 本州(中部以西)に分布する。三重県では北部の山地に分布が集中している。
現況・減少要因： 生息地はいずれも自然度が高く、場所によっては高密度での生息状況が確認される。しかし、その場合も大径木の朽木のみ依存しており、きわめて限定的なマイクロハビタットを好む種である。したがって、僅かな環境変化にも対応できない可能性が高い種である。
保護対策： 生息地の良好な森林環境の保全・維持が必要。生息地の一部には石灰岩地も含まれるため石灰岩採掘などの開発や石灰岩地の環境保全についても注意が必要。
文献： 18, 19, 20, 41, 44, 87.



(早瀬善正)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類

チビギセル

腹足綱キセルガイ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：

Placeophaedusa expansilabris (Boettger, 1877)

旧県：

選定理由： 三重県の明確な記録は 2 地点。県内では、分布地に限られ、生息地、個体数共に少なく、希少。

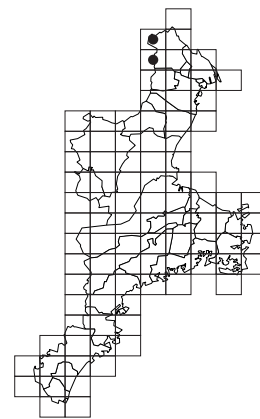
種の概要： 殻高 16 mm 程の小型キセルガイ類。殻は赤褐色である。広域分布種とされているが、種内での分化程度や近縁種との分類学的検討が必要な種群と思われる。朽木に集まり生息する傾向が強い種である。

分布： 本州に広く分布する。三重県では、明確な分布地は御池岳・藤原岳に見られる。他にも分布地が散見されるが、分類学的な検討を要する。

現況・減少要因： 北部石灰岩地の個体群は、土石流などの影響により生息環境が狭められている。

保護対策： 生息地の森林環境の保全・維持が必要。石灰岩地の生息地においては、石灰岩採掘などの開発行為や石灰岩地の環境保全についても注意が必要。

文献： 18, 20, 87.



(早瀬善正)

甲殻類
その他動物

イボイボナメクジ

腹足綱ホソアシヒダナメクジ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：NT

Granulilimax fuscicornis Minato, 1989

旧県：

選定理由： 三重県の確認記録は 5 地点以下。生息数も少なく希少。

種の概要： 生時の体長は、20 mm 以下の淡黄褐色の小型種。触角は黒く、背面に黒褐色の細い環状模様と共に多数の微細な顆粒状突起を有する。休止時は、特に顆粒が目立つので種和名の由来となる。陸産貝類のみを捕食する肉食性種。

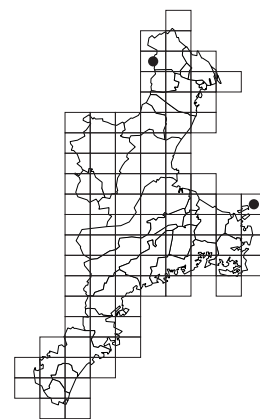
分布： 本州・四国・沖縄に亘る広い分布とされるが、実際には多くの隠蔽種の存在が考えられている。三重県下では、鳥羽市の離島海岸林から北部石灰岩地の標高 1000 m 以上の山頂付近まで生息域は広範だが、確認例はきわめて少ない。

現況・減少要因： 近年の急激な気象変動や開発などによる森林環境の悪化が、餌料である小型陸産貝類の減少につながり、本種の減少にも直結する。

保護対策： 生息地の森林環境の保全・維持が必要。

特記事項： 実際には、形態での区別が困難な同胞種(sibling species)と考えられる隠蔽種が複数種存在するようである。しかし、ここでは形態的特徴が同様の本類を同種とみなし本県のカテゴリー該当種とする。

文献： 13, 18, 19, 20.



(早瀬善正)

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ヒゼンキビ

腹足綱ベッコウマイマイ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：NT

Parakaliella hizenensis (Pilsbry, 1902)

旧県：

選定理由： 三重県の明確な産地は 2 地点のみ。北部の石灰岩地に分布が集中しているので開発や乾燥化、近年頻発する自然災害などの影響が心配される。

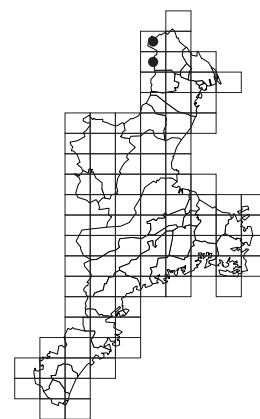
種の概要： 殻高 1.5 mm 程度の微小種。殻形態は、低円錐形であり、周縁は円みを帯びる。臍孔は小さく明瞭に開いている。

分布： 本州・四国・九州に広く分布する。三重県下では現時点では北部石灰岩地のみで分布確認されている。

現況・減少要因： 北部石灰岩地に分布が集中しているので石灰岩採掘などの開発や森林伐採やシカ食害、温暖化に伴う乾燥化の影響が心配される。豪雨に伴う表土の流出や土石流の発生も懸念される。

保護対策： 北部石灰岩地の森林環境の保全が必要。

文献： 18, 19.



(早瀬善正)

スジキビ

腹足綱ベッコウマイマイ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：NT

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

Parakaliella ruida (Pilsbry, 1901)

選定理由： 三重県の記録は5地点以下。生息数も少なく希少。

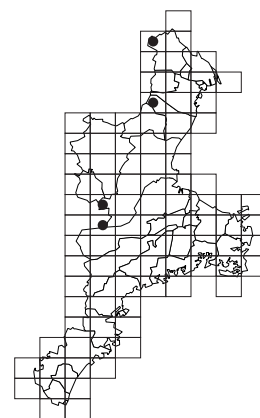
種の概要： 殻高2 mm, 殻径4 mm程度の微小種。殻は、殻底部がよく膨れるそろばん玉型で周縁角は強く角張る。螺塔部の殻表には規則的な成長肋が明瞭。本種の生貝は、殻表に泥を付着させている場合が多い。軟体は黒色。ヒメカサキビは、本種に類似するが、本種よりも一回り小型で周縁角の鋭い特徴などによって容易に区別できる。

分布： 本州に広く分布。三重県では御池岳、野登山、美杉町の記録がある。湿潤な環境の朽木に付着する。

現況・減少要因： 本来生息数が少なく生息環境も限定的な種である。谷部の沢沿いなどの湿潤な自然林の環境に多く生息するが、その様な環境が近年の自然災害や開発などで荒廃や減少している。

保護対策： 生息地の森林環境の保全・維持が必要。生態的に広葉樹の朽木への依存度が高い種であり、谷部の湿潤で朽木の多い環境の維持が重要。

文献： 20, 21.



(早瀬善正)

ウメムラシタラ

腹足綱ベッコウマイマイ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：NT

Sitalina japonica Habe, 1964

選定理由： 三重県の確認記録は5地点以下。生息数も少なく希少。

種の概要： 殻高1.4 mm, 殻径1.7 mm程度の微小種。殻は薄く、淡黄褐色。螺塔が低く、低円錐形。殻の周縁に殻皮の隆起を伴う3本程の明瞭な螺肋が見られる。

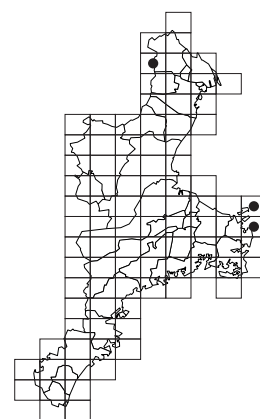
分布： 本州・四国・九州に広く分布する。三重県では北部の石灰岩地と鳥羽市の離島など志摩半島沿岸部での分布記録がある。

現況・減少要因： 主に山麓や低山地の自然度の高い森林の林床部に生息する種である。里山環境や海岸林は開発などの影響を受け易く、本来、生息密度の低い本種の生息環境は狭められている。

保護対策： 本種の生息する森林環境を維持することが必要。

特記事項： 日本国内では属位をコシタカシタラ属 *Sitalina* に扱う場合が多い。しかし、トウガタシタラ属 *Coneuplecta* との明確な差異がなく、後者の亜属に過ぎないと考えられる。

文献： 17, 19, 87.



(早瀬善正)

ヒメカサキビ

腹足綱ベッコウマイマイ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：NT

Trochochlamys subcrenulata (Pilsbry, 1901)

選定理由： 三重県の確認記録は10地点以下。生息数は少ない。

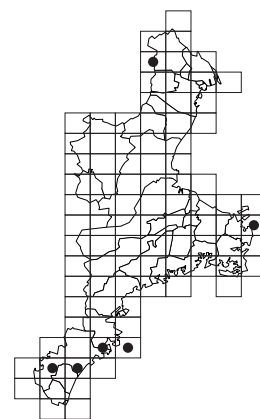
種の概要： 殻高2 mm, 殻径3 mm程度の微小種。殻は、そろばん玉型で周縁角は鋭く突出する。螺塔部の殻表には規則的な成長肋が明瞭。カサキビの幼貝などが類似の形態のため誤認される場合が多く注意が必要。

分布： 本州・四国・九州・沖縄に広く分布。三重県下にも広く分布するが確認地は少ない。海岸部や北部石灰岩地の山麓で確認されている。

現況・減少要因： 本種は、海岸林や山麓部などの里山的環境に見られる種でそのような環境は開発の影響を受け易い。

保護対策： 生息地の森林環境の維持が必要。

文献： 44, 87.



(早瀬善正)

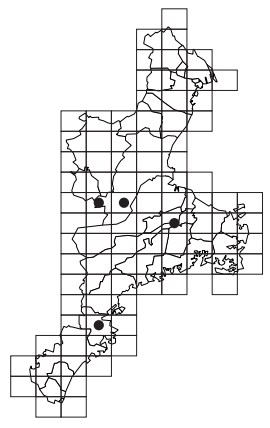
- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物
- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

ケハダビロウドマイマイ 腹足綱ナンバンマイマイ科
Nipponochloritis fragilis (Gude, 1900)

三重県：準絶滅危惧 (NT)
 旧県：—

環境省：NT

選定理由： 主に三重県中部から南部に分布し、個体数密度も低く、希少。
種の概要： 殻は、薄く平巻き状。殻皮毛は低密度のまばらな状態で生える。臍孔は成貝においても明瞭に開いている。(口絵 8-15)。鈴鹿市周辺では、成貝の臍孔は閉じ、殻皮毛密度が低密度の個体が現れるが、これらはビロウドマイマイとして扱う。ビロウドマイマイと近縁である他、多岐の分化も推測され、今後の分類学的な整理が必要な種でもある。
分布： 本州に広く分布するとされるが、研究途上の種であり、正確な分布域は不明。三重県では主に中部から南部に生息する。ヒメビロウドマイマイと同所分布する場合もある。
現況・減少要因： 生息密度が低い種である上、生息地の森林環境が現時点で保護されている訳ではなく、開発や森林伐採の可能性がある。
保護対策： 生息地の森林環境の保全・維持が必要。
特記事項： 三重県に広く分布記録が存在するが、同属他種の混在記録が大半であり、真の分布状況を正確に把握できない。本種をトサビロウドマイマイに誤認した報告もある。
文献： 92。



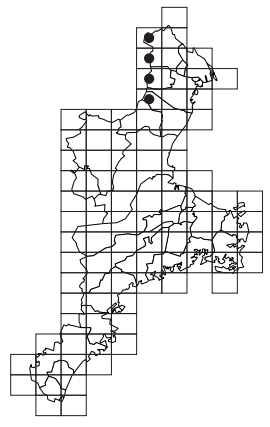
(早瀬善正)

ビロウドマイマイ 腹足綱ナンバンマイマイ科
Nipponochloritis oscitans (Martens, 1885)

三重県：準絶滅危惧 (NT)
 旧県：—

環境省：DD

選定理由： 三重県の確認記録は 5 地点以下。生息密度が低い。三重県では北部に見られる種群として重要。
種の概要： 殻は殻径 20 mm 程、きわめて薄い。螺塔は僅かに突出し全体的に円みを帯びる。成貝の臍孔は閉じる。殻皮毛は短く密生するが、一部に低密度でまばらな個体群が見られる。軟体は黒色。生殖器官の鞭状器は短く、交尾囊柄部は中央が膨れる。
分布： 本州に広く分布する。三重県では北部に分布する。
現況・減少要因： 北部石灰岩地では比較的多くの個体が見られるが、石灰岩採掘・森林伐採などの開発やシカ食害、温暖化に伴う乾燥化の影響が心配される。豪雨に伴う表土の流出や土石流の発生も懸念される。
保護対策： 生息地の森林環境の維持が必要。
特記事項： 三重県では本種は、これまでヒメビロウドマイマイなどに誤認されていた経緯がある。分布地は今後の調査により、多少拡がるものと思われる。
文献： 18, 19, 20。



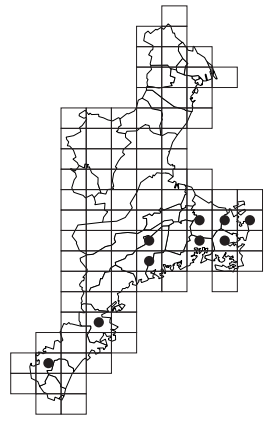
(早瀬善正)

ヒメビロウドマイマイ 腹足綱ナンバンマイマイ科
Nipponochloritis perpunctatus (Pilsbry, 1902)

三重県：準絶滅危惧 (NT)
 旧県：—

環境省：VU

選定理由： 紀伊半島南部の固有種であり貴重。生息数は少なく希少。解剖学的に地域個体群としての種内分化もあるので、それぞれの個体群が貴重。
種の概要： 殻は殻径 20 mm 程できわめて薄い。螺塔が低く、平巻き状。成貝の臍孔は閉じる。殻皮毛は短く密生する。軟体は黒色。生殖器官に地域ごとの分化が見られる。
分布： 紀伊半島南部の固有種。三重県では志摩半島を中心とする地域から紀和町など南部にかけて広く分布するが、確認例は志摩半島周辺を除き、きわめて少ない。
現況・減少要因： 本来希少な種であるが、生息には自然林の良好な環境が必要であり、その様な環境は、近年の気象変動や開発などの影響を受けて減少している。
保護対策： 現時点で特に行われていない。各地域個体群間の遺伝的分化が考えられるので、各地域個体群レベルでの保護が重要である。
特記事項： 三重県下では、北部のビロウドマイマイをヒメビロウドマイマイに扱った過去の誤認記録が多数見られる。これらの記録は、修正し取り扱う必要がある。
文献： 22。



(早瀬善正)

アナナシマイマイ

腹足綱ナンバンマイマイ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：NT

Satsuma cristata (Pilsbry, 1902)

選定理由： 三重県での確認記録は5地点以下。生息数は少なく希少。紀伊半島南部の固有種。

種の概要： 殻高15 mm程度。殻は円みを帯びたやや低い円錐形。殻口の後方に弱い隆起(クレスト)を生じる。淡い黄褐色で殻表には密に微顆粒が存在するため曇っている。臍孔は完全に閉じ種名由来となる。(口絵8-17)。

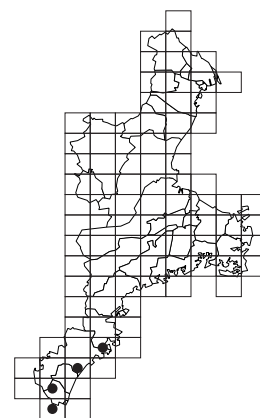
分布： 和歌山県南部から三重県南部。三重県では尾鷲市から熊野市にかけての範囲のみ分布域が見られる。山地にも生息するが、海岸林に特に多い種である。

現況・減少要因： 本来生息密度の低い種であるが、市街地近くの海岸林は開発の影響を受けやすい。

保護対策： 本種の生息が多く確認される海岸林の環境を保全・維持することが必要。

特記事項： 日本国内の分布域が紀伊半島南部に限定される種であり、そのなかの三重県の生息域は、南部の狭い地域に限定的であり保護が必要。

文献： 87.



(早瀬善正)

"シメクチマイマイ"

腹足綱ナンバンマイマイ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

"Satsuma ferruginea"

選定理由： 限られた地域固有のニッポンマイマイ類の形態型として重要。

種の概要： 殻高15 mm程度で淡黄から濃褐色。殻表は比較的平滑。臍孔は狭く、尾鷲市では完全に閉じる個体も見られた(口絵8-18)。ココロマイマイの三重県での分布記録は、この様に臍孔の閉じた本種の誤認であろう。本種は、紀伊半島で様々な形態分化を生じるニッポンマイマイ類の紀伊半島南部群の一型とみなされている。

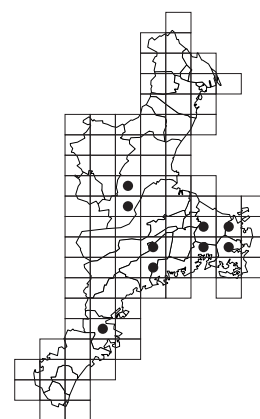
分布： 分布域は主に紀伊半島中部から南部。三重県では中部から南部に分布。

現況・減少要因： 生貝は少ない。谷部の湿潤かつ良好な自然林環境の減少。

保護対策： 生息地の森林環境の保全・維持が必要。

特記事項： 本種は、岡山県が模式産地の真のシメクチマイマイでない。本種を指す学名や標準和名がなく"シメクチマイマイ"とした。三重県北部の小型のニッポンマイマイは、この"シメクチマイマイ"に該当しない。本種は、シママイマイと同所分布する小型群を指す。

文献： 33, 87.



(早瀬善正)

シママイマイ

腹足綱ナンバンマイマイ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

Satsuma japonica simaensis Kuroda & Habe, in Habe, 1991

選定理由： 三重県での確認記録は多いが、カナマルマイマイと同様、限られた地域に固有のニッポンマイマイ類の形態型として重要な個体群と考えられる。

種の概要： 殻高23 mm、殻径27 mm程の大型個体(口絵8-16a)も見られる。殻は、周縁が円く、重厚かつ螺塔が高くなる傾向がある。淡黄(口絵8-16b)から濃褐色。殻表は平滑。臍孔は小さく開孔。紀伊半島南部で様々な形態分化を生じる紀伊半島南部群ニッポンマイマイ類の一形態型とされる。

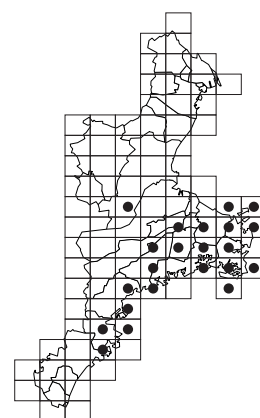
分布： 志摩半島を中心に分布し、南部は尾鷲市まで分布確認される。海岸部は生息数が比較的多い。

現況・減少要因： 現状では多くの産地があるが、生貝は高密度で生息しない。海岸林は伐採や開発により消失する場合も多く見られる。

保護対策： 海岸の常緑樹林などの自然林の環境を維持することが必要。

特記事項： 三重県の"シメクチマイマイ"と本種は同一種と考えられている。ただし、これら2種(型)は、同所に見られ形態的にも明確な区分ができるので、生殖的隔離による形態分化が推測される。

文献： 33.



(早瀬善正)

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

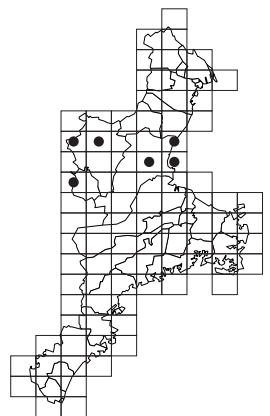
哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類

クチマガリマイマイ 腹足綱オナジマイマイ科
Aegista cavicollis (Pilsbry, 1900)

三重県：準絶滅危惧 (NT)
旧県：

環境省：NT

選定理由： 三重県の確認記録は 10 地点以下。生息域が限定的であり希少。
種の概要： 殻径 5~7 mm 程度の小型種。低円錐形で臍孔は広い。成貝の螺管は殻口付近で急に下に曲がり殻口が下向くため、和名の由来となる。殻口底唇に小隆起が見られる。
分布： 京都府・兵庫県・大阪府・奈良県・和歌山県・三重県・愛知県に分布する。主に紀伊半島の西側に比較的広く分布する。東側では分布域が限られ、愛知県では知多半島の狭い地域のみで生息する。三重県においても津市から伊賀市にかけての限定的な範囲である。
現況・減少要因： 市街地に近い丘陵から低山地にかけての生息地が多く、樹木の伐採による林床の乾燥化や土地造成などの開発の影響が及ぶ可能性がある。
保護対策： 社寺林や公園周辺の樹林にも生息地があり、そのような改変行為が行われることが少ないと考えられる林の環境を中心に本種の生息環境の保全・維持が必要。
特記事項： 近畿地方を中心に分布する固有種。
文献： 87.



(早瀬善正・木村昭一)

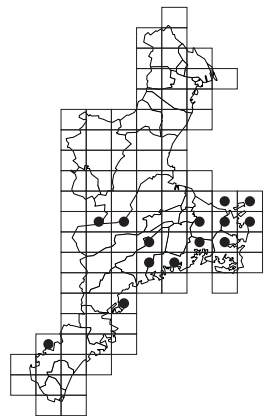
甲殻類
その他動物

フチマルオオベソマイマイ 腹足綱オナジマイマイ科
Aegista tumida (Gude, 1901)

三重県：準絶滅危惧 (NT)
旧県：

環境省：NT

選定理由： 三重県の確認記録は 14 地点。うち 2004 年以降の記録は 6 地点。多数の個体が見られた海岸林でも減少傾向にある。主に紀伊半島に分布し固有性が高い。
種の概要： 殻径 15 mm 程度。螺塔は低く、平巻き状に近い低円錐形。臍孔は比較的広く深い。殻口の唇縁は、成貝では肥厚し白色となるので明瞭である。
分布： 紀伊半島および渥美半島の一部に分布。三重県では、中部から南部に広く分布する。しかし、分布は志摩半島周辺に集中的で、それ以外の分布記録は少ない。
現況・減少要因： 海岸林の林床は、海水由来の湿度により比較的湿潤に保たれるものの、生貝は確認困難になっている。温暖化に伴うコウガイビル類等捕食者の増加など何らかの要因が影響していると思われるが、明確な減少要因は不明。
保護対策： 生息地の森林環境の維持が必要。
特記事項： 亜種キイオオベソマイマイは、明確な差異がなく同一種に扱う。三重県のフリイデルマイマイ、タキカワオオベソマイマイの記録は、主に本種の誤認記録である。
文献： 44, 87.



(早瀬善正)

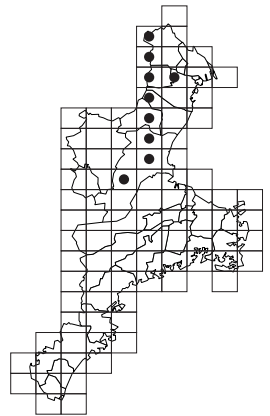
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

イブキクロイワマイマイ (チビクロイワマイマイ型を含む) 腹足綱オナジマイマイ科
Euhadra senckenbergiana ibukicola Pilsbry, 1928

三重県：準絶滅危惧 (NT)
旧県：NT

環境省：

選定理由： 三重県の確認記録は 10 地点以下。三重県では主に北部に分布範囲が限定される。主な分布地である北部石灰岩地でも山麓部では、特に、減少傾向が大きい。
種の概要： 小型群 (殻径 43 mm) のチビクロイワマイマイ型から山地に生息するやや大型 (殻径 44~50 mm) のイブキクロイワマイマイ型まで殻の変異が見られる。
分布： 伊吹・養老・鈴鹿山系を中心に分布する。三重県では北部の鈴鹿山系を中心に分布。
現況・減少要因： 山麓部は林の伐採などで乾燥化している他、大型美麗種のためコレクション目的の採集圧も減少要因として大きく思われる。
保護対策： 北部石灰岩地の自然林の環境では、環境悪化の傾向があるが、いまだ比較的多くの個体が確認されるので、自然林の環境維持が必要。チビクロイワマイマイ型など山麓部の個体群については、特に減少傾向が著しく、生息地の里山環境の維持とともに採集圧を抑える必要性もある。
特記事項： チビクロイワマイマイは、山麓部の環境で小型化したイブキクロイワマイマイの一型とし、包括して扱った。
文献： 18, 19, 20, 41, 44, 87.



(早瀬善正・木村昭一・鈴木慎一)

タシナミオトメマイマイ 腹足綱オナジマイマイ科
Trishoplita collinsoni collinsonii (A.Adams, 1868)

三重県：準絶滅危惧 (NT)
旧県：情報不足 (DD)

環境省：NT

選定理由： 既知の生息地は5か所以下。県南部で生息が確認されたが、いずれの生息地でも個体数は少ない。

種の概要： 殻高9 mm、殻幅12 mm、殻の周縁は円く、ら塔はやや高い。殻色は淡黄色。縫合上と周縁には濃褐色の色帯がある。

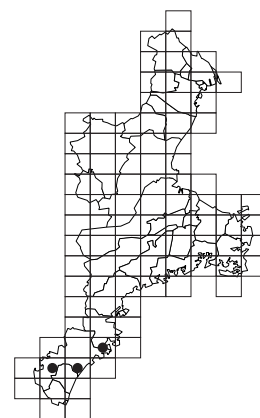
分布： 紀伊半島南部を中心に分布する。三重県では、1979年以前の記録はないが、近年、熊野市から尾鷲市にかけての海岸灌木林で生息を確認した。

現況・減少要因： 灌木林の荒廃や乾燥化が進行していて、生息を確認できる場所は限られている。

保護対策： 急激な環境変化を起こさないよう森林等の計画的な管理が必要。

特記事項： 近年の研究で本属全種は *Aegista* 属に位置付けられた。

文献： 27, 87, 111.



(中野 環)

ニオヤカマイマイ 腹足綱オナジマイマイ科
Trishoplita commoda nioyaka (Pilsbry & Hirase, 1904)

三重県：準絶滅危惧 (NT)
旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

選定理由： 既知の生息地点数は10か所程度であり、減少している。また、地域固有性はやや強い。

種の概要： 殻高5.8~6.0 mm、殻径7.6~8.0 mmの小型の陸貝。殻は薄く、色は青白い黄褐色。マメマイマイとは、本種の方がやや大きいこと、円錐形の螺塔がやや低いこと、唇縁がよく発達していることで区別される。

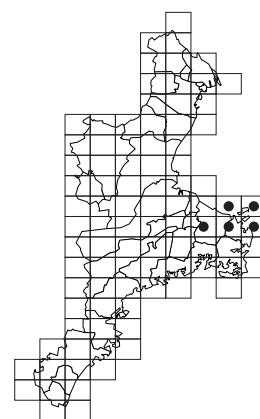
分布： 愛知県(渥美半島)、三重県に分布。県内での生息地は南勢地域に限定されている。平地から低山地にかけて生息する。

現況・減少要因： 伊勢市6、鳥羽市7か所。土地造成などに伴う生息環境の消失により減少していると考えられる。

保護対策： 生息地において開発行為を行う場合には、可能な限り既存の樹林を残す必要がある。

特記事項： 鳥羽市が模式産地。近年の研究で本属全種は *Aegista* 属に位置付けられた。

文献： 1, 27, 87, 110, 117.



(中 優)

ヒルゲンドルフマイマイ 腹足綱オナジマイマイ科
Trishoplita hilgendorfi (Kobelt, 1879)

三重県：準絶滅危惧 (NT)
旧県：—

環境省：NT

選定理由： 三重県では主に北部に分布範囲が限定される。主な分布地である北部石灰岩地では、近年の環境悪化により、大きな減少傾向が見られる。

種の概要： 殻径11~14 mm程、薄く淡黄褐色から濃褐色。螺塔はやや低く低円錐形。軟体は灰白色から黒色。

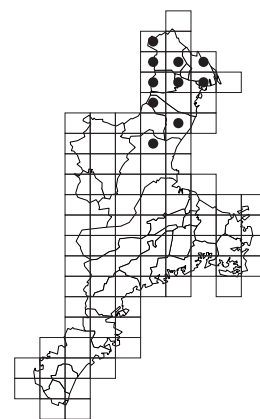
分布： 伊吹・養老・鈴鹿山系を中心に東海地方に広く分布する。三重県では北部の鈴鹿山系を中心に分布する。

現況・減少要因： かつて北部石灰岩地には多数生息していたが、最近の調査では限られた範囲に少数個体が確認される程度。石灰岩採掘などの開発や森林伐採やシカ食害、温暖化に伴う乾燥化の影響が考えられる。豪雨に伴う表土の流出や土石流の発生も懸念される。

保護対策： 生息地の森林環境の維持が必要。その他、主な分布地である北部石灰岩地の森林環境の保全が必要。

特記事項： オオヒルゲンドルフマイマイ、チャイロオトメマイマイ等とした記録も見られるが、三重県産は形態変異と考え、すべて本種に包括する。なお、近年の研究で本属全種は *Aegista* 属に位置付けられた。

文献： 18, 19, 20, 27, 41, 44, 87.



(早瀬善正)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

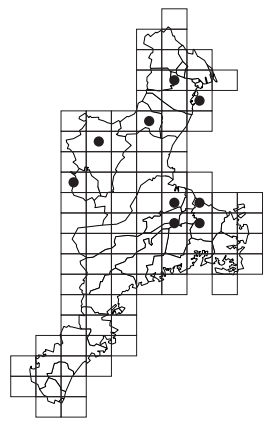
- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物
- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

ナガオカモノアラガイ 腹足綱オカモノアラガイ科
Oxyloma hirasei (Pilsbry, 1901)

三重県：準絶滅危惧 (NT)
旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：NT

選定理由： 既知の生息地は 10 か所程度あるが、いずれの生息地でも個体数は少ない。
種の概要： 殻高 12 mm, 殻径 6 mm, 螺塔は小さい。殻は薄く殻色は淡黄色。水辺の植物上にみられる。産卵は 4 月と 8 月に 2 回のピークを持ち、夏季に個体数を増大させる。
分布： 関東から九州にかけて分布し、安定した水位を保つ細流やクリークの水際にみられる。県内では伊勢平野、伊賀地方に分布し、池沼や河川の水辺にみられる。
現況・減少要因： 亀山市、松阪市から伊勢市にかけての細流や池沼等の水辺にみられるが、個体数は少ない。減少要因としては、宅地造成、圃場整備、河川や池沼改修で生息地が消失したことが考えられる。
保護対策： 河川や池沼付近の植生を維持し、乾燥化を防止する必要がある。冬季の生息場所が真の生息地であるのでその環境を改変しない。産卵場所は水辺に限られるので産卵場所の環境を保全する必要がある。
文献： 1. 10. 36. 44. 87. 102. 111.



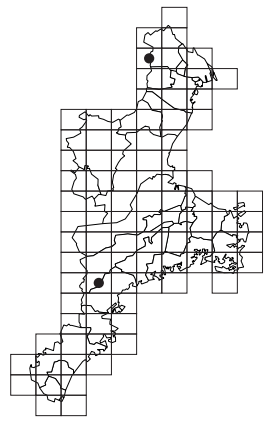
(中野 環)

オオコウラナメクジ 腹足綱オオコウラナメクジ科
Nipponarion carinatus Yamaguchi & Habe, 1955

三重県：準絶滅危惧 (NT)
旧県：—

環境省：NT

選定理由： 三重県の記録は 2 地点。生息数は少なく、希少。
種の概要： 成体と考えられる個体の体長は、生時 35 mm 程度。触角は黒く、体全体は茶褐色であるが、黒色の小斑が見られる個体もある。背面前方に楕円形の外套楯があり、その内部には、内面がくぼみ楕円形で比較的厚い白色の殻が内在する。体中部から後端までの背面中央部に稜角が見られる。
分布： 本州・四国・九州に広く分布する。三重県下では、主に藤原岳・御池岳など北部石灰岩地に生息するが、大杉谷の記録も見られる。
現況・減少要因： 本来希少な種である上、主な分布地である北部石灰岩地の環境が悪化している。
保護対策： 本種は石灰岩地の固有種ではないが、良好な自然林に棲む山地性種であり、現在、生息が知られる北部石灰岩地の環境や自然林の保全が必要。
文献： 18. 19.



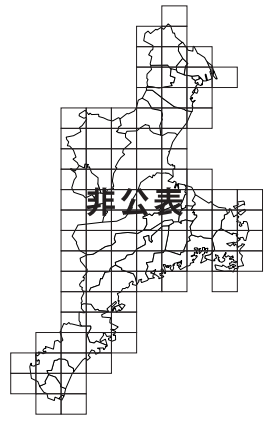
(早瀬善正)

ドブガイ 二枚貝綱イシガイ科
Anodonta spp.

三重県：準絶滅危惧 (NT)
旧県：—

環境省：—

選定理由： 既知の生息地は 30 地点以上あるが、生息場所は年々減少しつつある。
種の概要： ため池や小水路などに生息する淡水産の中から大型の二枚貝で、殻は卵形から長卵形で薄く、擬主歯も後側歯もない。魚のタナゴやヒガイの仲間が産卵に利用する。
分布： 日本固有種。北海道から九州に分布。県内では北勢、中勢、南勢地域に分布。
現況・減少要因： 県内ではいなべ市 1, 桑名市 3, 川越町 1, 菰野町 1, 四日市市 1, 鈴鹿市 2, 亀山市 2, 津市 5, 松阪市 4, 明和町 2, 多気町 2, 玉城町 4, 伊勢市 5, 志摩市 2 か所。四日市市 1 か所は 1921 年、志摩市 1 か所は 1949 年、伊勢市 2 か所は 1950 年以前の古い記録であり現在の状況は不明。生息場所であるため池、河川の改修や河道・河床のコンクリート化により減少した。
保護対策： ため池や河川の改修では安全な場所への一時的な避難を講じるほか、河道・河床の改修では全面的なコンクリート化は避ける工法を採用する。
特記事項： これまでドブガイとされてきた種は、以下の文献によりタガイとヌマガイの 2 種に整理された。ただし、過去の記録は両種が混在していることから、今回はドブガイ 1 種として扱った。
文献： 83.



(中 優・中野 環)

マツカサガイ 二枚貝綱イシガイ科
Inversidens (Pronodularia) japonensis (Lea, 1859)

三重県：準絶滅危惧 (NT)
旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：NT

選定理由： 既知の生息地は 25 地点程度あるが、生息地点数、個体数ともに減少している。

種の概要： 殻長 55 mm 前後、殻高 35 mm 前後の淡水産二枚貝。殻は卵形で、殻頂付近にさざ波状の彫刻があり、腹縁周辺の彫刻は成長するにつれ消失する。

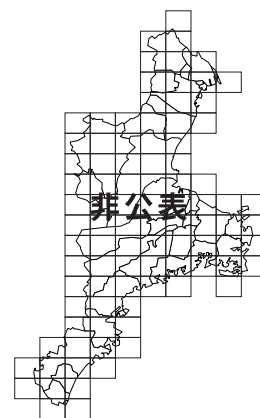
分布： 本州、四国、九州に分布。県内では北勢、中勢、南勢地域および伊賀地域で記録がある。河川や池、農業水路などの水のきれいな砂底や砂礫底に生息。

現況・減少要因： 川越町 1、菰野町 1、亀山市 3、津市 3、松阪市 4、明和町 1、多気町 3、玉城町 4、伊勢市 2、伊賀市 1 か所。地域によっては多産するが、河川改修や観賞用捕獲などにより減少。

保護対策： 乱獲を防ぐ法的根拠を整備するとともに、生息地の改変時には配慮を義務付ける必要がある。

特記事項： ヤリタナゴなどのタナゴ類の産卵母貝。

文献： 1. 56. 83. 87. 102.



(中 優)

イシガイ 二枚貝綱イシガイ科
Unio douglasiae nipponensis (Martens, 1877)

三重県：準絶滅危惧 (NT)
旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

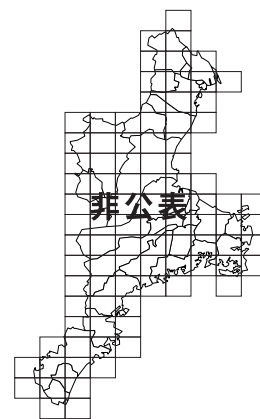
選定理由： 1979 年以前に県北・中部の 5 地点より分布記録がある。現在、県北部から中部の河川（用水路を含む）、湖沼に約 30 地点の生息地が確認されているが、河川での本種の生息地の改変、個体数の減少が著しい。津市の 1 河川では健全な個体群が確認されていたが、近年上流域の改変でほとんど生貝が採集できなくなっている。中部に 4 河川生息が確認されているが、そのうち 2 河川では著しく個体数が減少している。

種の概要： 殻長 50 mm 程度であるが、湖沼産の個体は大型になる傾向がある。殻長に比べて殻高が小さく輪郭は細長い方形。殻長部分には弱いさざ波状の彫刻がある。グロキディウム幼生は三角形で強い鉤状突起を持つ。

分布： 北海道、本州、九州の河川下流域、湖沼に分布する。日本固有亜種。

現況・減少要因： 現況は選定理由参照。減少要因については、河川水の流量の減少、河川改修工事による底質の改変などが考えられる。近年では他のイシガイ科貝類と同様、タナゴ類の産卵床としての採集圧も大きくなっている。

文献： 56. 75. 85. 87. 88.



(木村昭一)

ドブシジミ 二枚貝綱ドブシジミ科
Musculium japonicum (Westerlund, 1883)

三重県：準絶滅危惧 (NT)
旧県：情報不足 (DD)

環境省：—

選定理由： 既知の生息地は 10 地点以下。県内の広い範囲に生息が確認されているが、報告例は少ない。

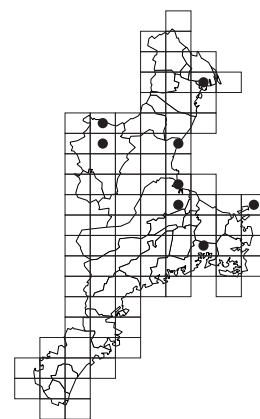
種の概要： 殻長 10 mm で殻は薄い。殻色は淡黄色または白色で、殻表には鈍い光沢がある。流れの緩やかな水路の泥底に生息する。卵胎生。

分布： 全国に分布する。三重県では、木曾岬町から南伊勢町、伊賀市など県内に広く分布する。

現況・減少要因： 農業用水路のパイプライン化や開発等による生息地の改変が進行し、生息を確認できる場所は限られている。

保護対策： 一年を通して水路に水が流れる環境を残し、水質の悪化を防ぐ等、水辺環境を保全する必要がある。水路を改修する際には、三面コンクリート張りではなく、配慮工法を検討する手立てが必要。

文献： 87. 111.



(中野 環)

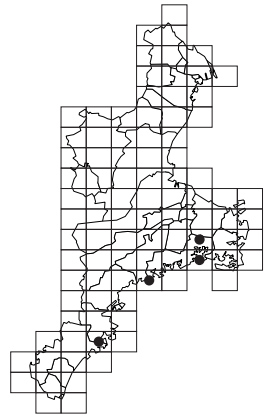
- 哺乳類
- 鳥 類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝 類
- 甲殻類
- その他動物

- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

カノコガイ 腹足綱アマオブネ科 三重県：準絶滅危惧 (NT) 環境省：—
旧県：準絶滅危惧 (NT)

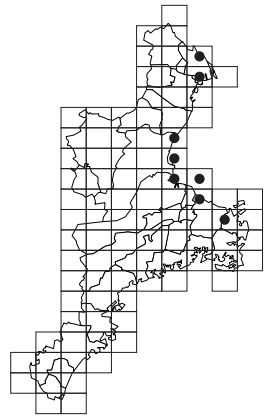
選定理由： 既知の生息地は 10 か所以下。生息域が護岸工事や港湾整備により消失する可能性が高い。
種の概要： 殻高 10 mm, 球形。殻表面は光沢が強く、色彩はバラエティーに富む。
分布： 静岡県から南太平洋に分布し、マングローブ、河口干潟に生息する。県内では南伊勢町南勢から尾鷲市にかけての熊野灘沿岸に分布する。
現況・減少要因： 既知の生息地では健全な個体群が見られるが、10 年前に比べ個体数は減少している。河口域の環境改変、水質悪化により生息環境の悪化が進行している。
保護対策： 河口域の大規模な環境改変を控え、周辺水域の水質を保全する必要がある。
文献： 11, 87, 105, 111, 115, 123.



(中野 環)

ヒロクチカノコ 腹足綱アマオブネ科 三重県：準絶滅危惧 (NT) 環境省：NT
旧県：準絶滅危惧 (NT)

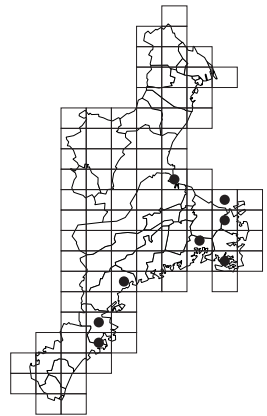
選定理由： 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。1979 年以前に伊勢湾内の 2 か所の分布記録がある。現在伊勢湾沿岸内湾奥のヨシ原塩性湿地が保全された河口域に健全な個体群が確認されている。詳細な分布調査により約 10 地点の生息地が見つかるが、櫛田川河口域のように最近行われた護岸工事によって個体数の減少が確認されている生息地もあり、予断は許されない。
種の概要： 殻長 15 mm, イシマキガイより殻幅が大きく、殻口が広い。蓋は石灰質で半円形。南西諸島の近似種とは別種で、未記載種である可能性もある。
分布： 東京湾から九州、中国大陸に分布する。東京湾、三浦半島では絶滅し、現在三河湾が分布の東限となっている。内湾奥の河口域の塩性湿地内の感潮クリークのような河川水が直接当たらない泥底の朽ち木等に付着することが多い。
現況・減少要因： 現状は選定理由参照。減少要因は河口域の単純化、干潟・塩性湿地の減少などが考えられる。
文献： 2, 8, 48, 56, 68, 71, 85, 87, 115.



(木村昭一)

ミヤコドリ 腹足綱ユキスズメ科 三重県：準絶滅危惧 (NT) 環境省：NT
旧県：準絶滅危惧 (NT)

選定理由： 既知の生息地は 10 か所以上。伊勢湾から熊野灘沿岸にかけての河口域や内湾に広く分布するが、生息環境が護岸工事や埋め立てにより減少している。
種の概要： 殻径 9 mm, 殻色は橙褐色で硫化鉄が付着し黒色を帯びることもある。内湾や河口域の泥地に生息する。
分布： 佐渡島以南の日本海沿岸、関東から九州にかけて分布し、内湾や河口域の泥地にある深く埋もれた石下に生息する。県内では津市から伊勢市二見町にかけての伊勢湾沿岸、志摩半島から熊野灘沿岸にかけて広く分布する。
現況・減少要因： 伊勢湾沿岸の生息地では個体数が少ないが、英虞湾、五ヶ所湾の生息地では健全な個体群がみられる。近年、河口域および内湾の環境改変が盛んに行われており、生息地が失われつつある。
保護対策： 河口域の大規模な環境改変を控え、周辺水域の水質を保全する必要がある。
文献： 46, 62, 71, 87, 105, 111, 112, 115, 123.



(中野 環)

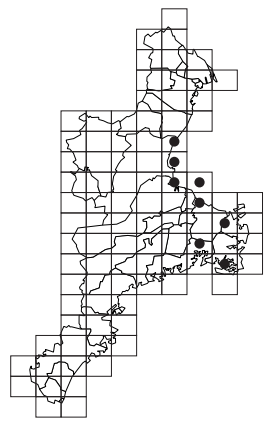
- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物
- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

カワアイ 腹足綱キバウミナ科
Cerithidea (Cerithideopsis) djadjariensis (K.Martin, 1899)

三重県：準絶滅危惧 (NT)
 旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：VU

選定理由： 既知の生息地は10か所以上あるが、個体数は減少している。
種の概要： 殻高50mm，縫合は深く溝状になる。殻色は暗褐色を帯び、殻表は石畳状の彫刻をなす。泥底に生息する。
分布： 関東から東南アジアに分布し、内湾や河口の泥地に生息する。県内では津市河芸町から鳥羽市にかけての伊勢湾沿岸および、英虞湾から五ヶ所湾にかけて分布する。
現況・減少要因： 現在は伊勢湾沿岸、英虞湾、五ヶ所湾に広く分布するが、各生息地で個体数が減少している。河口域や内湾の環境改変、水質悪化の影響が考えられる。
保護対策： 河口域や内湾の大規模な環境改変を控え、周辺水域の水質を保全する必要がある。
文献： 71, 87, 104, 111, 112, 115, 123.



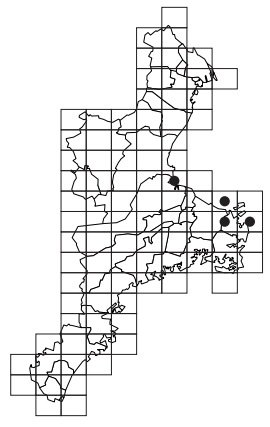
(中野 環)

モロハタマキビ (セトウチヘソカドタマキビ) 腹足綱タマキビ科
Lacuna carinifera (A. Adams, 1853)

三重県：準絶滅危惧 (NT)
 旧県：—

環境省：NT

選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化，特殊生息環境。県下より正式な分布記録はないが，伊勢湾中部から湾口部の干潟から潮下帯のアマモの葉上に付着して生息する。ほぼ1年生の種と考えられ，冬から早春に大型個体が見られる。県下のアマモ場の面積は明らかに減少しているため，本種の生息基盤も脆弱である。またアマモ場があれば必ず本種が生息しているわけではない。
種の概要： 殻長5mm，季節により10mm前後の大型個体も見られる。殻は菱形で，緑褐色，薄質半透明。
分布： 北海道南部から九州北部，朝鮮半島に分布する。近年瀬戸内海では潮間帯の個体群の著しい減少が報告されている。
現況・減少要因： 現状は選定理由参照。減少要因については，干潟の減少，アマモ場の減少，水質汚濁などが考えられる。
文献： 23, 60, 73, 115.



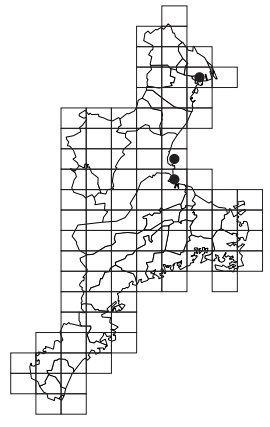
(木村昭一・早瀬善正)

カワグチツボ 腹足綱ワカウラツボ科
Iravadia (Fluviocingula) elegantula (A. Adams, 1861)

三重県：準絶滅危惧 (NT)
 旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：NT

選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に本県から分布記録がない。1993年に県下で初めて伊勢湾沿岸河口域より生息が報告された。1999年さらに2か所の内湾奥の河口域に健全な個体群が確認されているが，その後の分布調査で確認された生息地点数は少ない。
種の概要： 殻長5mmの紡錘形の小型種。ワカウラツボと近似しているが，殻質が薄いこと，狭いが臍孔があること，各層の膨らみが強いことなどから区別できる。また，ワカウラツボは塩性湿地周辺の深く埋もれた転石や朽ち木下に生息するのに対して，本種は内湾奥の泥質干潟の表層にエドガワミズゴマツボと同所的に生息することが多い。
分布： 北海道北部から九州，朝鮮半島，中国大陸，ロシア沿海州に分布する。淡水の影響の強い内湾奥の干潟の泥上や藻類の上に生息することが多い。
現況・減少要因： 現状は選定理由参照。減少要因は河口域の単純化，干潟の減少などが考えられる。
文献： 2, 55, 68, 71, 73, 85, 115.



(木村昭一)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

シラギク 腹足綱イソコハクガイ科
Pseudoliotia pulchella (Dunker, 1860)

三重県：準絶滅危惧 (NT)
旧県：—

環境省：NT

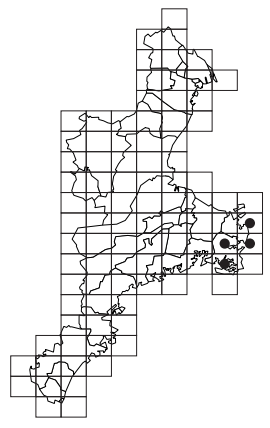
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化，特殊生息環境。1979年以前に伊勢湾から県南部の4か所の内湾域から分布記録がある。伊勢湾から南の内湾域で死殻は広範囲で比較的普通に採集される。しかし，生貝が確認されている内湾域は限られている。的矢湾，英虞湾で健全な個体群が確認されている。

種の概要： 殻径3 mm，円盤状の微小貝で殻質は厚く堅固。殻表には格子目状の強い彫刻があり，生時には褐色から黒色の付着物で被われている。死殻は白色の場合がほとんど。

分布： 三陸海岸から九州，朝鮮半島に分布する。湾奥部の干潟から湾口部の礫底までの底質に深く埋もれた石の下面に生息する。ミヤコドリ，ヒナユキスズメ，ニッポンマメアゲマキと同所的に生息していることもある。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。減少要因については，干潟の減少，上述したような微小生息環境の減少，水質汚濁などが考えられる。

文献： 2, 6, 73, 87, 115.



(木村昭一)

エドガワミズゴマツボ (ウミゴマツボ) 腹足綱ミズゴマツボ科
Stenothyra edogawensis Yokoyama, 1927

三重県：準絶滅危惧 (NT)
旧県：—

環境省：NT

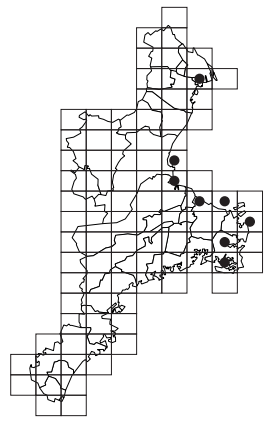
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1993年に県下では初めて伊勢湾の干潟から生息が記録されたが，単純な記録漏れと思われる。伊勢湾沿岸から南部の内湾域の湾奥の干潟の泥底に生息地は少なくないが，湾奥の干潟は護岸工事などで改変されやすく，本種の生息地も減少している。

種の概要： 殻長2 mmでタニシ型の巻貝であるが，殻口が丸く小さく，蓋は石灰質。ミズゴマツボと近似するが，小型で螺塔が高く，殻表に点刻状の列が無いことなどから明確に区別される。本種は内湾奥の河口域の泥干潟表層にカワグチツボと同所的に見られることが多く，ミズゴマツボの生息環境とは大きく異なる。

分布： 現在東北地方から九州に分布する。日本固有種の可能性が高い。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。減少要因については，干潟の減少，水質汚濁などが考えられる。

文献： 2, 55, 68, 71, 73, 85, 115.



(木村昭一)

ヨシダカワザンショウ 腹足綱カワザンショウ科
"Angustassiminea" yoshidayukioi (Kuroda, 1959)

三重県：準絶滅危惧 (NT)
旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：NT

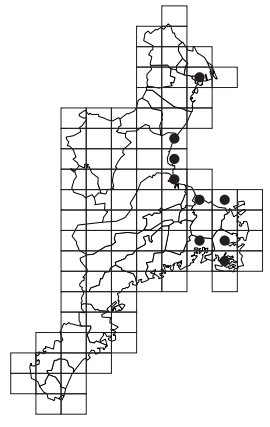
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に分布記録がないが他種と混同していたこと等による単純な記録漏れであると考えられる。1999年には伊勢湾沿岸のヨシ原塩性湿地6か所に生息していることが報告された。現在でも伊勢湾から英虞湾など南部の内湾域の塩性湿地周辺にも分布する。本種は陸上植生まで良く保全された塩性湿地の潮間帯上部から潮上帯に生息する。本種の生息環境は三重県の内湾河口域に生息する本科貝類としては最も陸域に近く，改変を受けやすい。

種の概要： 殻長3 mmの小型種。螺塔は高く，各巻きの膨らみが強い。クイロカワザンショウの幼貝とよく似ているが，本県に産する本種は，殻の色彩はうすく，光沢が強い。臍孔は狭いが明らかに開く点で明確に区別できる。

分布： 北海道南部から九州南部に分布。朝鮮半島よりも記録があるが別種で，日本固有種の可能性が高い。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。減少要因については，塩性湿地・干潟の減少などが考えられる。

文献： 2, 68, 71, 73, 115.



(木村昭一)

ヒナタムシヤドリカワザンショウ 腹足綱カワザンショウ科
Assiminea aff. *parasitologica* Kuroda, 1958

三重県：準絶滅危惧 (NT)
旧県：—

環境省：NT

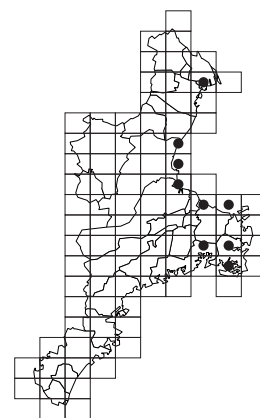
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に県南部の3か所の内湾域から分布記録がある。1999年には伊勢湾沿岸のヨシ原塩性湿地9か所に生息していることが報告された（以上の記録はムシヤドリカワザンショウとして）。現在でも伊勢湾から南部の内湾域の塩性湿地周辺に広く分布するが，特に生息環境の改変が認められないのに本種のみが減少している。また塩性湿地自体が近年の護岸工事で改変されることが多い。

種の概要： 殻長4 mm，殻の色は橙褐色から赤褐色で光沢がある。縫合の下と殻の底部の色が黄色である。最近，従来「ムシヤドリカワザンショウ」とされていた種に2種あり，太平洋側沿岸に分布する種は未記載種である可能性が高いため，ヒナタムシヤドリカワザンショウの和名が提唱された。

分布： 東北地方から九州（太平洋側）に分布。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。減少要因については，塩性湿地・干潟の減少などが考えられる。

文献： 2, 48, 49, 68, 71, 73, 87, 115.



(木村昭一)

ツブカワザンショウ (ヒメカワザンショウ) 腹足綱カワザンショウ科
"Assiminea" estuarina Habe, 1946

三重県：準絶滅危惧 (NT)
旧県：—

環境省：NT

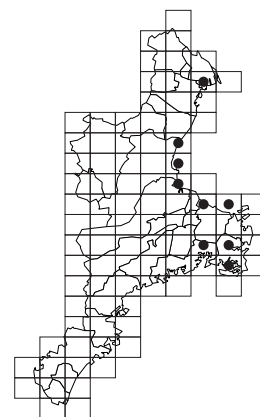
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に分布記録がないが，他種と混同していたこと等による単純な記録漏れであると考えられる。1999年に伊勢湾沿岸のヨシ原塩性湿地周辺に生息していることが報告された。現在でも伊勢湾から南部の内湾域の塩性湿地周辺から転石地に広く分布するが，塩性湿地自体が近年の護岸工事で改変されることが多く，生息地は破壊されやすい。

種の概要： 殻長3 mmで小型。カワザンショウガイの幼貝に似ているが，殻は丸みを持ち，殻質は厚く，狭いが明らかに臍孔が開く。殻の色は黄褐色であるが，2本の褐色帯を持つことが多い。

分布： 東北地方から九州，奄美大島，沖縄本島に分布。奄美大島以南に分布する個体群はヒメカワザンショウとして区別される事もあったが，現在では同種とされる。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。減少要因については，塩性湿地・干潟の減少などが考えられる。

文献： 2, 48, 49, 71, 73, 115.



(木村昭一)

カハタレカワザンショウ 腹足綱カワザンショウ科
"Nanivitreia" sp.

三重県：準絶滅危惧 (NT)
旧県：—

環境省：VU

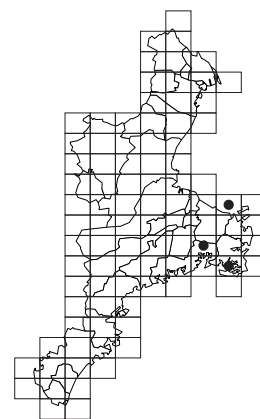
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化，特殊生息環境。1996年に和名が付けられ図示されたが未記載種。2000年に英虞湾の潮間帯から報告されたのが，県下よりの最初の記録である。現在，伊勢湾湾口部，南部の内湾域の塩性湿地，礫地の潮間帯上部から中部の底質に埋もれた石の下に生息している。微小種で特殊な生息環境に生息するためか，生息が確認されている場所は少ない。ウスコミミガイと同所的に見られることも多い。塩性湿地自体が近年の護岸工事で改変されることが多く，生息地は破壊されやすい。

種の概要： 殻径1.2 mmで微小。和名はあるが未記載種で，殻はカワザンショウガイ科貝類としては扁平，薄質でガラス質。臍孔は広い。

分布： 東京湾（小櫃川河口）から九州に分布。現在日本でのみ生息が確認されている。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。減少要因については，塩性湿地・干潟の減少などが考えられる。

文献： 2, 46, 71, 115.



(木村昭一)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類

ヤマトクビキレガイ

腹足綱クビキレガイ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：

Truncatella pfeifferi Martens, 1860

旧県：準絶滅危惧 (NT)

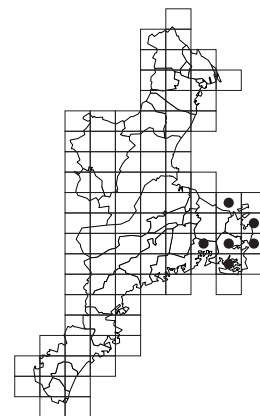
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に伊勢湾沿岸の2か所，南部の内湾の1か所から分布記録がある。内湾域から外洋に面した内湾の転石海岸や塩性湿地周辺の潮間帯上部から潮上帯の打ち上げ物の下や礫の下などに生息する。現在でも伊勢湾湾口部から鳥羽市，英虞湾及び南部の小規模な内湾域に健全な個体群が確認されているが，生息地は少なく，その面積も小さい。生息環境は陸域に近く改変を受けやすい。

種の概要： 殻長7mm。殻は細長い円錐形であるが，殻口が反転し，十分に成長した個体では，殻頂部が欠損し円筒形になる。殻の色は白桃色から橙色で半透明であるが，殻質は厚い。殻上に強い縦肋がある個体からほとんど無い個体まで変異する。

分布： 北海道南部から九州南部，種子島，朝鮮半島に分布。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。減少要因については，上述したような生息環境の減少などが考えられる。

文献： 2, 71, 73, 85, 87, 115.



(木村昭一)

甲殻類
その他動物

ネコガイ

腹足綱タマガイ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：NT

Eunaticina papilla (Gmelin, 1791)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

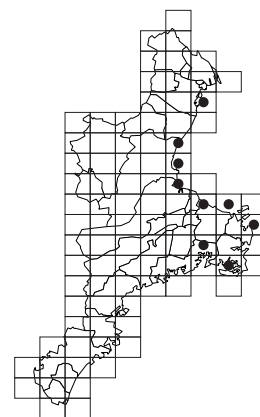
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前にも伊勢湾から湾口部の3か所，県南部3か所の干潟から潮下帯より分布記録がある。現在，伊勢湾沿岸から湾口部の海岸で，死殻は広い範囲で普通に採集されているが，生貝の採集例は特に干潟においては非常に少ない。伊勢湾中部から湾口部，県南部の内湾域の潮下帯では比較的広い範囲で生息が確認されているが，生貝の個体数は少ない。

種の概要： 殻長30mmの卵形で多数の螺肋でおおわれる。蓋は小さく退化的。螺塔は低く，白色の貝殻は黄褐色の薄い殻皮がおおわれている。軟体部は大きく黄白色。

分布： 房総半島から南西諸島，朝鮮半島，中国大陸，インド・太平洋に分布する。現在でも死殻が見られる産地は少なくないが，干潟で生貝が見られる場所は限られている。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。干潟の消失，水質汚濁などが減少要因と考えられる。

文献： 2, 6, 25, 60, 68, 73, 87, 115.



(木村昭一)

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

カスミコダマ

腹足綱タマガイ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：NT

Natica buriasensis Recluz, 1844

旧県：

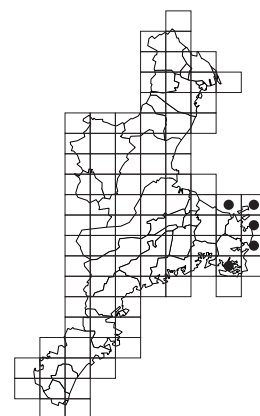
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に伊勢湾湾口部の潮下帯1か所より分布記録がある。現在伊勢湾湾口部から南部の内湾域の潮下帯から生貝が採集されているが個体数は非常に少ない。県下の干潟では近年死殻も稀で，生息は確認されていないが，湾口部から熊野灘の水深30m程度の砂底に個体群が確認されている。

種の概要： 殻長10mm，ほぼ球形の巻貝で殻表は光沢が強い。殻の色彩は淡褐色の地に不規則な褐色斑があり，殻口内唇，臍盤がやや濃い褐色になる個体が多い。蓋は石灰質で弱い螺肋がある。肉食性。底引き網にかかったモミジヒトデ類の胃中より捕食された個体が見いだされることがある。

分布： 相模湾から九州，沖縄本島，インド・太平洋に分布する。内湾の干潟や潮下帯では珍しい種になってしまったが，現在でも外洋の潮下帯に生息域が残されている。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。減少要因については，干潟の減少，水質汚濁などが考えられる。

文献： 87, 115.



(木村昭一)

| |
|---------|
| 哺乳類 |
| 鳥類 |
| 爬虫類 |
| 両生類 |
| 汽水・淡水魚類 |
| 昆虫類 |
| クモ類 |
| 貝類 |
| 甲殻類 |
| その他動物 |
| EX |
| EW |
| CR |
| EN |
| VU |
| NT |
| DD |

オダマキ 腹足綱イトカケガイ科
Depressiscula aurita (Sowerby II, 1844)

三重県：準絶滅危惧 (NT)
旧県：—

環境省：NT

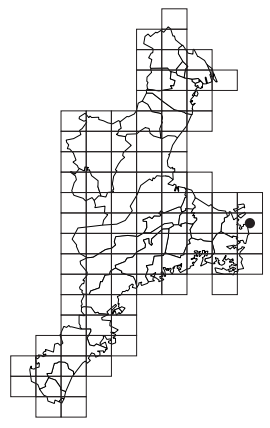
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に伊勢湾2か所，県南部の内湾域1か所の潮下帯より分布記録がある。現在，伊勢湾中部から湾口部，南部の内湾域の広い範囲で潮下帯から新鮮な死殻が採集されているが個体数は少ない。湾口部でかろうじて生貝が採集されているが稀産。1970年代には伊勢湾に面した海岸で死殻が多数打ち上げられていたが，干潟では近年死殻も稀である。

種の概要： 殻長20 mm，殻は細長く薄質，淡色地に3本の濃褐色帯をめぐらす。蓋は革質で黒褐色。

分布： 房総半島から九州，西太平洋分布する。近年でも三浦半島，徳島県東部，九州北部には多くの新鮮な死殻が打ち上げられる海岸もあるが，伊勢湾では潮下帯でも非常に個体数は少ない。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。減少要因については，干潟の減少，水質汚濁などが考えられる。

文献： 2, 57, 87, 115.



(木村昭一)

クレハガイ 腹足綱イトカケガイ科
Papyriscula clementia (Grateloup, 1840)

三重県：準絶滅危惧 (NT)
旧県：—

環境省：NT

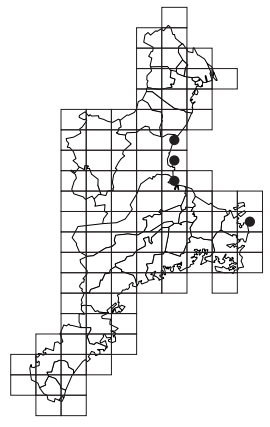
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に伊勢湾2か所，県南部の内湾域1か所の干潟から潮下帯より分布記録がある。現在でも伊勢湾沿岸の河口域や湾奥の干潟で生息が確認されているが，生息場所は少なくその面積も小さい。またどの生息地でも生貝の個体数は非常に少ない。

種の概要： 殻長20 mm，殻はオダマキにもやや近似するが，螺管が太い。淡色地に3本の濃褐色帯をめぐらす。蓋は革質で黒褐色。

分布： 房総半島から九州，西太平洋に分布する。イトカケガイ科貝類としては最も内湾奥の河口域の干潟に生息する。近似種のセキモリと同所的に生息していることもあるが，本種の方が内湾寄りに生息域がある。アマモ場周辺の泥質干潟から潮下帯にも生息するが，干潟を主生息域とする。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。減少要因については，干潟の減少，水質汚濁などが考えられる。

文献： 68, 73, 87, 115.



(木村昭一)

セキモリ 腹足綱イトカケガイ科
Papyriscula yokoyamai (Suzuki & Ichikawa, 1936)

三重県：準絶滅危惧 (NT)
旧県：—

環境省：NT

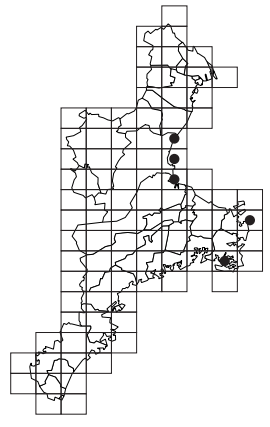
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に伊勢湾3か所，県南部の内湾域2か所の潮下帯より分布記録がある。現在でも伊勢湾から湾口部，南部の内湾域の干潟から潮下帯の比較的広い範囲で死殻は確認されているが，生貝の個体数は少ない。

種の概要： 殻長15 mm，殻はクレハガイに近似するが，やや小型で，灰白色地に2本の濃褐色帯をめぐらし，螺肋も強い。蓋は革質で黒褐色。

分布： 房総半島から九州，西太平洋に分布する。内湾砂泥質干潟から砂礫海岸に生息する。クレハガイと同所的に生息する場合も多いが，より外洋よりに生息地が広がり，垂直分布の幅もやや広い。また底質の選択も本種の方が砂泥底から礫混じりの砂底まで範囲が広い。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。減少要因については，干潟の減少，水質汚濁などが考えられる。

文献： 68, 73, 87, 115.



(木村昭一)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類

ムシロガイ

腹足綱オリレヨフバイ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：NT

Niotha livescens (Philippi, 1849)

旧県：—

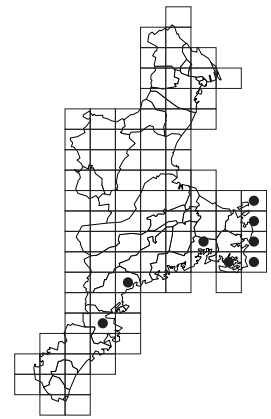
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に伊勢湾2か所，県南部の内湾域4か所の潮下帯より分布記録がある。現在伊勢湾中部では古い死殻が見られるが，生息は確認できない。伊勢湾湾口部，南部の内湾域の干潟から潮下帯の比較的広い範囲で生貝は確認されている。生息域全域で生貝が非常に少なかった時代と比べると回復傾向が認められるが，干潟での生貝の確認個体数は依然として少ない。

種の概要： 殻長20 mm，卵形で，殻表には多数のイボ列が並び，殻口は肥厚し白色の滑層が発達する。腐肉食性。

分布： 東北地方から九州，朝鮮半島，中国大陸，フィリピン，インド・太平洋に分布するが，奄美大島の個体群は同種かどうか検討を要する。内湾から湾口部の干潟から潮下帯の砂泥底に生息する。腐肉食性。

現況・減少要因： 現況は選定理由参照。船体塗料に含まれる有機スズによるインボセックスが減少要因である可能性がある。

文献： 68. 73. 87. 115.



(木村昭一)

甲殻類
その他動物

テングニシ

腹足綱テングニシ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：NT

Pugilina (Hemifusus) tuba (Gmelin, 1791)

旧県：—

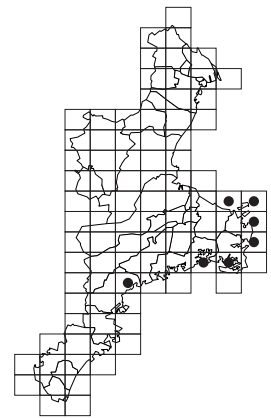
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に伊勢湾2か所，県南部の内湾域4か所の潮下帯より分布記録がある。現在伊勢湾中部の特に干潟では生貝は稀産。伊勢湾湾口部，南部の内湾域の干潟から潮下帯の比較的広い範囲で生貝は確認されているが，食用として大量に採集されていた時代から比べると個体数は激減している。生浦湾，英虞湾などの潮下帯では健全な個体群が認められる海域でも干潟での確認個体数は依然として少ない。

種の概要： 殻長150 mm，紡錘形で殻口は大きく，殻は褐色の厚い殻皮で被われる。卵嚢は「うみほうずぎ」と呼ばれる。

分布： 房総半島から九州，朝鮮半島，中国大陸，インド・太平洋に分布するが，外洋や有明海にはオニニシと言われる。角状突起が顕著で，殻の厚い個体群が生息し，同種かどうか検討を要する。

現況・減少要因： 現況は選定理由参照。船体塗料に含まれる有機スズによるインボセックスが減少要因と考えられている。

文献： 28. 73. 87. 115.



(木村昭一)

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

バイ

腹足綱バイ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：NT

Babylonia japonica (Reeve, 1843)

旧県：—

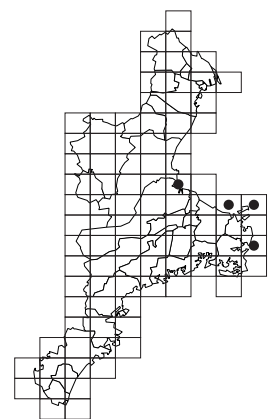
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に伊勢湾2か所，県南部の内湾域3か所の潮下帯より分布記録がある。現在伊勢湾の干潟では生貝は確認されていない。伊勢湾中部から湾口部の潮下帯で生貝が確認され，一部食用として採集されるまで回復傾向が認められるが，大量に採集されていた時代から比べると個体数は依然として少ない。

種の概要： 殻長80 mm，太い紡錘形で殻口はやや大きく，殻表には，薄茶色の地色に褐色の斑点がちりばめられていてさらに褐色の厚い殻皮で被われる。腐肉食性で，その習性を利用して簞漁で漁獲される。

分布： 北海道南部から九州，朝鮮半島に分布する。内湾の干潟から湾口部，外洋の潮下帯の砂泥底まで分布域は広いが，内湾域での個体数の減少が著しい。

現況・減少要因： 現況は選定理由参照。船体塗料に含まれる有機スズによるインボセックスが減少要因と考えられている。

文献： 28. 87. 115.



(木村昭一)

クリイロマンジ

腹足綱フデシヤジク科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：NT

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

Philbertia (Pseudodaphnella) leuckarti (Dunker, 1860)

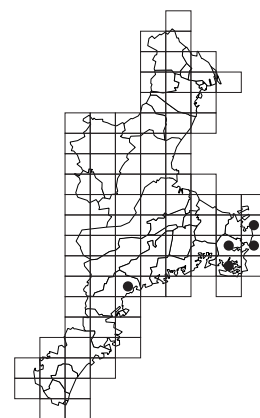
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に伊勢湾1か所，県南部の内湾域の3か所の潮下帯から分布記録がある。現在，伊勢湾中部から南部の内湾域の広い範囲で死殻は見つかるが，生貝が確認されている場所は限られている。生貝は潮通しの良い砂礫質干潟周辺の低潮線から潮下帯の石の下面で見つかることが多い。

種の概要： 殻長8mm，細長い紡錘形で螺塔はやや高く，殻表には格子目状の強い彫刻がある。本種に代表される内湾に生息域があるイモガイ上科の小型種は減少が著しい。

分布： 東北地方から九州，朝鮮半島に分布する。死殻は広い範囲で確認されているが，近年生貝が確認されているのは，三浦半島，伊勢湾，瀬戸内海西部，九州西部など限られている。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。減少要因については，干潟の減少，水質汚濁などが考えられる。

文献： 87, 115.



(木村昭一)

カミスジカイコガイダマシ

腹足綱スイフガイ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：VU

Cylichnatsys angustus (Gould, 1859)

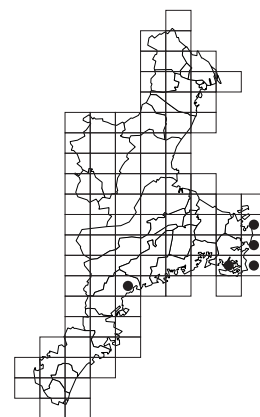
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に伊勢湾1か所，県南部の内湾域の1か所の潮下帯から分布記録がある。現在，伊勢湾中部から南部の内湾域の広い範囲で死殻は見つかるが，生貝が確認されているのは生浦湾，英虞湾などの数か所に限られている。三重県内の生息地では比較的個体数が多い。アマモ場周辺の砂泥質干潟から潮下帯に生息する。

種の概要： 殻長8mm，やや長い卵形で，殻は薄く白色で半透明。殻表には全面に細かい螺溝をめぐらせる。生時には殻は軟体部で被われる。

分布： 北海道南部から九州，朝鮮半島，中国大陸に分布する。浜名湖，三重県内の生息地などアマモ場の良く保全された干潟で生息が確認され，分布域全般的に個体数は少ない。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。減少要因については，干潟の減少，水質汚濁などが考えられる。

文献： 87, 115.



(木村昭一)

ヌカルミクチキレ

腹足綱トウガタガイ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：NT

"*Sayella*" sp.

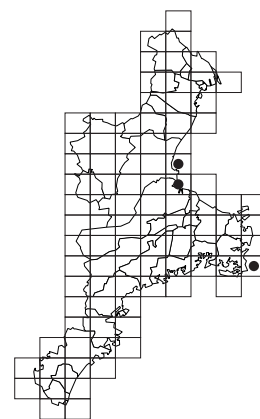
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1996年に和名が付けられ図示されたが未記載種。現在，伊勢湾沿岸の河口域や湾奥の干潟，県南部の内湾域の河口域で生息が確認されているが，生息場所は少なくその面積も小さい。伊勢湾中部の河口域ではサザナミツボ，エドガワミズゴマツボと共に比較的多くの死殻が打ち上がることもある。しかし，どの生息地でも生貝の個体数は少ない。

種の概要： 殻長4mm，殻は長い紡錘形で，鉛色半透明で光沢がある。軟体部は白色。多毛類に寄生すると考えられるが，詳細は不明。

分布： 東北地方から九州に分布し，現在のところ日本でのみ生息が確認されている。最も内湾奥の河口域の干潟の中潮線から低潮線の底質表面に生息するが，攪乱された干潟域では生息が認められず，生息地は分断される。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。減少要因については，干潟の減少，水質汚濁などが考えられる。

文献： 2, 49, 73, 115.



(木村昭一)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

キヌタレガイ 二枚貝綱キヌタレガイ科 三重県：準絶滅危惧 (NT) 環境省：NT
旧県：—

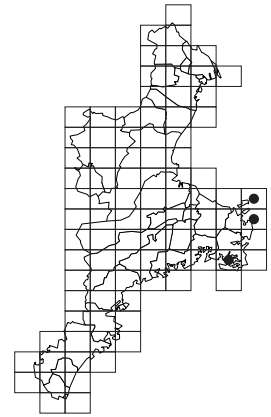
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に本県から分布記録がないが，単純な記録漏れと思われる。現在伊勢湾中部で稀に死殻が打ち上げられるが，生息が確認できない。現在でも伊勢湾湾口部より南部の内湾域の潮下帯から生貝が採集されているが，個体数は多くない。アサヒキヌタレガイに比較すると内湾域に分布域がある。現在県下の干潟で生息が確認される場所はない。

種の概要： 殻長 15 mm，厚い殻皮に被われた殻は非常に薄く，石灰化が弱く，殻は非常に薄く軽い。殻はよく膨らみ円筒形。アサヒキヌタレガイよりさらに殻は薄く軽い。

分布： 北海道から九州に分布する。日本のみで生息が確認されている。内湾のアマモ場の泥中に生息しているが，干潟で生貝が採集されることは少ない。主な分布域は潮下帯にある。浜名湖や瀬戸内海では潮間帯のアマモ場で生貝が採集されている。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。減少要因については，干潟・アマモ場の減少，水質汚濁などが考えられる。

文献： 2, 6, 60, 73, 87, 115.



(木村昭一)

ズベタイラギ 二枚貝綱ハボウキ科 三重県：準絶滅危惧 (NT) 環境省：NT
旧県：—

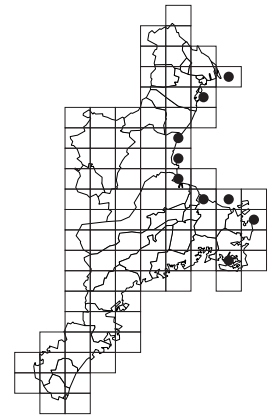
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前にタイラギ（ズベタイラギとタイラギをあわせた記録）として伊勢湾2か所，南部の内湾域2か所の潮下帯から分布記録がある。現在伊勢湾中部で新鮮な死殻や生貝が打ち上げられたり，潮下帯から生貝が採集されているが，個体数は著しく減少している。干潟で生貝が確認されることも稀である。

種の概要： 殻長 300 mm，殻は長い三角形で，多数の低い肋が走るが，タイラギのような鱗片はなく，殻表は平滑。従来"タイラギの無鱗型"と呼ばれていた種。

分布： 本州から九州，朝鮮半島，中国大陸に分布する。内湾の干潟から潮下帯の砂泥底に殻の後縁の部分を出した状態で大部分が埋もれて生息する。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。干潟の消失，水質汚濁などが減少要因と考えられる。また本種は重要な食用種なので，漁獲圧による資源量の減少も報告されている。

文献： 58, 73, 87, 115.



(木村昭一)

タイラギ (リシケタイラギ) 二枚貝綱ハボウキ科 三重県：準絶滅危惧 (NT) 環境省：NT
旧県：—

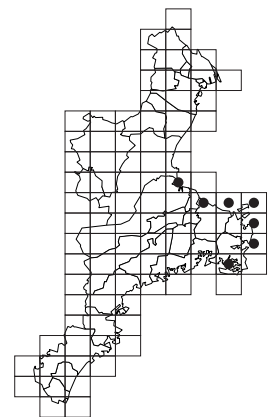
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前にタイラギ（ズベタイラギとタイラギをあわせた記録）として伊勢湾2か所，南部の内湾域2か所の潮下帯から分布記録がある。現在伊勢湾中部から湾口部で新鮮な死殻や生貝が打ち上げられたり，潮下帯から生貝が採集されているが，個体数は著しく減少している。干潟で生貝が確認されることも稀である。

種の概要： 殻長 250 mm，殻は長い三角形で殻表には多数の肋が走り，肋の上に棘状の鱗片が密集する。従来"タイラギの有鱗型"と呼ばれていた種。

分布： 本州から九州に分布する。海外での分布については不詳。ズベタイラギより外洋よりの砂質分の多い干潟から潮下帯の底質に殻の後縁の部分を出した状態で埋もれて生息する。湾口部から外洋よりの潮下帯では本種のみが生息する。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。干潟の消失，水質汚濁などが減少要因と考えられる。また本種は重要な食用種なので，漁獲圧による資源量の減少も報告されている。

文献： 58, 73, 87, 115.



(木村昭一)

- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物
- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

ハボウキ 二枚貝綱ハボウキ科
Pinna attenuate Reeve, 1858

三重県：準絶滅危惧 (NT)
旧県：—

環境省：NT

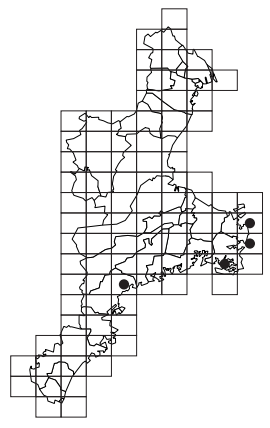
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に南部の内湾域4か所の干潟から潮下帯で分布記録がある。2009年に伊勢湾中部から死殻の採集記録はあるが，現在伊勢湾内では生息が確認できない。鳥羽市の南部の入り江や，英虞湾などでは潮下帯で生貝が採集されているが，個体数は少ない。干潟で生貝が確認されることも稀である。

種の概要： 殻長400 mm。殻は細長い三角形で殻表には約10本の肋が走るが，肋の上に棘状の鱗片は無い。

分布： 房総半島から九州に分布する。朝鮮半島にも分布しているようである。外洋に面した潮通しのよい干潟から潮下帯の砂泥底に生息し，アマモ場周辺にも多く生息する。底質から殻の後縁を出して埋没している。三河湾，伊勢湾ではほぼ絶滅状態で，現在国内で健全な個体群が確認されている海域は浜名湖，九州西岸の内湾域など非常に限られている。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。干潟の消失，水質汚濁などが減少要因と考えられる。

文献： 2. 73. 76. 77. 87. 115.



(木村昭一)

オオモモノハナ 二枚貝綱ニッコウガイ科
Macoma (Macoma) praetexta (Martens, 1865)

三重県：準絶滅危惧 (NT)
旧県：—

環境省：NT

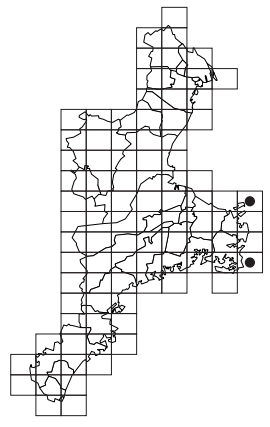
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に伊勢湾内2か所，南部の内湾域1か所の潮下帯で分布記録がある。2009年に伊勢湾中部から死殻の採集記録はあるが，現在伊勢湾内では生息が確認できない。伊勢湾湾口部の潮下帯の広い範囲で新鮮な死殻が採集されているが，個体数は少ない。本種は外洋域にも生息域があるが，内湾域での生息状況は危機的な状況である。

種の概要： 殻長40 mm。殻は楕円形で膨らみは非常に弱く扁平。後端はとがる。殻の色彩は薄紅色から白色まで変異がある。

分布： 北海道南部から九州，朝鮮半島，中国大陸，台湾に分布する。潮下帯に主分布域があるが，特に内湾の分布域で個体数が減少している。現在，浜名湖ではアマモ場周辺の干潟で生貝が少数確認できるが，そのような場所は非常に少ない。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。干潟の消失，水質汚濁などが減少要因と考えられる。

文献： 2. 73. 76. 77. 87. 115.



(木村昭一)

トガリユウシオガイ 二枚貝綱ニッコウガイ科
Moerella culter (Hanley, 1844)

三重県：準絶滅危惧 (NT)
旧県：—

環境省：NT

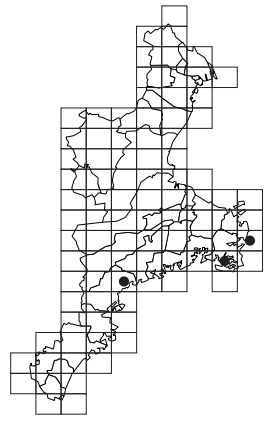
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。本種はユウシオガイと混同されていたが，2007年に本県より正式に分布が記録された。現在英虞湾から南部の内湾域のアマモ場周辺の泥質干潟から潮下帯に健全な個体群が確認されているが，生息地は少なく分断されている。鳥羽市南部の干潟でも本種の生息が確認されたが，現在本種の分布北限である。

種の概要： 殻長20 mm。ユウシオガイと近似しているが，殻はやや小型で，膨らみが強く，色彩が橙色系（稀に白色）だけであること，殻頂部の成長脈が粗く強いことなどから区別できる。

分布： 紀伊半島から南西諸島，中国大陸，インド・太平洋に分布する。ユウシオガイと同所的に分布する場合，本種の方が低い場所に生息する。現在，英虞湾をはじめ生息地では比較的個体数が多いが，生息地点は少ない。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。干潟の消失，水質汚濁などが減少要因と考えられる。

文献： 62. 64. 65. 66. 72. 73. 76. 115.



(木村昭一)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

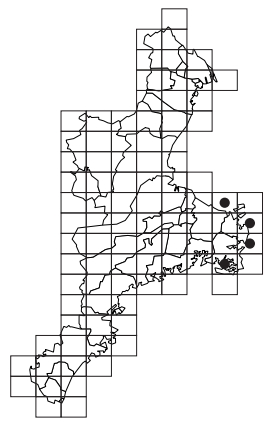
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ウズザクラ 二枚貝綱ニッコウガイ科
Nitidotellina minuta (Lischke, 1872)

三重県：準絶滅危惧 (NT)
旧県：

環境省：NT

選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に伊勢湾1か所の潮下帯から分布記録がある。現在伊勢湾中部から湾口部の潮下帯で生貝が採集されるが個体数は少ない。英虞湾から県南部の内湾域に見られるアマモ場周辺の泥質干潟から潮下帯より生貝が採集されているが，生息地，個体数共に少ない。
種の概要： 殻長10 mm，前後に細長い卵形で膨らみは弱い。殻頂から後端にかけて薄紅色の色帯を持つ個体が多い。近年分子生物学手法による解析から複数種が含まれている可能性が示唆されているが，殻の外部形態より1種とした。
分布： 北海道南部から九州，朝鮮半島，中国大陸に分布する。国内では比較的広い範囲で生息が報告されているが，生息地は少なく，分断されている。また浜名湖の錨瀬干潟などの一部の生息地を除いて概して個体数は少ない。
現況・減少要因： 現状は選定理由参照。干潟の消失，水質汚濁などが減少要因と考えられる。
文献： 25. 60. 73. 87. 115.



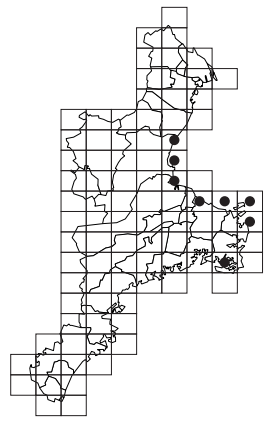
(木村昭一)

サクラガイ 二枚貝綱ニッコウガイ科
Nitidotellina hokkaidoensis (Habe, 1961)

三重県：準絶滅危惧 (NT)
旧県：

環境省：NT

選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に伊勢湾内3か所，南部の内湾域5か所の干潟から潮下帯で分布記録がある。現在でも伊勢湾沿岸各地で死殻が少数打ち上げられている場所はあるが，1980年前後と比較して生息地，個体数共に著しく減少した。また干潟で生貝が採集できる場所は非常に少ない。伊勢湾湾口部から県南部の内湾域の干潟から潮下帯では広い範囲で生貝が採集されているが，個体数は少ない。
種の概要： 殻長20 mmの長卵形。殻の膨らみは非常に弱く，殻は桃色で大型個体では白桃色の個体もあるが，変異は少ない。
分布： 北海道南部から九州，朝鮮半島，中国大陸に分布する。現在潮下帯のアマモ場周辺の砂泥底に主生息域があり，干潟では生息地は多くない。浜名湖のように潮通しのよいアマモ場周辺の干潟では多産する生息地もある。
現況・減少要因： 現状は選定理由参照。干潟の消失，水質汚濁などが減少要因と考えられる。
文献： 2. 25. 60. 68. 73. 87. 115.



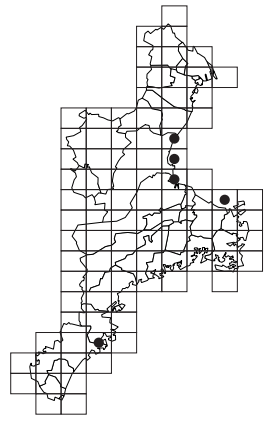
(木村昭一)

フジノハナガイ 二枚貝綱フジノハナガイ科
Chion semigranosus (Dunker, 1877)

三重県：準絶滅危惧 (NT)
旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：NT

選定理由： 既知の生息地は5か所程度。一時生息を確認できなかったが，最近，伊勢湾沿岸で再発見された。
種の概要： 殻長15 mmで，前端が長い三角形。殻色はバラエティーに富み，白色，橙黄色，紫を帯びる個体もある。内面は紫色。潮位の変化により砂浜を上下運動する。
分布： 房総半島から九州，台湾，シヤム湾に分布し，砂泥質や砂質の干潟に生息する。県内では津市河芸町から伊勢市二見町にかけての伊勢湾沿岸，熊野灘沿岸に分布する。
現況・減少要因： 20年あまり生息情報のとだえた期間があったが，近年，各地で生息が確認されている。減少要因としては水環境の悪化が考えられる。
保護対策： 干潟の改変を控え，周辺水域の水質を保全する必要がある。
文献： 61. 87. 106. 111.



(中野 環)

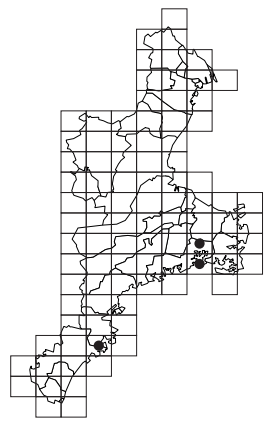
| |
|---------|
| 哺乳類 |
| 鳥類 |
| 爬虫類 |
| 両生類 |
| 汽水・淡水魚類 |
| 昆虫類 |
| クモ類 |
| 貝類 |
| 甲殻類 |
| その他動物 |
| EX |
| EW |
| CR |
| EN |
| VU |
| NT |
| DD |

ハザクラ 二枚貝綱シオサザナミ科
Gari (Psammotaena) minor (Deshayes, 1855)

三重県：準絶滅危惧 (NT)
 旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：NT

選定理由： 既知の生息地は5か所以下。いずれの生息地面積も狭く、開発圧が強い。
種の概要： 殻長30 mm程度、楕円形で殻は薄い。殻表には不規則な放射彩条があり、黄褐色の殻皮で被われている。
分布： 房総半島から熱帯西太平洋に分布し、内湾河口域の砂泥干潟に生息する。県内では五ヶ所湾から熊野灘沿岸にかけて分布する。
現況・減少要因： 現在、生息が確認できるのは五ヶ所湾および熊野灘沿岸のみ。減少要因としては、河川改修や埋め立てによる河口域干潟の消失や水質悪化の影響が考えられる。
保護対策： 河口域の干潟や内湾的環境の改変を控え、周辺水域の水質を保全する必要がある。
文献： 87, 105, 111, 115, 123.



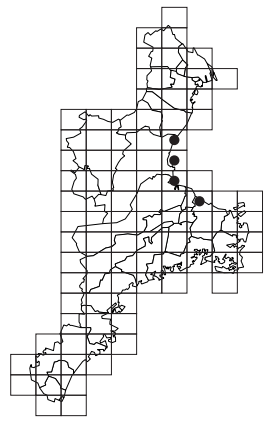
(中野 環)

オチバ (コムラサキガイ) 二枚貝綱シオサザナミ科
Gari (Psammotaena) virescens (Deshayes, 1855)

三重県：準絶滅危惧 (NT)
 旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：NT

選定理由： 既知の生息地は10か所以下。1980年代にはほとんどの生息地で姿を消したが、1990年代後半より生きた個体を再確認できるようになった。
種の概要： 殻長40 mm、殻幅20 mm。長方形で殻は黄褐色の殻皮で被われる。
分布： 東京湾、能登半島からインド洋の内湾に分布する。県内では伊勢湾に分布する。
現況・減少要因： 津市の生息地からは一時姿を消したが、1999年頃から再び生貝が現れた。近年は伊勢市から鈴鹿市にかけて生息する。減少要因は明らかではないが、河口域の環境改変、水質悪化の影響が考えられる。
保護対策： 河口域の大規模な環境改変を控え、周辺水域の水質を保全する必要がある。
文献： 61, 87, 103, 109, 111, 115, 123.



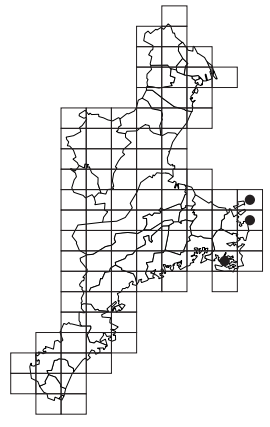
(中野 環)

キヌタアゲマキ 二枚貝綱キヌタアゲマキ科
Solecortus divaricatus (Lischke, 1869)

三重県：準絶滅危惧 (NT)
 旧県：—

環境省：NT

選定理由： 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。1979年以前に伊勢湾内2か所、南部の内湾域2か所の潮下帯で分布記録がある。現在でも伊勢湾湾口部から熊野灘にかけての潮下帯で生貝は採集されているが個体数は少ない。干潟で生貝が採集できるところはほとんど残されていない。
種の概要： 殻長70 mm。前後に長い長方形で前・後端は大きく開く。殻はやや厚く、殻表には鱗状の彫刻がある。後背縁には灰色の石灰が沈着する。
分布： 房総半島から九州、朝鮮半島、中国大陸に分布する。外洋に面した内湾の干潟、アマモ場の低潮線から潮下帯の砂泥底に生息する。干潟で本種を観察できる海域は少ない。浜名湖、瀬戸内海、九州西岸では干潟でも生きた個体を観察することができるが、概して個体数は少ない。
現況・減少要因： 現状は選定理由参照。干潟の消失、水質汚濁などが減少要因と考えられる。
文献： 73, 87, 115.



(木村昭一)

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EW

EW

CR

EN

VU

NT

DD

タガソデモドキ

二枚貝綱フナガタガイ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：NT

Trapezium (Neotrapezium) sublaevigatum (Lamarck, 1819)

旧県：—

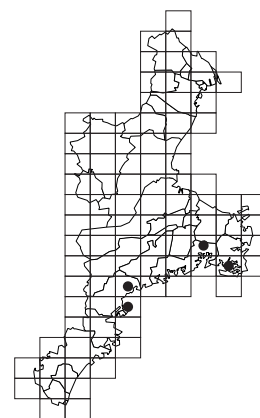
選定理由： 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。1979年以前に英虞湾の賢島1か所から分布記録がある。現在、英虞湾、五ヶ所湾、南部の内湾域の外洋水の影響のある砂泥質干潟付近の礫地や転石地の石の裏面に付着することが多いが、生息地は少なく分断されている。

種の概要： 殻長30 mmのやや長い楕円形で、殻の膨らみは弱く、殻質は厚い。ウネナシトマヤガイと近似しているが、表面の横筋は細く弱く、後縁部は広く丸みが強い。

分布： 房総半島から九州、南西諸島、中国大陸、台湾、香港、インド・太平洋に分布する。近似種のウネナシトマヤガイが内湾よりの河口域に生息するのに対して、本種は外洋よりに分布域がある。南西諸島では比較的内湾河口域に生息地が多いが、九州以北は生息地、個体数共に少ない。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。干潟の消失、水質汚濁などが減少要因と考えられる。

文献： 66. 73. 87. 115.



(木村昭一)

カモジガイ

二枚貝綱バカガイ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：NT

Lutraria arcuata Reeve, 1854

旧県：—

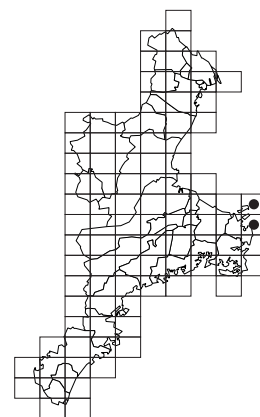
選定理由： 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。1979年以前に南部の内湾域から外洋にかけての4か所の潮下帯で分布記録がある。現在でも伊勢湾湾口部、英虞湾の潮下帯で生貝は採集されているが、個体数は少ない。外洋の潮下帯には生息域がある。現在、県下の干潟で生貝が採集できる場所は知られていない。内湾域の個体群は著しく減少している。

種の概要： 殻長120 mm。前後に長い方形で背側縁は背側にそり、後端はやや大きく開く。殻はやや薄く脆い。殻表は茶褐色の殻皮でおおわれる。

分布： 房総半島から南西諸島、中国大陸、インド・太平洋に分布する。外洋に面した内湾の干潟、アマモ場の低潮線から潮下帯の砂泥底に生息する。南西諸島では干潟で本種を観察できる海域も比較的多いが、九州以北では潮下帯に主分布域がある。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。干潟の消失、水質汚濁などが減少要因と考えられる。

文献： 87. 115.



(木村昭一)

オオトリガイ

二枚貝綱バカガイ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：NT

Lutraria maxima Jonas, 1844

旧県：—

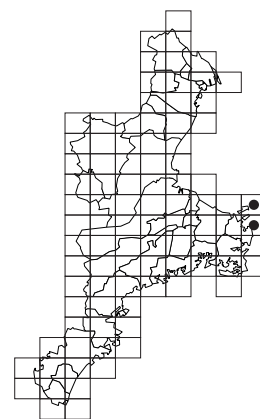
選定理由： 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。1979年以前に南部の内湾域から外洋にかけての3か所の潮下帯で分布記録がある。現在でも伊勢湾湾口部の潮下帯で生貝は採集されているが個体数は少ない。外洋の潮下帯には生息域がある。現在、県下の干潟で生貝が採集できる場所は非常に少ない。内湾域の個体群は著しく減少している。

種の概要： 殻長130 mm。前後に楕円形でカモジガイに近似するが背側縁はそらない。後端はやや大きく開く。殻はやや薄く脆い。殻表は緑褐色の殻皮でおおわれる。

分布： 銚子市から九州、台湾、ベトナムに分布する。外洋に面した内湾の干潟、アマモ場の低潮線から潮下帯の砂泥底に生息する。浜名湖のように干潟で本種を観察できる海域は少ない。近年三河湾でも数個体が干潟より採集された。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。干潟の消失、水質汚濁などが減少要因と考えられる。

文献： 87. 115.



(木村昭一)

ミルクイ

二枚貝綱バカガイ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：VU

Tresus keenae (Kuroda & Habe, 1950)

旧県：—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

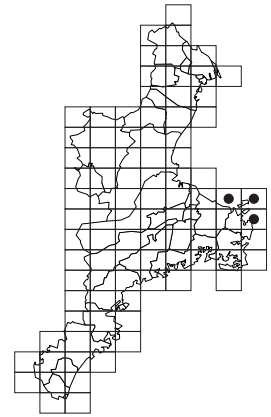
選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前に伊勢湾中部から湾口部にかけての5か所の潮下帯から分布記録がある。1980年代には伊勢湾口部から鳥羽湾などで食用種として大量に水揚げされていたが，現在資源量は減少している。また現在県下の干潟で本種の生息は確認できない。

種の概要： 殻長150 mmで楕円形の大型食用二枚貝。後端は大きく開く。後端から太く長い水管が出る。市場では「ミルクイ」と呼ばれ，水管が高級な寿司種となる。

分布： 北海道南部から九州の内湾から湾口部の低潮線から潮下帯に生息する。東京湾，三河湾，伊勢湾，瀬戸内海で現在も漁獲されているが，資源量は著しく低下し，代用品としてナミガイが「シロミルクイ」と呼ばれて大量に採取されている。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。干潟の消失，水質汚濁などが減少要因と考えられる。また本種は市場価値の高い食用種なので，漁獲圧による資源量の減少も報告されている。

文献： 2, 87, 115.



(木村昭一)

シオヤガイ

二枚貝綱マルスダレガイ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：NT

Anomalodiscus squamosus (Linnaeus, 1758)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

選定理由： 既知の生息地は10か所以下であるが，各生息地での個体数は少ない。しかし，水質汚染，埋め立てや護岸工事で生息域が減少している。

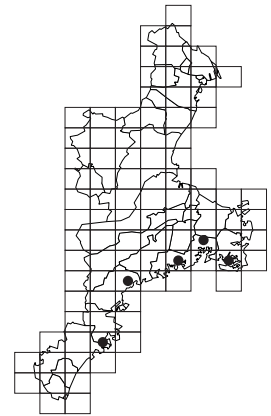
種の概要： 殻長30 mm，殻は厚く前端は丸く後端は細くなる。殻色は黄白色で，殻表には荒い布目状の彫刻がみられる。

分布： 三浦半島以南の内湾的環境の泥干潟に生息する。県内では英虞湾，五ヶ所湾から熊野灘沿岸に分布する。

現況・減少要因： 英虞湾，五ヶ所湾では比較的多く生息するが，10年前に比べると個体数は少ない。近年，富栄養化の進行とともに，埋立や護岸工事の影響で生息地が失われつつある。

保護対策： 内湾の潮間帯の環境改変を控え，周辺水域の水質を保全する必要がある。

文献： 46, 87, 111, 112, 115, 123.



(中野 環)

シラオガイ

二枚貝綱マルスダレガイ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：NT

Circe undatina (Lamarck, 1818)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

選定理由： 個体群・個体数の減少，生息条件の悪化。1979年以前には英虞湾1か所，県南部の内湾域2か所の潮間帯より分布記録がある。現在では英虞湾の潮間帯から潮下帯で健全な個体群が確認されていて多産する。しかし，それ以外の海域では死殻すら稀である。英虞湾は現在，本種の東・北限分布地である。

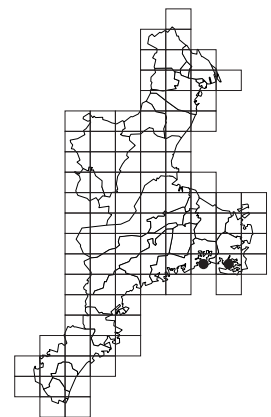
種の概要： 殻長40 mm。ほぼ円形で，殻質はやや厚く膨らみは弱い。黄褐色の地色に褐色の班紋がある個体が多いが，濃褐色の個体も出現する。

分布： 房総半島から九州，中国大陸南部からシンガポールに分布する。潮通しのよい内湾や湾口部の干潟の干潮線から潮下帯の砂底，砂泥礫底，アマモ場に生息する。現在英虞湾が本種の北・東限分布地である。

現況・減少要因： 現況は選定理由参照。干潟の消失，水質汚濁などが減少要因と考えられる。

保護対策： 英虞湾の生息地については，三重大学生物資源学海洋生態学研究室による年間2回以上のモニタリング調査が行われている。

文献： 47, 72, 73, 87, 115.



(木村昭一・木村妙子)

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EW

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ハマグリ

二枚貝綱マルスダレガイ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：VU

Meretrix lusoria (Röding, 1798)

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

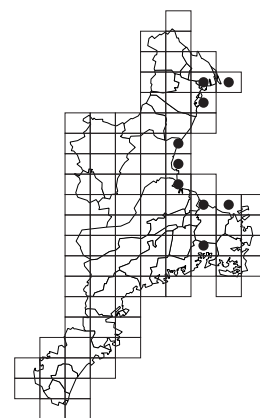
選定理由： 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。1979年以前に伊勢湾内の6か所の潮間帯から潮下帯より分布記録がある。著名な食用種であるが、1980年代から著しい減少が報告された。幸い近年、伊勢湾内のモニタリングをしている干潟域で、明らかな個体数の増加が認められ、さらには五ヶ所湾の潮間帯など生息地も増加した。従って前回より1ランク下げる評価がされた。回復傾向は明らかであるが、1960年代の生息状況にはほど遠く、楽観はできない。

種の概要： 殻長85 mm。殻は丸みを帯びた三角形で、殻はよく膨れるが薄い。殻の色彩は個体変異が多く、模様も変異する。チョウセンハマグリ（在来種）は殻が厚く、シナハマグリ（外国産）は殻全体に丸みが強く、殻の模様は褐色の稲妻模様のある個体が大部分で色彩の変異も少ない。

分布： 韓国南部にも分布するがほぼ日本固有種。北海道南部から九州までの内湾の河口域の干潟から潮下帯に生息する。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。干潟の消失、水質汚濁などが減少要因と考えられる。

文献： 2. 6. 8. 47. 66. 68. 73. 87. 115.



(木村妙子・木村昭一)

ニッポンマメアゲマキ

二枚貝綱ウロコガイ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：NT

Galeomma sp.

旧県：準絶滅危惧 (NT)

選定理由： 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。1979年以前には本県より分布記録がない。現在、生浦湾、英虞湾、五ヶ所湾、紀伊長島町、尾鷲湾などで健全な個体群が確認されているが、生息場所は少なく、生息面積も小さい。本種は内湾奥の泥干潟の中潮帯に生息するため陸域の改変の影響を受けやすい。

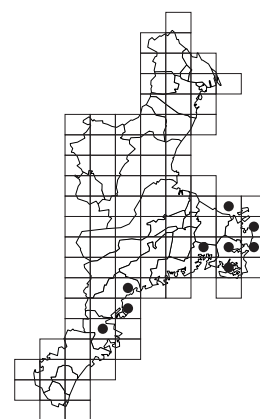
種の概要： 殻長10 mmの長い楕円形。殻は薄く半透明、白色から黄白色。生時は外套膜が殻をおおい、殻が開いた形で石の下面などに付着する。

分布： 房総半島から九州、朝鮮半島に分布する。外洋に面した内湾奥の砂泥質干潟周辺の深く埋もれた岩礫の下面に付着する。ミヤコドリと同所的に見られる場合も多い。

現況・減少要因： 現況は選定理由参照。減少要因として特に本種は干潟の高い部分に生息地があり、陸域の改変の影響を受けやすい。

保護対策： 英虞湾の生息地については、三重大学生物資源学部海洋生態学研究室による年間2回以上のモニタリング調査が行われている。

文献： 46. 62. 66. 72. 73. 76. 115.



(木村昭一・木村妙子)

ウロコガイ

二枚貝綱ウロコガイ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：NT

Lepirodes takii (Kuroda, 1945)

旧県：—

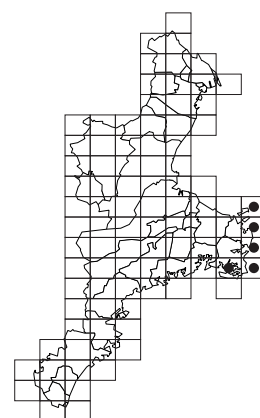
選定理由： 生息条件の悪化、分布域限定、希少。1979年以前には紀伊長島の潮間帯から潮下帯でのみ分布記録がある。現在、伊勢湾湾口部から鳥羽市南部の入江の転石地の低潮線から潮下帯で生貝が採集されている。ニッポンマメアゲマキより外洋側、かつ低い位置に分布域があり、垂直分布の幅はやや広いが、生息地、個体数共に非常に少ない。

種の概要： 殻長20 mm。殻は半透明で白色。殻表には放射状の多数の微小顆粒がある。生時は軟体部で殻がおおわれ、二枚の殻が大きく開いた状態で石の下面に付着している。

分布： 駿河湾、浜名湖、紀伊半島、瀬戸内海、高知県、九州西岸の外洋に面した潮通しの良い湾口部の転石地の低潮線から潮下帯の石や礫の下面に生息する。生息地は限られていて分断されている。どの生息地においても個体数は非常に少ない。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。上述したような生息環境の減少などが大きな減少要因と考えられる。

文献： 76. 87. 115.



(木村昭一)

マツモトウロコガイ

二枚貝綱ウロコガイ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：NT

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

Paraborniola matsumotoi Habe, 1958

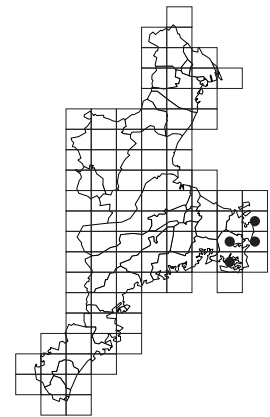
選定理由： 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化、分布域限定。本県からの正式な分布記録はない。現在、伊勢湾湾口部から県南部の内湾域の転石地の低潮線付近の石の下面で生貝が採集されている。ニッポンマメアゲマキより外洋側、ウロコガイよりは内湾寄りに分布域があり、垂直分布は低潮線付近に限定され狭い。生息地、個体数共に少ない。

種の概要： 殻長8 mm、殻は半透明で白色、殻頂部は褐色に染められていることが多い。成長脈はやや粗く、弱くまばらに放射状の微小顆粒がある。

分布： 房総半島から九州西岸に分布するが、近年生息が報告されているのは浜名湖、紀伊半島、淡路島、瀬戸内海、唐津湾、伊万里湾、佐世保市などで少ない。外洋に面した内湾の潮通しの良い転石混じりの礫底の石の下面に付着して生息する。ニッポンマメアゲマキ、ウロコガイのように生時も軟体部が殻表面をおおうことはない。また殻はほぼ閉じた状態で付着する。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。上述したような生息環境の減少などが大きな減少要因と考えられる。

文献： 76. 87. 115.



(木村昭一)

クシケマスオガイ

二枚貝綱オオノガイ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：NT

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

Cryptomya elliptica (A. Adams, 1851)

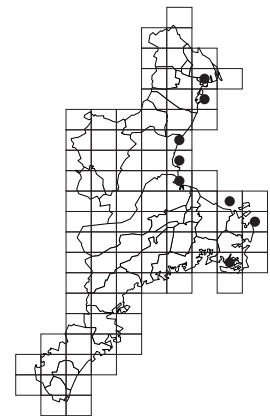
選定理由： 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。1979年以前には伊勢湾1か所から分布記録がある。伊勢湾沿岸では1980年代に潮間帯下部で生息が確認され、海岸に殻が大量に打ち上げられ本種の有数の生息海域として知られていたが、1990年代から個体数が激減した。その後2000年代に回復傾向が認められたが、年による個体数の変動が著しい。現在、伊勢湾沿岸から湾口部の海岸で、死殻は広い範囲で採集されているが、個体数は少ない。生貝の採集例は特に干潟では稀。英虞湾でも生貝が確認されているが個体数は非常に少ない。

種の概要： 殻長20 mm。白色円形、膨らみは弱い。殻は薄質で、殻表には細かい放射状の肋が密に走り、後端は開く。アナジャコ類の巣穴を利用していることが知られている。

分布： 伊勢湾から九州、南西諸島、インド・太平洋、黄海に分布する。南西諸島には健全な生息場所が比較的多く確認されている。

現況・減少要因： 現況は選定理由参照。干潟の消失、水質汚濁などが減少要因と考えられる。

文献： 2. 72. 73. 87. 115.



(木村昭一)

オキナガイ

二枚貝綱オキナガイ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

環境省：—

Laternula (Laternula) anatina (Linnaeus, 1758)

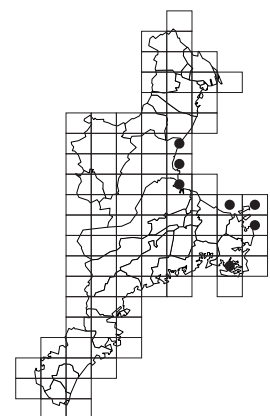
選定理由： 個体群・個体数の減少、生息条件の悪化。1979年以前に伊勢湾の潮間帯2か所、県南部の内湾域の潮間帯1か所より分布記録がある。現在、伊勢湾中部から湾口部、県南部の内湾域湾口部の潮下帯では広い範囲で生貝が採集されている。伊勢湾沿岸でも死殻は広い範囲で確認されるが、干潟で生貝が確認されている場所はない。

種の概要： 殻長50 mm。長楕円形。殻は白色半透明でよく膨らむ。殻質は非常に薄く壊れやすい。前後端は開口する。ソトオリガイと近似しているが、殻の丸みが強く、後端は急に細くなる。

分布： 東北地方から九州、中国大陸、インド・太平洋に分布する。内湾の干潟の干潮線から外洋に面した水深20 mの砂泥底に生息する。内湾の干潟では珍しい種になってしまったが、幸い現在でも外洋に健全な個体群が残されている。

現況・減少要因： 現状は選定理由参照。減少要因については、干潟の減少、水質汚濁などが考えられる。

文献： 25. 72. 73. 87. 115.



(木村昭一)

| | | | |
|---------|---|-------------------------------|-------------|
| 哺乳類 | キュウシュウゴマガイ 腹足綱ゴマガイ科 <i>Diplommatina tanegashimae kyusyuensis</i> Pilsbry & Hirase, 1904 | 三重県：情報不足 (DD) 旧県：— | 環境省：— |
| 鳥類 | 現在、北部の分布記録のみ。本種をゴマガイに誤同定した記録が多く、全域で再検討が必要。分布情報不足。(文献：18. 20.) | | (早瀬善正) |
| 爬虫類 | | | |
| 両生類 | トウカイヤマトガイ 腹足綱ヤマタニシ科 <i>Japonia katorii</i> Minato, 1985 | 三重県：情報不足 (DD) 旧県：— | 環境省：VU |
| 汽水・淡水魚類 | 三重県下で北部の記録のみ。本来、希産種だが、最近の確認記録が無く現状不明。(文献：18.) | | (早瀬善正) |
| 昆虫類 | | | |
| クモ類 | | | |
| 貝類 | ホラアナミジンナ 腹足綱ミズツボ科 <i>Moria nipponica</i> Mori, 1937 | 三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD) | 環境省：VU |
| 甲殻類 | 殻高1 mmほどの微小種で三重県南部1か所より生息が報告されたが、その後詳細な分布調査が行われていない。(文献：93.) | | (木村 昭一) |
| その他動物 | | | |
| EW | マメタニシ 腹足綱エゾマメタニシ科 <i>Parafossarulus manchouricus japonicus</i> (Pilsbry, 1901) | 三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD) | 環境省：VU |
| EW | 木曾岬町から生息記録はあるが、近年の生息情報はない。(文献：36. 87.) | | (中野 環) |
| CR | | | |
| EN | ヘソカドガイ 腹足綱カワザンショウ科 <i>Paludinellassiminea japonica</i> (Pilsbry, 1901) | 三重県：情報不足 (DD) 旧県：— | 環境省：— |
| VU | 海浜棲種で海浜植物の生える海崖に生息する。現状の確認地点数は少ない。未調査の沿岸域も多く情報不足。(文献：16. 17. 87.) | | (早瀬善正・木村昭一) |
| NT | | | |
| DD | オオウスイロヘソカドガイ 腹足綱カワザンショウ科 <i>Paludinellassiminea tanegashimae</i> (Pilsbry, 1924) | 三重県：情報不足 (DD) 旧県：— | 環境省：— |
| | 海浜棲種。波しぶきを受ける転石浜に生息。現状の確認地点数は少ない。未調査の沿岸域が多く情報不足。(文献：17.) | | (早瀬善正・木村昭一) |
| | ヒラドマルナタネ 腹足綱マキゾメガイ科 <i>Pupisoma harpula</i> Reinhardt, 1886 | 三重県：情報不足 (DD) 旧県：— | 環境省：— |
| | 三重県下で北部の記録のみ。常緑低木等の枝に付着。分布情報は殆どない。三重県下では希産種の可能性もある。(文献：18. 19. 41. 44.) | | (早瀬善正) |
| | ゼイギセル 腹足綱キセルガイ科 <i>Ventriphaedusa proba</i> (A.Adams, 1868) | 三重県：情報不足 (DD) 旧県：— | 環境省：— |
| | 三重県南部で確認された。分布情報が少なく希産種の可能性もある。志摩半島周辺での記録は再検討が必要。(口絵8 12). (文献：87. 127.) | | (早瀬善正) |
| | ヒラベッコウ類 腹足綱ベッコウマイマイ科 <i>Bekkoclamys</i> spp. | 三重県：情報不足 (DD) 旧県：— | 環境省：DD |
| | 県下にヒラベッコウとオオヒラベッコウの分布記録があり両種が対象。解剖学的検討なく、分布状況も不明。(文献：18. 44. 87.) | | (早瀬善正) |

| | | | |
|--|---------------|----------------------|--------|
| ハクサンベッコウ <i>Nipponochlamys hakusanus</i> (Pilsbry & Hirase, in Hirase, 1907) | 腹足綱ベッコウマイマイ科 | 三重県：情報不足 (DD) 旧県： | 環境省：DD |
| 三重県伊賀市の1記録のみ。県内の本属は、種定義となる解剖学的検討が殆ど行われておらず分布状況不明。(文献：12.) (早瀬善正) | | | |
| キヌツヤベッコウ <i>Nipponochlamys semisericata</i> (Pilsbry, 1902) | 腹足綱ベッコウマイマイ科 | 三重県：情報不足 (DD) 旧県： | 環境省：DD |
| 三重県の記録はあるが、解剖学的検討による正確な分類を行った本種の分布記録が皆無であり情報不足。(文献：12. 18. 41. 44. 87.) (早瀬善正) | | | |
| ハクサンベッコウ属の一種 (菅島産) <i>Nipponochlamys</i> sp. | 腹足綱ベッコウマイマイ科 | 三重県：情報不足 (DD) 旧県： | 環境省： |
| 鳥羽市(菅島)での記録のみ。常緑樹の林床、ガレ場の礫下で確認。未記載種であり半地下棲の希産種。(文献：16. 17.) (早瀬善正) | | | |
| ミノベッコウ <i>Nipponochlamys</i> sp. | 腹足綱ベッコウマイマイ科 | 三重県：情報不足 (DD) 旧県： | 環境省： |
| 岐阜県の石灰岩地のほか、三重県北部、多志田峡の記録のみ。未記載種であり希産。分布情報は殆どない。(文献：9. 18.) (早瀬善正) | | | |
| スカシエビス <i>Sukashitrochus carinatus</i> (A. Adams, 1862) | 腹足綱クチキレエビスガイ科 | 三重県：情報不足 (DD) 旧県： | 環境省：VU |
| 湾口部の潮下帯より死殻の採集記録はあるが、情報不足。絶滅危惧種として高いランクの種である可能性が高い。(文献：6. 115.) (木村昭一) | | | |
| セムシマドアキガイ <i>Rimula cumingii</i> A. Adams, 1853 | 腹足綱スカシガイ科 | 三重県：情報不足 (DD) 旧県： | 環境省：VU |
| 湾口部の潮下帯より死殻の採集記録はあるが、情報不足。絶滅危惧種として高いランクの種である可能性が高い。(文献：6. 115.) (木村昭一) | | | |
| キンランカノコ <i>Smaragdia souverbiana</i> (Montrouzier, 1863) | 腹足綱アマオブネ科 | 三重県：情報不足 (DD) 旧県： | 環境省：NT |
| 湾口部の潮下帯より死殻の採集記録はあるが、情報不足。偶因分布種の可能性がある。(文献：5. 115.) (木村昭一) | | | |
| ヌノメチョウジガイ <i>Rissoina (Phosinella) pura</i> (Gould, 1861) | 腹足綱リソツボ科 | 三重県：情報不足 (DD) 旧県： | 環境省：NT |
| 1979年以前に湾口部の潮下帯より分布記録があり、死殻も採集されているが、現状不明。(文献：57. 87. 115.) (木村昭一) | | | |
| タニシツボ <i>Voorwindia</i> cf. <i>paludinoides</i> Yokoyama, 1927 | 腹足綱リソツボ科 | 三重県：情報不足 (DD) 旧県： | 環境省：NT |
| 湾口部の潮下帯より死殻の採集記録はあるが、分類学的な再検討も必要で現状不明。(文献：115.) (木村昭一) | | | |

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

| | | | |
|---------|---|-----------------------|-----------|
| 哺乳類 | ゴマツボモドキ(シリオレミジンナ) 腹足綱ワカウラツボ科 <i>Hyala cf. bella</i> (A. Adams, 1853) | 三重県：情報不足 (DD) 旧県：— | 環境省：VU |
| 鳥類 | 湾口部の潮間帯より死殻の採集記録はあるが、現状不明。絶滅危惧種として高いランクの種である可能性もある。(文献：115.) | | |
| 爬虫類 | (木村昭一) | | |
| 両生類 | イリエツボ 腹足綱ワカウラツボ科 <i>Iravadia (Pseudonoba) yendoi</i> (Yokoyama, 1927) | 三重県：情報不足 (DD) 旧県：— | 環境省：CR+EN |
| 汽水・淡水魚類 | 1979年以前に四日市より分布記録はあるが、現在、死殻さえ採集されない。現状不明。(文献：115.) | | |
| 昆虫類 | (木村昭一) | | |
| クモ類 | ウミコハクガイ 腹足綱イソコハクガイ科 <i>Teinostoma lucida</i> (A. Adams, 1863) | 三重県：情報不足 (DD) 旧県：— | 環境省：VU |
| 貝類 | 湾口部の潮間帯より死殻の採集記録はあるが、現状不明。(文献：115.) | | |
| 甲殻類 | (木村昭一) | | |
| その他動物 | ナギツボ 腹足綱イソコハクガイ科 <i>Vitrinella</i> sp. | 三重県：情報不足 (DD) 旧県：— | 環境省：NT |
| EW | 英虞湾より生息を確認したが、最近知られた未記載種。かつ微小であるため生息調査が不十分である。(文献：115.) | | |
| EW | (木村昭一) | | |
| CR | フドロ 腹足綱スィショウガイ科 <i>Strombus robustus</i> Sowerby II, 1874 | 三重県：情報不足 (DD) 旧県：— | 環境省：NT |
| EN | 1979年以前に県南部の潮下帯より分布記録はあるが、現状不明。(文献：87. 115.) | | |
| VU | (木村昭一) | | |
| NT | ハツカネズミ 腹足綱シロネズミ科 <i>Macromphalus tornatilis</i> (Gould, 1859) | 三重県：情報不足 (DD) 旧県：— | 環境省：CR+EN |
| DD | 1979年以前に伊勢湾湾口部の潮下帯より分布記録はあるが、現状不明。絶滅危惧種として高いランクの種である可能性も高い。(文献：6. 87. 115.) | | |
| | (木村昭一) | | |
| | ハナツトガイ 腹足綱ハナツトガイ科 <i>Velutina pusio</i> A. Adams, 1860 | 三重県：情報不足 (DD) 旧県：— | 環境省：NT |
| | 伊勢湾湾口部の潮下帯より分布記録はあるが、外洋にも近似種が分布し、分類学的な再検討も必要で、現状不明。(文献：87. 115.) | | |
| | (木村昭一) | | |
| | カシパンヤドリナ 腹足綱ハナゴウナ科 <i>Hypermastus peronellicola</i> (Kuroda & Habe, 1950) | 三重県：情報不足 (DD) 旧県：— | 環境省：NT |
| | 湾口部の潮下帯より死殻の採集記録はあるが、ホストは湾口部潮下帯に比較的普通であるが、着生した例は知られていない。現状不明。(文献：87. 115.) | | |
| | (木村昭一) | | |
| | オマセムシロ 腹足綱オリレヨフバイ科 <i>Hima praematurata</i> (Kuroda & Habe in Habe, 1961) | 三重県：情報不足 (DD) 旧県：— | 環境省：VU |
| | 湾口部の潮下帯より死殻の採集記録(未発表資料)はあるが、現状不明。絶滅危惧種として高いランクの種である可能性も高い。(文献：24. 115.) | | |
| | (木村昭一) | | |

| | | | |
|--|------------|-----------------------|--------|
| イワカワトクサ <i>Duplicaria evoluta</i> (Deshayes, 1859) | 腹足綱タケノコガイ科 | 三重県：情報不足 (DD) 旧県：— | 環境省：VU |
|--|------------|-----------------------|--------|

湾口部の潮下帯より分布記録はあるが、現在死殻も非常に少ない。現状不明。(文献：87. 115.)

(木村昭一)

| | | | |
|---|------------|-----------------------|--------|
| シチクガイ <i>Hastula rufopunctata</i> (E. A. Smith, 1877) | 腹足綱タケノコガイ科 | 三重県：情報不足 (DD) 旧県：— | 環境省：NT |
|---|------------|-----------------------|--------|

県南部の潮下帯より分布記録はあるが、現状不明。県南部の生息域の調査が不十分。(文献：87. 115.)

(木村昭一)

| | | | |
|---|-----------|-----------------------|--------|
| コヤスツララ <i>Acteocina koyasensis</i> (Yokoyama, 1927) | 腹足綱スイフガイ科 | 三重県：情報不足 (DD) 旧県：— | 環境省：NT |
|---|-----------|-----------------------|--------|

近年志摩市1か所の潮間帯より生息が確認されている(未発表資料)が、分類学的な検討も不十分で現状不明。(文献：115.)

(木村昭一)

| | | | |
|--|-------------|-----------------------|--------|
| ヤミヨキセワタ <i>Melanochlamys</i> sp. | 腹足綱カノコキセワタ科 | 三重県：情報不足 (DD) 旧県：— | 環境省：DD |
|--|-------------|-----------------------|--------|

伊勢湾、県南部の内湾の潮間帯より生息記録はあるが、分類学的な検討が必要。(文献：115.)

(木村昭一)

| | | | |
|--|------------|-----------------------|--------|
| ヒガタヨコイトカケギリ <i>Cingulina</i> cf. <i>cingulate</i> (Dunker, 1860) | 腹足綱トウガタガイ科 | 三重県：情報不足 (DD) 旧県：— | 環境省：DD |
|--|------------|-----------------------|--------|

伊勢湾、県南部の内湾の潮間帯より生息記録はあるが、分類学的な再検討が必要で、現状不明。(文献：115.)

(木村昭一)

| | | | |
|--|------------|-----------------------|--------|
| シゲヤスイトカケギリ <i>Dunkeria shigeyasui</i> (Yokoyama, 1927) | 腹足綱トウガタガイ科 | 三重県：情報不足 (DD) 旧県：— | 環境省：NT |
|--|------------|-----------------------|--------|

湾口部の潮下帯より死殻の採集記録はあるが、現状不明。(文献：87. 115.)

(木村昭一)

| | | | |
|--|------------|-----------------------|--------|
| エバラクチキレ <i>Orinella ebarana</i> (Yokoyama, 1927) | 腹足綱トウガタガイ科 | 三重県：情報不足 (DD) 旧県：— | 環境省：NT |
|--|------------|-----------------------|--------|

湾口部の潮下帯より死殻の採集記録はあるが、現状不明。(文献：87. 115.)

(木村昭一)

| | | | |
|--|------------|-----------------------|--------|
| エドイトカケギリ <i>Turbonilla edoensis</i> Yokoyama, 1927 | 腹足綱トウガタガイ科 | 三重県：情報不足 (DD) 旧県：— | 環境省：NT |
|--|------------|-----------------------|--------|

湾口部の潮下帯より死殻の採集記録はあるが、現状不明。(文献：87. 115.)

(木村昭一)

| | | | |
|---|------------|-----------------------|--------|
| クラエノハマイトカケギリ <i>Turbonilla kuraenohamana</i> Horii & Fukuda, 1999 | 腹足綱トウガタガイ科 | 三重県：情報不足 (DD) 旧県：— | 環境省：NT |
|---|------------|-----------------------|--------|

比較的新しい種で、いままで県下よりの分布記録はない。英虞湾の潮下帯より生貝が採集されている(未発表資料)が調査不足。(文献：115.)

(木村昭一)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

| | | | |
|---------|--|----------------------|--------|
| 哺乳類 | サザナミマクラ 二枚貝綱イガイ科 <i>Modiolus flavidus</i> (Dunker, 1857) | 三重県：情報不足 (DD) 旧県： | 環境省：NT |
| 鳥類 | 伊勢湾の潮下帯より分布記録はあるが、分類学的な再検討も必要で現状不明。(文献：87. 115.) | | |
| 爬虫類 | (木村昭一) | | |
| 両生類 | ハイガイ 二枚貝綱フネガイ科 <i>Tegillarca granosa</i> (Linnaeus, 1758) | 三重県：情報不足 (DD) 旧県： | 環境省：VU |
| 汽水・淡水魚類 | 半化石の採集例はあるが、本県で明治時代以降に生息が確認されていたかどうかは不明。絶滅種の可能性もある。(文献：2. 115.) | | |
| 昆虫類 | (木村昭一) | | |
| クモ類 | ミクニシボリザクラ 二枚貝綱ニッコウガイ科 <i>Loxoglypta compta</i> (Gould, 1850) | 三重県：情報不足 (DD) 旧県： | 環境省：NT |
| 貝類 | 近年伊勢湾より死殻の採集記録はあるが、現状不明。最近分類学的な検討がなされた。(文献：77. 115.) | | |
| 甲殻類 | (木村昭一) | | |
| その他動物 | モモノハナ (エドザクラ) 二枚貝綱ニッコウガイ科 <i>Moerella jodoensis</i> (Lischke, 1867) | 三重県：情報不足 (DD) 旧県： | 環境省：NT |
| EW | 近年伊勢湾より死殻の採集記録はあるが、現状不明。もともと生息に適した環境が少なかった可能性もある。(文献：77. 87. 115.) | | |
| EW | (木村昭一) | | |
| CR | ヒラザクラ 二枚貝綱ニッコウガイ科 <i>Tellinides ovalis</i> Sowerby I, 1852 | 三重県：情報不足 (DD) 旧県： | 環境省：NT |
| EN | 近年伊勢湾より死殻の採集記録はあるが、現状不明。もともと生息に適した環境が少なかった可能性もある。(文献：77. 115.) | | |
| VU | (木村昭一) | | |
| NT | キュウシュウナミノコガイ 二枚貝綱フジノハナガイ科 <i>Donax (Tentidonax) kiusiuensis</i> Pilsbry, 1901 | 三重県：情報不足 (DD) 旧県： | 環境省：NT |
| DD | 近年志摩市の潮間帯より生息を確認した(未発表資料)が、本種の生息環境の調査不足で、現状不明。(文献：115.) | | |
| | (木村昭一) | | |
| | アシガイ 二枚貝綱シオサザナミ科 <i>Gari (Gari) maculosa</i> (Lamarck, 1818) | 三重県：情報不足 (DD) 旧県： | 環境省：NT |
| | 県南部の潮下帯より分布記録はあるが、現状不明。外洋域に生息域が残されている種である可能性もある。(文献：115.) | | |
| | (木村昭一) | | |
| | ワカミルガイ 二枚貝綱バカガイ科 <i>Mactrotoma (Electomactra) angulifera</i> (Reeve, 1854) | 三重県：情報不足 (DD) 旧県： | 環境省：NT |
| | 湾口部の潮下帯より死殻の採集記録はあるが、現状不明。絶滅危惧種として高いランクの種である可能性もある。(文献：115.) | | |
| | (木村昭一) | | |
| | ヒナミルクイ (ヒナミルガイ) 二枚貝綱バカガイ科 <i>Mactrotoma (Mactrotoma) depressa</i> (Spengler, 1802) | 三重県：情報不足 (DD) 旧県： | 環境省：VU |
| | 湾口部の潮下帯より死殻の採集記録はあるが、現状不明。絶滅危惧種として高いランクの種である可能性もある。(文献：115.) | | |
| | (木村昭一) | | |

| | | | |
|---|--------------|-----------------------|--------|
| ヤタノカガミ <i>Dosinia (Asa) troscheli</i> (Lischke, 1873) | 二枚貝綱マルスダレガイ科 | 三重県：情報不足 (DD) 旧県：— | 環境省：VU |
|---|--------------|-----------------------|--------|

湾口部の潮下帯より分布記録はあるが、現状不明。外洋域に生息域が残されている種である可能性もある。(文献：87, 115.) (木村昭一)

| | | | |
|---|------------|-----------------------|-----------|
| オキナノエガオ <i>Platomysia rugata</i> Habe, 1951 | 二枚貝綱ウロコガイ科 | 三重県：情報不足 (DD) 旧県：— | 環境省：CR+EN |
|---|------------|-----------------------|-----------|

湾奥部の潮下帯より死殻の採集記録はある(未発表資料)が、現状不明。絶滅危惧種として高いランクの種である可能性が高い。(文献：115.) (木村昭一)

| | | | |
|---|------------|-----------------------|--------|
| オサガニヤドリガイ <i>Pseudopythina macrophthalmensis</i> Morton & Scott, 1989 | 二枚貝綱ウロコガイ科 | 三重県：情報不足 (DD) 旧県：— | 環境省：NT |
|---|------------|-----------------------|--------|

英虞湾湾口部の潮下帯よりメナガオサガニ類に付着した生貝の採集記録はある(未発表資料)が、調査不足。(文献：24, 115.) (木村昭一)

| | | | |
|--|-------------|-----------------------|--------|
| シナヤカスエモノガイ <i>Thracia (Eximiothracia) concinna</i> Gould, 1861 | 二枚貝綱スエモノガイ科 | 三重県：情報不足 (DD) 旧県：— | 環境省：VU |
|--|-------------|-----------------------|--------|

湾口部の潮下帯より分布記録はあるが、現状不明。外洋域に生息域が残されている種である可能性もある。(文献：115.) (木村昭一)

| |
|---------|
| 哺乳類 |
| 鳥類 |
| 爬虫類 |
| 両生類 |
| 汽水・淡水魚類 |
| 昆虫類 |
| クモ類 |
| 貝類 |
| 甲殻類 |
| その他動物 |
| EX |
| EW |
| CR |
| EN |
| VU |
| NT |
| DD |

文 献

哺乳類

鳥 類

爬虫類

両生類

汽水・
淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝 類

甲殻類

その他
動物

EW

EW

CR

EN

VU

NT

DD

1. 阿部 茂. 1986. 軟体動物陸水産貝類. pp. 545-556. In: 三重県その自然と動物. 三重県良書出版会, 津.
2. 愛知県. 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち 2009動物編. 愛知県環境部自然環境課, 愛知県, 651 pp.
3. 千葉県. 2000. 千葉県の保護上重要な野生生物. 千葉県レッドデータブック動物編: 438 pp.
4. Fukuda, H. & Ekawa, K., 1997. Description and anatomy of a new species of the Elachisinidae (Caenogastropoda: Rissosoidea) from Japan. The Yurियagai, Journal of the Malacozoological Association of Yamaguchi, 5(1/2): 69-88.
5. 福田 宏・藤野睦子・江田伸司. 2014. 岡山県倉敷市高洲で生貝が見出されたウミヒメカノコ (腹足綱: アマオブネ科), ならびに同種とキンランカノコ・レモンカノコを巡る同定の混乱. 倉敷市自然史博物館研究報告, 29: 29-38.
6. 濱村陽一. 2004. 芸南の海産貝類図鑑. 蘭島文化振興財団, 広島, 222 pp.
7. 濱村陽一・木村昭一. 2014. マガキを宿主とするイソチドリ, かきつばた, 39: 41-42.
8. 葉山しおさい博物館. 2001. 相模湾レッドデータ貝類. 葉山しおさい博物館, 葉山, 104 pp.
9. 早瀬善正. 2004. 岐阜県(金生山山麓)産ハクサンベッコウ属の一種. かきつばた(名古屋貝類談話会誌), 30: 8-10.
10. 早瀬善正. 2008. 静岡県清水区能島遊水地におけるナガオカモノアラガイの生活史. 兵庫陸水生物, 60: 151-157.
11. 早瀬善正・影山良祐・木村昭一. 2013. 庵原川河口域(静岡市)の貝類相 特に北進分布記録を含むアマオブネ型類5種について, かきつばた, 38: 23-32.
12. 早瀬善正・木村昭一. 2014. 三重県初記録のハクサンベッコウ. かきつばた, 39: 37-40.
13. 早瀬善正・木村昭一・河辺訓受. 2008. 三重県鳥羽市神島における陸・淡水産貝類相調査. かきつばた, 33: 10-16.
14. 早瀬善正・木村昭一・河辺訓受. 2011. 室生寺周辺地域(奈良県宇陀市室生区)の陸産貝類相. かきつばた, 36: 1-14.
15. 早瀬善正・木村昭一・河辺訓受. 2015. イノウエヤマトガイの三重県北部における新分布記録. Venus, 73(1-2): 79-83.
16. 早瀬善正・木村昭一・河辺訓受・守谷茂樹. 2008. 三重県鳥羽市菅島における陸・淡水産貝類相調査. かきつばた, 33: 40-46.
17. 早瀬善正・木村昭一・河辺訓受・守谷茂樹. 2008. 三重県鳥羽市菅島における陸・淡水産貝類相調査追加報告. かきつばた, 34: 30-34.
18. 早瀬善正・木村昭一・河辺訓受・矢橋 真・守谷茂樹・西 浩孝・岩田明久. 2014. 藤原岳・多志田峽・御池岳その周辺地域の陸産貝類相. かきつばた, 39: 1-24.
19. 早瀬善正・木村昭一・河辺訓受・矢橋 真・守谷茂樹・西 浩孝・岩田明久・亀田勇一. 2013. 藤原岳とその周辺地域の陸産貝類調査報告. かきつばた, 38: 1-15.
20. 早瀬善正・木村昭一・河辺訓受・矢橋 真・守谷茂樹・西 浩孝・川瀬基弘・岩田明久. 2012. 御池岳の陸産貝類調査報告. かきつばた, 37: 1-11.
21. 早瀬善正・木村昭一・川瀬基弘. 2012. 面ノ木原生林のベッコウマイマイ科3種. かきつばた, 37: 28-35.
22. 早瀬善正・多田 昭. 2013. 奈良県十津川村(タイプ産地)のヒメビロウドマイマイの特徴, および紀伊半島各地の個体群との比較. ちりばたん, 42(1-4): 22-29.
23. 早瀬善正・種倉俊之・松永育之・長谷川貴大・山崎喬之・野場俊樹・神谷武之・吉川 尚. 2013. 三河湾に生息するモロハタマキビの形態的特徴と生活史. Venus, 71(1-2): 150.
24. 早瀬善正・上野信平・松永育之・社家間太郎. 2009. 駿河湾久連地先におけるオサガニヤドリガイの分布記録. ちりばたん40(1): 15-19.
25. 秀島佑典・木村妙子・木村昭一・佐藤達也. 2014. 生浦湾における貝類群集と底質環境の季節変動. Venus, 72(1-4): 139.
26. 平野尚浩・亀田勇一. 2014. 三重県南部から新たに記録されたシロモリサキギセル. ちりばたん, 45(1): 31-35.
27. Hirano, T., Kameda, Y., Kimura, K. & Chiba, S. 2014. Substantial incongruence among the morphology, taxonomy, and molecular phylogeny of the land snails *Aegista*, *Landouria*, *Trishoplita*, and *Pseudobuliminus* (Pulmonata: Bradybaenidae) occurring in East Asia. Molecular Phylogenetics and Evolution, 70: 171-181.
28. 堀口敏広. 1998. インボセックス巻貝類における雌の雄化現象. 海洋と生物, 17: 283-288.
29. 飯田市美術博物館. 2014. 長野県産陸生・淡水生貝類飯島国昭コレクション(飯田市美術博物館自然資料目録第2集). 飯田市美術博物館, 飯田市, 147 pp.
30. 市橋 甫・鈴木慎一. 1959. 紀北, 紀南の陸貝類. 熊野灘沿岸国立公園調査報告, XI: 149-151.
31. 伊藤有明. 1986. 貝類(軟体動物門, 腹足綱). pp. 226-236. In: 大宮町史 自然編. 大宮町, 大宮.
32. Kajiyama, H. & Habe, T. 1961. Two new forms of the Japanese Malanians, *Semisulcospira*. Venus, 21(2): 167-176.
33. 亀田勇一. 2013. 紀伊半島産ニッポンマイマイ種群の分類学的再検討. Venus, 71(1-2): 136-137. (日本貝類

- 学会平成24年度大会（東京）研究発表要旨).
34. Kameda, Y. & Kato, M. 2011. Terrestrial invasion of pomatopsid gastropods in the heavy snow region of the Japanese Archipelago. *BMC Evolutionary Biology*, 11: 118. (<http://www.biomedcentral.com/14712148/11/118>)
 35. 亀田勇一・川北 篤・加藤 真. 2008. 「ホラアナゴマオカチグサ」は洞窟ごとに別種である. *Venus*, 67(1 2): 99.
 36. 環境省（編）. 2005. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブック 6. 陸・淡水産貝類. 自然環境研究センター, 東京, 402 pp.
 37. 狩野泰則. 2006. コハクカノコ科貝類概説. *ちりぼたん*37(3): 135 146.
 38. Kano, Y., Sasaki, T. & Ishikawa, H. 2001. *Neritilia mimotoi*, a new neritiliid species from an anchialine lake and estuaries in southwest Japan. *Venus*, 60: 129 140.
 39. 柏木健司・湊 宏. 2014. 三重県大紀町阿曾カルストから得られたカギヒダギセル（有肺類, キセルガイ科）. *南紀生物*, 56(1): 62 65.
 40. 柏木健司・狩野彰宏. 2014. 三重県大紀町阿曾カルストの霧穴（鍾乳洞）洞口付近の陸産貝類相. *南紀生物*, 56(1): 34 39.
 41. 加藤次雄・鈴木慎一. 1959. 藤原岳の蝸牛. *三重生物*, 9: 27 31 (+2pls.).
 42. 加藤次雄・鈴木慎一. 1959. 鈴鹿山脈の陸貝. *三重生物*, 9: 97 110.
 43. 加藤次雄・鈴木慎一. 1960. 石大神の風穴の生物調査. *三重生物*, 10: 43 45.
 44. 加藤次雄・鈴木慎一. 1961. 三重県の陸棲貝. *三重生物*, 11: 3 8.
 45. 加藤次雄・鈴木慎一. 1963. 鈴鹿山脈の陸貝. 鈴鹿山脈自然科学調査報告書, pp. 97 110. 三重県自然科学研究会, 津.
 46. 河辺訓受. 2000. 志摩地方採集・観察調査会報告. *かきつばた*, 26: 21 27.
 47. 河辺訓受. 2002. 北勢地方淡水貝, 汽水貝観察調査会報告. *かきつばた*, 28: 29 30.
 48. 河辺訓受. 2013. 平成24年春季観察調査会報告. *かきつばた*, 38: 64 65.
 49. 河辺訓受. 2014. 平成25年春季観察調査会報告. *かきつばた*, 39: 54 55.
 50. 河合秀高. 2009. 名古屋港のサンドポンプで得られた貝. *かきつばた*, 34: 20.
 51. 木村昭一. 1980. 垂水周辺のシマメノウフネガイについて. *かいなかま* (阪神貝類談話会誌), 16(2): 15 16.
 52. 木村昭一. 1983. 鳥羽市小浜の刺網の貝類相. *こむらさき*, 8: 76 88.
 53. 木村昭一. 1984. 伊勢湾沿岸オカミミガイ科貝類最新生息状況. *かいなかま*, 18(1): 1 3.
 54. 木村昭一. 1987. ワカウラツボを有明海にて採集. *南紀生物*, 29(2): 95.
 55. 木村昭一. 1993. 三重県新記録の貝類(I). *ちりぼたん*, 23(2): 33 38.
 56. 木村昭一. 1994. 東海地方の淡水貝類相. 全国高等学校水産教育研究会研究彙報, 33: 14 34.
 57. 木村昭一. 1995. 日間賀島南部海岸の潮間帯付近の軟体動物相. 全国高等学校水産教育研究会研究彙報, 34: 16 27.
 58. 木村昭一. 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 全国高等学校水産教育研究会研究彙報, 35: 3 19.
 59. 木村昭一. 2000. 愛知県より初めて採集されたカタマメマイマイ. *かきつばた*, 26: 11 13.
 60. 木村昭一. 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類（予報）. *かきつばた*, 26: 18 20.
 61. 木村昭一. 2004. 津市周辺河口域で採集された希少貝類. *かきつばた*, 25: 15 20.
 62. 木村昭一. 2004. 紀伊長島町片上池の貝類. *かきつばた*, 29: 38 40.
 63. 木村昭一. 2006. 愛知県におけるミズゴマツボの産出記録. *かきつばた*, 32: 22 27.
 64. 木村昭一. 2006. 紀伊長島町片上池の貝類 続報. *かきつばた*, 32: 28 32.
 65. 木村昭一. 2007. 日本本土に分布するトガリコウシオガイ. *ちりぼたん*, 38(1 2): 27 31.
 66. 木村昭一. 2008. 五ヶ所湾観察・調査報告. *かきつばた*, 33: 51 54.
 67. 木村昭一. 2009. 三重県南部の小河川に生息するツバサコハクカノコ. *ちりぼたん*, 39(3 4): 142 145.
 68. 木村昭一. 2010. 軟体動物. In: 名古屋市動植物実態調査検討会（監修）. 2010. レッドデータブックなごや 2010 2004年版補遺一. 316 pp. 名古屋市環境局環境都市推進部生物多様性企画室, 名古屋.
 69. 木村昭一・早瀬善正. 2013. 三重県におけるミズゴマツボの生息記録. *かきつばた*, 38: 44 46.
 70. 木村昭一・河辺訓受・矢橋 真. 2007. 浜名湖で採集されたオウギウロコガイ. *ちりぼたん*, 38(1 2): 24 26.
 71. 木村昭一・木村妙子. 1999. 三河湾および伊勢湾河口域におけるアシ原湿地の腹足類相. *日本ベントス学会誌*, 54: 44 56.
 72. 木村昭一・木村妙子. 2004. 豊かな内湾の貝類相—三重県英虞湾—. *Venus*, 63(1 2): 71.
 73. 木村昭一・木村妙子. 2013. 貝類, pp. 118 184. In: 鈴木孝男・木村昭一・木村妙子・森 敬介・多留聖典, 干潟ベントスフィールド図鑑, 257 pp. 日本国際湿地保全連合, 東京.
 74. 木村昭一・木村妙子. 2013. 石灰岩採掘による三重県指定希少野生動植物種カナマルマイマイの生息地破壊の危機. *Venus*, 71(1 2): 160 161. (日本貝類学会平成24年度大会（東京）研究発表要旨).
 75. 木村昭一・中西尚文. 1997. 東海地方に分布するオトコタテボシ属の1種. *ちりぼたん*, 27(2): 41 48.
 76. 木村昭一・佐藤達也. 2012. 豊かな内湾の貝類相6—三重県鳥羽市南部入江—. *Venus*, 70(1 4): 69.
 77. 木村昭一・縮次美穂. 2009. 津市田中川河口において打ち上げ採集で得られた貝類. *かきつばた*, 34: 27 29.

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

78. 木村昭一・山本妙子. 1990. マゴコロガイを伊勢湾で採集. ちりばたん, 21(1,2): 12-13.
79. 小林 哲. 2012. 玄界灘の砂浜海岸におけるナミノコガイの成長と分布様式. 日本ベントス学会誌, 66: 93-101.
80. 駒田廣正. 1972. 大台ヶ原山および大杉谷の陸貝. 大杉谷・大台ヶ原自然科学調査報告書, pp. 191-194. 三重自然科学研究会, 津.
81. 駒田廣正. 1974. 奥香肌峡の陸貝類. pp. 95-98. In: 台高山脈北部ならびに奥香肌峡一帯自然科学調査報告. 三重県立博物館自然科学調査報告書 第5報.
82. Kondo. 1998. Revision of the Genus *Inversiunio* (Bivalvia: Unionidae). Venus, 57(2): 85-94.
83. 近藤高貴. 2008. 日本産イシガイ目貝類図譜. 日本貝類学特別出版物. 日本貝類学会. 3: 69 pp.
84. 久保弘文・伊藤有明・浦中秀人・木村昭一. 1983. 三重県産陸産貝類. こむらさき, 三重大学生物研究会. 8: 39-71.
85. 増田修・内山りゅう. 2004. 日本産淡水産貝類図鑑②汽水域を含む全国の淡水貝類. ピーシーズ, 東京, 240 pp.
86. 松本幸雄. 1959. 熊野灘沿岸の貝類. 熊野灘沿岸国立公園調査報告, XI, pp. 123-148.
87. 松本幸雄. 1979. 三重の貝類 (三重県産貝類目録), 鳥羽水族館, 鳥羽, 179 pp.
88. 三重県, 2006. 三重県レッドデータブック2005 動物. (財) 三重県環境保全事業団, 津, 498 pp.
89. 湊 宏. 1980. ヤマメタニシ その形態・生態・分布. 南紀生物, 22(2): 77-79.
90. 湊 宏. 1988. 日本陸産貝類総目録. 同刊行会, 白浜, 294 pp.
91. 湊 宏. 1994. 日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究. 貝類学雑誌, [別巻2]: 6tabs. +74pls. + 211.
92. 湊 宏. 2003. 和歌山県に分布するピロウドマイマイ属貝類. 南紀生物, 45(2): 110-114.
93. 湊 宏. 2004. 三重県南部の久木崎でホアラナミジンナを記録する. かきつばた, 30: 1-2.
94. 湊 宏. 2006. 紀伊長島"大島"から採取されたウロコマイマイ (新種). Venus, 65(3): 259-262.
95. Minato, H. 2014. A new Clausiliid, *Tyrannophaedusa* (*Aulacophaedusa*) *matsumurai* n. sp. (Gastropoda: Pulmonata) from Northern area of the mountainous region of the Kii Range, Japan. Venus, 72(1-4): 131-134.
96. 三本建二. 2002. コハクカノコ属の1種. pp. 410-411. In: 高知県レッドデータブック[動物編]. 高知県文化環境部環境保全課, 高知, 470 pp.
97. 宮下 直・井鷲裕司・千葉 聡. 2012. 生物多様性と生態学 遺伝子・種・生態系. 朝倉書店, 東京, 176 pp.
98. 守谷茂樹・河辺訓受. 2013. 三重県, 愛知県で確認されたミズコハクガイ. かきつばた, 38: 50-51.
99. 中 優. 2003. 祓川および周辺域の淡水貝類・陸産貝類. (財) 三重県環境保全事業団研究報告, 9: 71-74.
100. 中 優. 2007. ノミガイの三重県における初記録. ちりばたん. 日本貝類学会. 37(4): 217.
101. 中 優. 2013. 原生林にすむカスガコギセル. p. 123. In: つし自然ガイドブック (三重自然誌の会, 編), 三重自然史の会, 津.
102. 中野 (中) 大三郎. 1994. 第4章動物第9節淡水貝類. pp. 650-659. In: 上野市史自然編, 上野市, 上野.
103. 中野 環. 2000. 津市の干潟におけるオチバガイ *Psammotaea virescens* の生息記録. 三重自然誌, 6: 73-75.
104. 中野 環. 2001. 雲出川高潮堤防工事に伴うオカミミガイ *Ellobium chinensis* 生息地の破壊. 三重自然誌, 7: 103-109.
105. 中野 環. 2005. 三重県尾鷲市賀田湾の貝類. 自然誌だより, 65: 2.
106. 中野 環. 2007. 三重県におけるフジノハナガイ科貝類3種の分布. 三重自然誌. 11: 109-111.
107. 中野 環. 2007. 三重県におけるワカウラツボの新たな産地. 自然誌だより, 72: 4-5.
108. 中野 環. 2011. 三重県におけるベニゴマガイの分布. ちりばたん, 41(3-4): 99-102.
109. 中野 環. 2014. 帰ってきたムラサキガイ. 自然誌だより, 102: 13.
110. 中野 環・中 優. 2001. 鳥羽市菅島の陸・淡水産貝類. 三重自然誌, 7: 53-54.
111. 中野 環・中 優. 2006. 三重県における希少な貝類および甲殻類の生息記録. 紀伊半島の野生生物, 8: 9-28.
112. 中野 環・中 優・帝釈 元・岡 由佳里・芦刈治将・上野早苗. 2004. 英虞湾における注目すべき貝類および甲殻類の記録. 三重自然誌, 8/9/10: 33-37.
113. 中野恒夫. 1991. 干潟の生物と探鳥会. 三重動物学会会報, 14: 19-20.
114. 中野恒夫. 1997. 松名瀬海岸の貝類. pp. 16-17. In: みえの生物定点調査報告書, 1996年度・海辺, 三重県, 津.
115. 日本ベントス学会編. 2012. 干潟の絶滅危惧動物図鑑—海岸ベントスのレッドデータブック. 東海大学出版会, 秦野. 285 pp.
116. 西 浩孝. 2010. 三河湾で絶滅危惧種の二枚貝ウミタケの生息を確認. 豊橋市自然史博物館研究報告, 20: 15-17.
117. 大垣内宏. 1960. 伊勢神宮々域林の陸貝. 三重生物, 10: 53-55.
118. 佐藤達也・木村昭一. 2011. 三重県鳥羽市に残されていたシノミミミガイの繁殖地. かきつばた, 36: 49-52.
119. 佐藤達也・木村昭一. 2013. 三重県伊勢湾湾口域におけるイガイの生息状況. かきつばた, 38: 35-40.
120. 杉谷房雄・阿部 茂. 1951. 神宮宮域林産陸貝目録. 神宮農業館, 伊勢, 4 p.
121. 鈴木慎一・市橋 甫. 1968. 平倉演習林の陸貝類目録. 三重大学農学部演習林資料.
122. 富田靖男. 2003. 第三章三雲町の動物. In: 三雲町史第1巻通史編. 三雲町.
123. 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏. 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3: 182 pp.

124. 和歌山県. 2001. 保全上重要なわかやまの自然 和歌山県レッドデータブック, 和歌山県環境生活部環境生活総務課, 和歌山, 428 pp.
125. Yamashita, H., Okamoto, M., Harato, M. and H. Fukuda. 1997. The present status and conservation values of endangered mollusks in tidal flats and estuaries of Japan, 1. *Tellina (Serratina) capsoides* (Bivalvia: Veneroida: Tellinidae). *The Yuriyagai*, 5: 101-115.
126. 吉崎和美・山下博由. 2005. 熊本県天草・羊角湾の貝類と主要な生物相について 第二報. 天草自然研究会, 81 pp.
127. 財団法人自然環境研究センター (編). 2010. 自然環境保全基礎調査動物分布調査日本の動物分布図集. 環境省自然保護局生物多様性センター, 富士吉田, 1070 pp.

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD